

業務資料 No.306

# 昭和46・47年度営農指導実施報告書

昭和49年7月

海外移住事業団

E4

国際協力事業団	
受入 月日 '84. 4. 10	700
	80.7
登録No. 03240	EM

## 目 次

### 第1部 昭和46年度営農普及指導実施報告書

I	ベレーン支部	2
II	レシーフェ支部	12
III	サンパウロ支部	18
IV	サンタクルス支部	20
V	アスンシオン支部	52
VI	サントドミンゴ支部	70

### 第2部 昭和47年度営農普及指導実施報告書

I	レシーフェ支部	74
II	サンパウロ支部	134
III	アスンシオン支部	144
IV	サントドミンゴ支部	176
V	ブエノスアイレス支部	182

JICA LIBRARY



1053298[4]

第 1 部

昭和46年度営農普及指導実施報告書

1 ベレーン支部

第2 トメマサー試験農場  
 営農普及活動実施報告書

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区名又は研究グループ名	対象件数又は実施回数
4	胡椒栽培法 (試験成績等から)	講習会見学	アカラ入植者	23名
	・ 胡椒の施肥法	講習会	第2 トメマサー	50名
5	胡椒及び蔬菜栽培法	質疑応答見学	ケンボテア(ベレン 郊外)入植者	1名
	・ ウイルス病診断	戸別	第2 トメマサー	2件
	・ 胡椒栽培法	講義 実地指導	ACAR AM職員 (アマゾナス地方 蔬菜指導員)	1名
6	胡椒病害の調査と対策	実地指導	第2 トメマサー	全戸
6	胡椒調製法, 特に衛生上の留意事項	講習会	第2 トメマサー	全戸
7	胡椒病害の診断と対策	戸別 実地	第2 トメマサー	7戸
8	胡椒病害とその対策	講習会 実地	グアス カスターニアル	全戸 全戸

成		果		摘 要
当初目標	実現した成果	実現出来なかった要因		
<p>施肥に関する基本的考え方と合理的な施肥法</p> <p>胡椒栽培のすべてをしらしめる</p> <p>病木の有無を調査し抜取あと処理を行なわせる</p> <p>衛生的取扱いを周知徹底させる</p> <p>病名を確定、その対策を実施せしめる</p> <p>病害について認識せしめ対策を徹底実施せしめる</p>	<p>マナウス支所管内の営農指導を通じ実効があがっている。</p> <p>調査は完全に行なわれたが抜取及びあと処理は必ずしも完全でなかった 大</p> <p>直ちに実施</p> <p>グアムは病害の初期であった関係から対策は直ちに実行されたがカスターニールは既に流行伝染が激しく且つ各戸の栽培本数も多いので対策の実施が徹底せず実行を上げるには程遠い。</p>	<p>当時すでに実をつけていたため収穫後にまわそうとする傾向を生じた。</p>	<p>第2トメアス入植者宅へ分宿2日間</p> <p>4日間</p> <p>講師：トメアス産組 坂口理事</p>	

月 日	普及指導事項	普及の方法	対象地区名又は 研究グループ名	対象件数 又は 実施回数
9	胡椒胴枯病対策	戸別	第2トメアス	3件
9	胡椒の施肥法	戸別	第2トメアス—	2件
10	胡椒病害の診断法と対策	スライド映写質疑応答	カスタニール	全戸
	・病害対策	戸別	第2トメアス—	5件
11	病害調査と対策	—	第2トメアス—植物 防疫委員会	
	・胡椒苗のとり方	突地 苗領布	第2トメアス—新入 植者等	2件
	・苗床管理	実施	同上	1件
	・胡椒病害診断	実施	第2トメアス—	3件
	・養豚	仔豚領布	同上	2件
12	同上	同上	同上	同上
1	農家経営と日記記入要領	戸別	同上	4件
	・排水溝について	同上	同上	1件

成		果	
当初目標	実現した成果	実現出来なかった要因	摘 要
病木除去	実施した。		
診断のポイントを会得せしめる			
調査と対策を実施する	ほとんどの所期の成果をあげ従来の実績もあって第2トメアスーは農務省による調査及び抜取実施対象地域から除外された。		
適切な管理法を会得せしめる。	一部不満足な状態となったのでやりなおし指導し所期の成果を得た		
病害を診断し対策を立てる	診断の結果伝染病でないので必要事項を指導した。		
養豚を普及し産肥を生産せしめる	配布先で好結果を得ている		
同上	同上		
合理的な排水溝を附設する	機械の都合により未実施		



月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区名又は研究グループ名	対象件数又は実施回数
2	カ、オの疵病	戸別 種子頒布	同上	15件
	胡椒栽培のポイント 第2作物	支部管内育壮年農事講習会	管内入植者	
3	丁字について	戸別 苗頒布	第2トメアスー	10件
	胡椒施肥法	戸別		1件
	農産品評会準備	—	第2トメアスー入植 10年祭品評会担当 委員会	
	柑橋熱帯果樹の導入 配布	あつせん	第2トメアスー	全戸

成 果			摘 要
当 初 目 標	実 現 し た 成 果	実 現 出 来 な か っ た 要 因	

## 普及活動上の反省と所感

普及、指導活動の反省と今後の方向（管内農業の方向との関連において）についての所感

昨年度末から今年8月にかけて、病気のため雇員が長期欠勤するという事態が生じた。

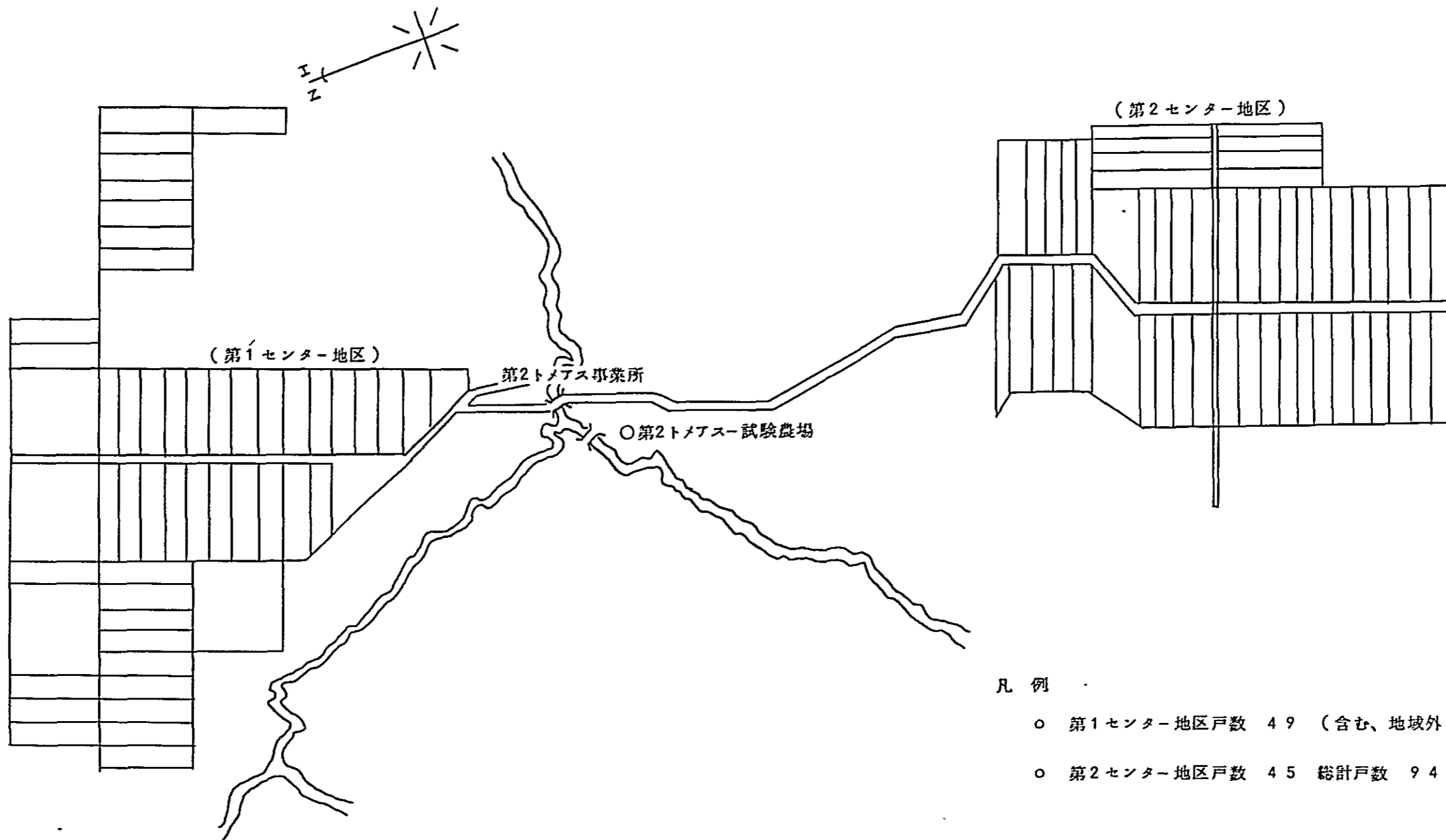
このことは、大きな組織であれば何も殊更のことでないことも知れないが、場長も含め定員2名の当試験農場の場合ではかなりこたえる状態といえた。

しかも、後に出動できるようになってももとの通りの業務遂行は無理という状態が続き、一方、病害対策などベレン近郊その他からの要請も多く且つゆるがせにできない普及指導の面は平時同様にこれを行なったのでいきかえり爽やかな面は相当割愛せざるを得ないこととなった。

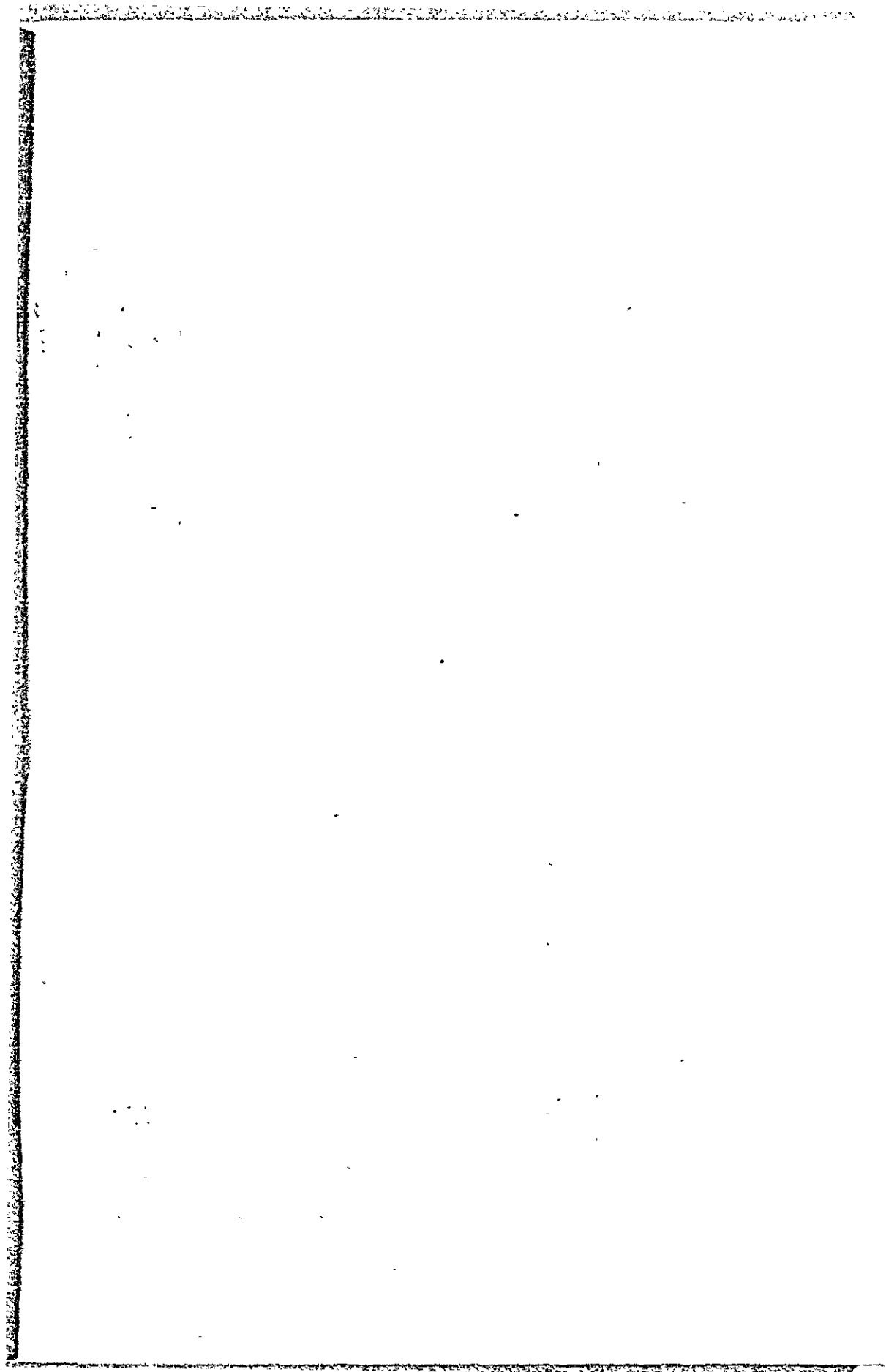
試験農場に対する周囲の要求と期待の大きさに反し、それにこたえるべくしては余りに不十分な、貧弱ともいえる態勢であること毎年述べている通りであるが今年度はその無理の影響が露呈したといつてよいであろう。

態勢の強化が成らないのであれば、自ら業務範囲の縮小は避けられないこととなるが問題点とそれを解決する方策の少しでも明らかた、そして入植者自身がそれなりに多くの努力を払ってき、また払いつゝある当地の場合は、そうした消極化つ方向へではなく、寧ろ重点的の意味での積極的措置がなされることを期待してやまない。

営農普及担当区域略図  
 (第2トメアス-地区のみについて)



- 凡例
- 第1センター-地区戸数 49 (含む、地域外)
  - 第2センター-地区戸数 45 総計戸数 94



II レシーフェ支部

46年度営農普及活動実績報告書

月別	巡回指導			営業相談		
	対象地区	回数件数	指導事項	事項	対象	件数
4月	ピウン	1回 7戸	営農計画	柑橘の葉集について	レシーフェ	1
				営農計画の樹て方	カーボ	1
				永年作物の導入について	ボニート、ガビラーベ	2
5月	ピウン	1回 7戸	経営診断更生対策	土地利用について	レシーフェ	1
	リオ・ボニート	1回 13戸	経営診断営農計画	土地購入について	カーボ	1
6月	ピオ12世	1回 5戸	養鶏飼養技術と規模	作付規模と経営	ボニート、ピウン	3
	リオ・ボニート	1回 15戸	経営診断・土地利用			
	カーボ	1回 6戸	全 上			
7月	なし			カジュウとココ椰子 栽培について	レシーフェ	1
8月	J・K	1回 52戸	経営診断	経営の進め方と作付	ボニート	1
	イツペラ	1回 5戸	全 上	そ菜及蚜虫の防ぎ方	ボニート	2
	ウナ	1回 22戸	全 上			
9月	ピオ12世	1回 5戸	経営診断	トマトの落花について	レシーフェ	1
	ピウン	1回 7戸	全 上	人参のネマトダについて	レシーフェ ボニート	2
10月	リオ・ボニート	1回 13戸	全 上	値の立枯について	レシーフェ	1
	リオ・ボニート	1回 17戸	経営診断	営農計画	ボニート、カ ビラーベ イツペラ	3
	ガビラーベ 他	1回 4戸	全 上			
				繭虫耕種防除	ボニート	2
				べ州での胡椒栽培	ボニート、レ シーフェ	3

資 料 配 市			種 苗 あ っ せ ん		
資 料 名	配 市 先	部 数	品 目	対 象	数 量
土壌の酸性と中和について (その2)	全9地区	250	モ菜 種子	カーボ ラバ	2件 0.5Kg
マラクジャの栽培要点		5			
肉桂について	ウナイツペラJK	6			
ガンビル(阿仙莠)について	ウナ	2	クロクラリア(緑肥)種子	リオポニート	2件 0.3Kg
養鶏収支計画と鶏病対策	ピウン	3	イヤーメ種竿	ピウン	2件 13Kg
地年度経営調査結果報告	ポニートウナイ ペラ J・K	6			
ジャマイカ胡椒について	ウナ、イツペラ J・K	43	丁字種子	ベレン郊外	1件 2K
ウルター作物について	ピウン	2	〃	レシーフェ	1件 2K
			果樹類苗木	リオポニード	15件
	イツペラ	2	マラクジャ種子	南バイヤ	1件 0.1Kg
カジュウ栽培の要点	レシーフェ	1			
胡椒のヴェールマ病について	全9地区	250			
	ウナ、イツペラ	4			
カジュウ栽培の要点	ピウン、レシーフェ	10	な し		
ココ椰子について	南バイヤ	5			
T字栽培の要点	ベレン支部	2	マラクジャ種子	イツペラ J・K	2件 10.1Kg
農薬の使い方	南バイヤ レシーフェ	4			
カジュウ栽培について	ピウン	7			
胡椒栽培の要点	レシーフェポニ ート	4	な し		
褐変について	南バイヤ	1			

月別	巡回指導			営業相談		
	対象地区	回数件数	指導事項	事項	対象	件数
11月	なし	なし	なし	なし		
12月	ビウン	1回 3戸	更生(養鶏・花卉) 普及 委託栽培管理	イヤメの芯枯 マラグレヤの花振り	リオ・ポニ "	1 1
	ウナ	1回 26戸	経営診断	マモンの芯植について	レンフェ	1
	ノバピソザ	1回 11戸	全 上			
1月	なし			マモンの品種と特長	レンフェ	1
2月	リオ・ポニート	1回 17戸	個別営業計画樹立 と償還畑の設定	マモンの栽培苗仕立	バライーバ	1
				作付計画について	ポニート	1
3月	なし			養鶏の規模	レンフェ	1



資 料 配 市			種 苗 あ っ せ ん		
資 料 名	配 市 先	部 数	品 目	対 象	数 量
な し			カーネーション苗	リオ・ポニート	300本
			バラ台木	"	150本
			タマル種子	J・K, ウナ	2件 4本
各植民地の世農概況	全9地区	1 2	肉桂苗	ピオ12世 ピウン	2件 20本
マラクジャについて	リオ支部	1	メロン種子	ピオ12世, レンシーフェ, ポニート	3件 1Kg
唐辛子のサンパウロ市況 (1)	イツベラ	2			
			エリトリナ種子	ベレン支部	0.5 Kg
な し			な し		
バラ及カーネーション栽培	リオ・ポニート	2	クロタラリヤ種子	リオポート	0.1 Kg
マモンの栽培法	ブライーバ	1			
唐辛子のサンパウロ市況 (2)	イツベラ	2	な し		

委託栽培実績 (昭和46年度)

作物名	委託先	受託者名	面積本数	委託内容	実施目的
桃 (継4) 43.8植	リオポニート	佐藤忠恒		本國に於ける 栽培適否試験	当地域の特色である温 暖帯気候を生かし、南伯 より搬入し難い温帯果樹 を育成する。
無花果 (継3) 44.12植	ビオ12世	大蔵衆之		,	基幹となるべき永年作 物の探索と育成
マカミアナツツ (継4) 44.3植	レノーフエ	坂口章司		,	,
カジェーナツツ (継3) 45.3植	ビウン	長島良澄 松苗菱太郎		,	に難点のある高台 砂池の利用としての永年 作物の育成
クマルー (継2) 45.12植	J, K ウナ	神崎 実 西本伍一		,	胡椒、丁香に次ぐ香辛 料作物の探索と育成
ピーニヤ ボンカン ゴヤバー イヤメ(大葉)	ビオ12世 , ビウン ,	西村, 藤原 土屋, 小林 長嶋 田中		, , , ,	基幹となるべき永年作物の育成 , 高台砂池利用としての永年作物の育成 高台砂池に於ける雨耕作物の探索

実 績 及 問 題 点	所 見
<p>(実績) 植付期, 4~6月(両期)剪定時期 子下~8中, 収穫期1下~2上二品種共, 熟期は殆ど同時で早生系である。果実は大 きさ色, 味共優品を産した。</p> <p>(問題点) 特にないが病虫害が比較的が多い</p>	<p>有袋栽培により, 優品を産し, 試験的に販売 したが, 市場性は良く, 商品化は可能である。 標高の高いポニート, カモシン郡地方では栽 培普及可能である。</p> <p>(本年度打切)</p>
<p>(実績) 生育, 結実共に良好である。果実の 品質も良く優品を産した。</p> <p>(問題点) 本作物は水分需要量が多く, 乾期 に用水の不足をきたす(絶対用水量の不足)</p>	<p>本果実の市場に於ける嗜好性は他の熱帯果類 より低く, <u>需要量が少ない</u>。このため, 集団栽 培としての普及には難点がある。</p> <p>(本年度打切)</p>
<p>(実績) 二品種共, 接木後3年生, 樹高KA KEA 3.5メートル IKA IKA 3メートル 樹幹直径8及4センチ年間伸長量は1.5及 1.2メートルで極めて旺盛 水の実績なし 新葉に 虫が発生する。</p>	<p>乾期に しくなくても既に見えた早害はない。 樹勢は相当健康とみられる。</p>
<p>(実績) 平均樹高は80センチで年間の伸長 量は30センチ平均である。乾期は全くの乾 乾燥であるが <u>しなかった</u>。</p> <p>(問題点) MOSCA BRANCA(ALEUROD ICS COCOIS)の虫害があり, 防除困 難である。</p>	<p>本作は耐旱性の植物であり, 砂池によく生育 する。</p> <p>外来のMOSCA BRANCA による虫害は東 北伯一円を襲っており, 薬剤防除が難かしく天 敵の研究も行なわれている。</p>
<p>(実績) 丸1年生, 樹高40センチ平均現在 の処病虫害なし</p>	
<p>昭4 , 2定植 昭4 , " 昭4 , " 昭4 , "</p>	

Ⅲ サンパウロ支部

営農普及活動実績報告(昭和46年4月1日-昭和47年2月29日)

部門	区分	普及指導事項	普及方法
農業 生産 技術	養鶏	養鶏の経営改善と鶏病の予防について	養鶏農家の個別指導と講習会
	養鶏	移住地養鶏指導者の養成	産組中央会、州微生物研究所サンパウロ大学畜学部との協働による講習会
	果樹	イタリアブドウ技術講習会	A B E T A主催により南伯産組試験場で技術協力事業より派遣の岸技官を囲み技術講習会を開催した
	果樹	落葉果樹栽培技術講習会	果樹栽培農家個別指導及講習会
	果樹	柑橘導入のための基本討議	講習会、座談会
	果樹農産加工	永年作導入(果樹品種の決定)及び農産加工の可能性	講習会、討論会、個別指導
	蔬菜	玉葱、ニンニク、人参の栽培技術	講習会、座談会、個別指導
	青年指導	農業経営と情操教育、移住地作り	技術移住センターでの講習会
	蔬菜	いちご栽培、技術の向上	個別指導、座談会
	一般指導	生活指導	講習会

実施した時期	実施対象地区 グループ	成 果	摘 要
1月下旬	グワタバラ移住地養鶏グループ	過剰投資特に選洗卵機等は共同で設置すること、及び育雛舎の不備について指摘された	講師は篤農家の古田土氏
9月下旬— 10月上旬	散在移住者及び支部集団移住地、アスンシオン、アエノス、レソーフェ各支部入植地子弟	各移住地の養鶏補助指導者の委成現地普及機関との接触を容易にする	講師は組合技師 研究所大学の研究者
4月中旬	全地域	移住地果樹栽培農家	
1月下旬	グワタバラ果樹農家	果樹導入の気運向上	平松技師
1月初旬	・	・	井上技師
11月初旬	バ、アレグレ全戸	・	雨森、宮下技師
12月中旬	グワタバラ低地グループ	技術の向上	生田博士
8月下旬 9月下旬	管内7集団移住地と、アスンシオンアエノス支部入植地		
1月初旬	グワタバラ低地農家		
1月中旬	ムンドノーボ植民地		

IV サンタクルス支部

サンファン試験農場富農普及指導実施報告書

月別	普及指導方項	普及方法	対象地区名又はグループ名	実施回数
4	ボンカンの出荷方法と価格協定	座談会	みかんグループ	1
	百合、グラジオラスの栽培について	座談会	花卉グループ	1
5	ボンカンの収穫とその後の手あてについて	座談会	みかんグループ	1
	柿の落葉について	実地指導	沖縄第1, 第2	1
	花卉栽培について	座談会	花卉グループ	1
6	みかん類の経営における位値	座談会		1

昭和46年度

成		果	
当初目標		実現しなかった要因	摘 要
ボンカン出荷箱の統一、生産者販売価格の協定	80%	約束してもその通り実行しない人、現金を急いでほしいため、協定を無視して売りに行く人等があるため。	農協扱いにという声もあるが、生ものを農協で扱うだけの力がまだなく、現状では個人出荷の希望が殆どである。
グループ員により、百合、グラジオラスの栽培を試みる。	100%		30戸のグループ員にグラジオラスの球根を販売した。
収穫最盛期となるので、収穫方法、収穫後の管理について普及する。	80%	片手間で栽培している、少数栽培者は収穫後の管理は殆どおろそかになっている。改善への意欲に欠ける。	収穫方法は普及できた。
沖縄第1方面は開葉中にもかかわらず、展葉葉着蕾を続けている。今後とも土壌、湿度、気温の関から、このような現象は起きると思われるので、この対策につき検討する。			低温、乾燥の到来を待つこととし、落葉剤の施用はとり止めた。
百合、グラジオラスの病害と肥培管理を知る。	80%		病気、主として、ウイルスについて講習した。施肥の方法と病気の徴候について知ることができた。
みかんグループ 100haの経営可能地のうちで、何haをみかん園として持つか、どのようなみかんを選ぶか、各員の計画を樹立する。			ボンカンの過剰な植付けを反省し、ネーブルなどのからみ合わせを考えるよう指導した。

	栢の収穫について		実地指導	沖縄第3	1
	優良牛の導入について		座談会	heifer project サシファン委員会	1
7	養鶏指導		実地指導 座談会	サンファン移住地	1
	みかん出荷の共同化		座談会	みかんグループ	1



<p>6月80%の棉収獲を完了する。棉の収獲法と品質について知らせる。</p> <p>サンファン移住地の畜産のあり方について検討する</p>	<p>50%</p>	<p>1.採集人は請負の能率をあげることばかり考えて、良好なつみ方をしなさい。 2.採集人夫にいろいろ指導したり、プレミアをつけたりするが、能率第一義であるので、なかなか思うように進まない。</p>	<p>1.在来牛を基礎としある程度の頭数に至った時、優良牛の導入を計る。 2.優良牛とは、肉牛としてサンタヘルトルーデイスを、乳肉兼用としてバルドスイスメセブーを振興する。 3.1戸当り当面50程度の集約養畜とする。</p>
<p>サンパロ産組浅井技師を中心としてサンファン移住地における養鶏の現状と問題点を知り、改善策を樹立す。</p>	<p>70%</p>	<p>浅井技師の改善必要事項については、皆良く理解したと思われるが、実施に際し、より一歩つっ込んだ具体的研究心に乏しいので、知りながら面倒くさがって、ついつい従来の方法に流れてしまうものがある。</p>	<p>研修会はおおむね良好に行われた。</p>
<p>小型貨物車を持っている人は自力でサンタクルスまで販売に行き、良い値で小売りをしている。小型車を持ってない人は庭先で、又は地元で極く安くおろしている。販売の共同化を組合を中心として推進するより計る。</p>	<p>0</p>	<p>1.生ものであるボンカンに組合にまかせ販売出来ないという空気がある。 2.大量販売者は殆ど搬出用の小型トラックを持っており、中間業者を通じないで自力で売り出している。</p>	

8	稲の成育と要水量について。8月の主な農作業について	座談会	サンフアン移住地各実行組合	1
	ボンカンの剪定方法と春肥について	座談会 実地指導	みかんグループ	1
	牧草と牛の飼育管理について	実地指導	牛飼育者	1
	四草の染色と織込み	実地指導	栽培者古木良八氏他	1
	農産物品評会	展 示	サンフアン移住地全体	1
9	スイカの消毒とその残効性、その他について	印刷物	サンフアン移住地全体	1

<p>稲の成育期別要水量を知り、天水を利用し、陸稲から安全度の高い直播水稲方式に極力移行するよう推進する。</p>	40%	<p>理論的に良いことは分かっていても、陸稲で1.8t/ha程度の収量を得ているので、これ以上の収量増が計れる具体的方法を知っていても購じようとする意欲に乏しい。</p>	
<p>ボンカンの整枝、剪定の意義、方法について習得する。8月のボンカンの手あて、特に春肥の施用につき指導する。</p>	70%	<p>前年度剪定の効果を認識したものの、ボンカンで収入の大きなウエイトを占めているものは、実行しているが、10本、20本と少本数所有者は、どうも意気があがらない。 既して0.5ha以上の所有者は熱心である。</p>	
<p>牧草の千本科、豆科混播の必要性と牛の法定伝染病予防注射の必要性について</p>	80%	<p>予防注射については行なうようになって来た。(特にアフターザ)しかし豆科の混播はなかなかすすまない。改善への意欲に欠ける。</p>	<p>農牧名ING、SUAUAR回指導。</p>
<p>当国人の趣好にあう染色をなし、ゴザ、壁かけ、ヤカン敷等を作成する。</p>	90%	<p>染色、織込み、見本程度の加工は良好に進んだ。しかし販売面と加工職人の人探しに苦勞し、その両面が思うように進まない。</p>	
<p>移住地内農産物を相互に紹介しあい農業振興と意欲の向上を計る。</p>	90%		<p>盛大でかつ効果的であった。</p>
<p>スイカに対する消毒と施用上の注意事項、その他9月の主な農作業について</p>			

	みかんの芽つき及び防風の効果について	実地指導 印刷物	みかんグループ	1
	棉作指導員に対する講習会	座談会	沖縄移住地	1
10	第7回農薬訓練講習会の開催	講習会	サンフアン, 沖縄移住地青年	1
	棉作指導員に対する講習会	座談会	沖縄移住地	1
	牧草と牛の飼育管理について	実地指導	牛飼育者	1
11	スイカの病害対策について	印刷物	サンフア移住地	1
	棉種子消毒の指導	実地指導	沖縄移住地	1
	棉播種の指導	実地指導	沖縄移住地	1
	棉の病虫害駆除について	印刷物	沖縄移住地	1
	棉の虫害について	実地指導	沖縄移住地	2

防風樹の意義を知らしめ、実施を推奨する。	50%	防風については知っていても、資金と時間的余裕なく実施していない。芽つきは殆ど全員が行なっている。	
移住地内より指導員を養成し、その指導員により、棉作指導を推進せしめる。そのための基礎知識習得として、この講習会を持つ。	80%		講習会自体としては大きな成果があった。
将来の中堅としての青年の育成	90%		10月11日開催 12月11日終了
9月に同じ(第2回)	80%		
8月に同じ	80%		ING・SUAREZ
高温、多湿の時期となるので、諸病気予防のための方策について知らせる。	70%	回覧文書をよく見ないもの、見ても内容の理解出来ないものがあるため	
本年播種分につきDISYSTONにより消毒を実施、適正なる処置が行なわれているか否かの調査。	10%	CARS	中村に連合会が請負わせる。
播種法、適正播種量、播種深度追まき等について知らせる。	50%	指導内容の意図が十分に徹底していない。	
棉の病虫害の診断処置について	50%	虫害についての認識は高まった。しかし使用農薬量、効果的農薬については、事業団が手を取り、足を取り教えてくれる感覚でいる。	
棉の初期生育と虫害について知らせる。	80%	DISYSTONが残効性を持っていることに安心しきって、幼植物の被害を放置している	

1	種の栽培法と農薬について	実地指導 団体会	苧穂移住地	1
1	大豆の虫害防除	実地指導	ナンフアン移住地	5日
	大豆の虫害防除	団体会	ナンフアン移住地 大和区	1
2	種の栽培法と農薬について	実地指導 団体会	苧穂移住地	1
	大豆虫害防除	実地指導	ナンフアン移住地共済 中夫区	1
3	種の栽培法と農薬、農薬 について	実地指導	苧穂移住地	1
	パイナップルの栽培法に ついて	団体会	ビーニヤグループ	1
	みかんの収穫前における雑 草について	団体会	みかんグループ	1

1月に発生する病虫害につき栽培者に知らせる。	80%	反復学習の不足	
開花中の大豆に発生したフキノメイがに対する防除策について。	90%		普及と措置が早かったため、殆ど防除できた。
同上	90%		
2月に発生する病虫害につき栽培者に知らせる。	80%		
1月に同じ	90%		
3月に発生する病虫害及びその防除、並びに開花時の穂の生理について	80%		
2月にバインアップル生産者グループが結成され、ここが中心となってブラジルから昨年に引きつづきスムースカイニンの百を導入することとなった。同品種の特性と栽培法について知る。	80%	百の消毒の意義は知りながら面倒くさがって実施しない。	ブラジルからスムースカイニンの百が、これで9万本入ったことになる。
出荷時の梱包、等級分け、包装の妥当性、収穫前の防除について。	80%		

2. 普及指導上の反省と所感

- (1) 入植者個々の営農上の進展又は失敗の事実を随時速確に把握、手あてをする、指導陣容又は体制に欠ける。営農上の診断を適切に行ない、その措置を敏速に計れる体制が必要である。(営農普及関係職員の強化)
- (2) 営農指導上重要な技術、知識の普及にあたっては、座談会や印刷物の配布等方法では理解の程度が浅くどうしても庭先で実地指導を行なう必要がある。(庭先指導の必要性)
- (3) 経済的階層分化が急速に進んでいる。中位層にある入植者については個々に営農遅滞の要因を究明し、改善への技術的、資金的援助を必要とする。  
下位層にあるものについては、転職、他との兼業を推める。これは事業所の協力を得指導する必要がある。(階層別指導の必要性)
- (4) 現在、鶏、牛を中心とした畜産の気運が高まりつつあり、この振興は大いに計る必要がある。定期的に沖縄畜産試験農場の協力を得てはいるが、突発的な発病措置に際し、往復310KMにある同農場の協力はなかなか受けにくい。当场として当面に対処できる最低必要な技術員、薬品器具は具備しておく必要がある。(畜産関係職員の配置、器械、薬品の具備の必要性)

3. 営農担当者の体制

氏名	所 属	摘 要
宮川 清 忠	サンファン試験農場	試験、普及業務、農協の営農部門の指導、沖縄移住地協部門の指導。 (沖縄事業所営農担当者との協力)

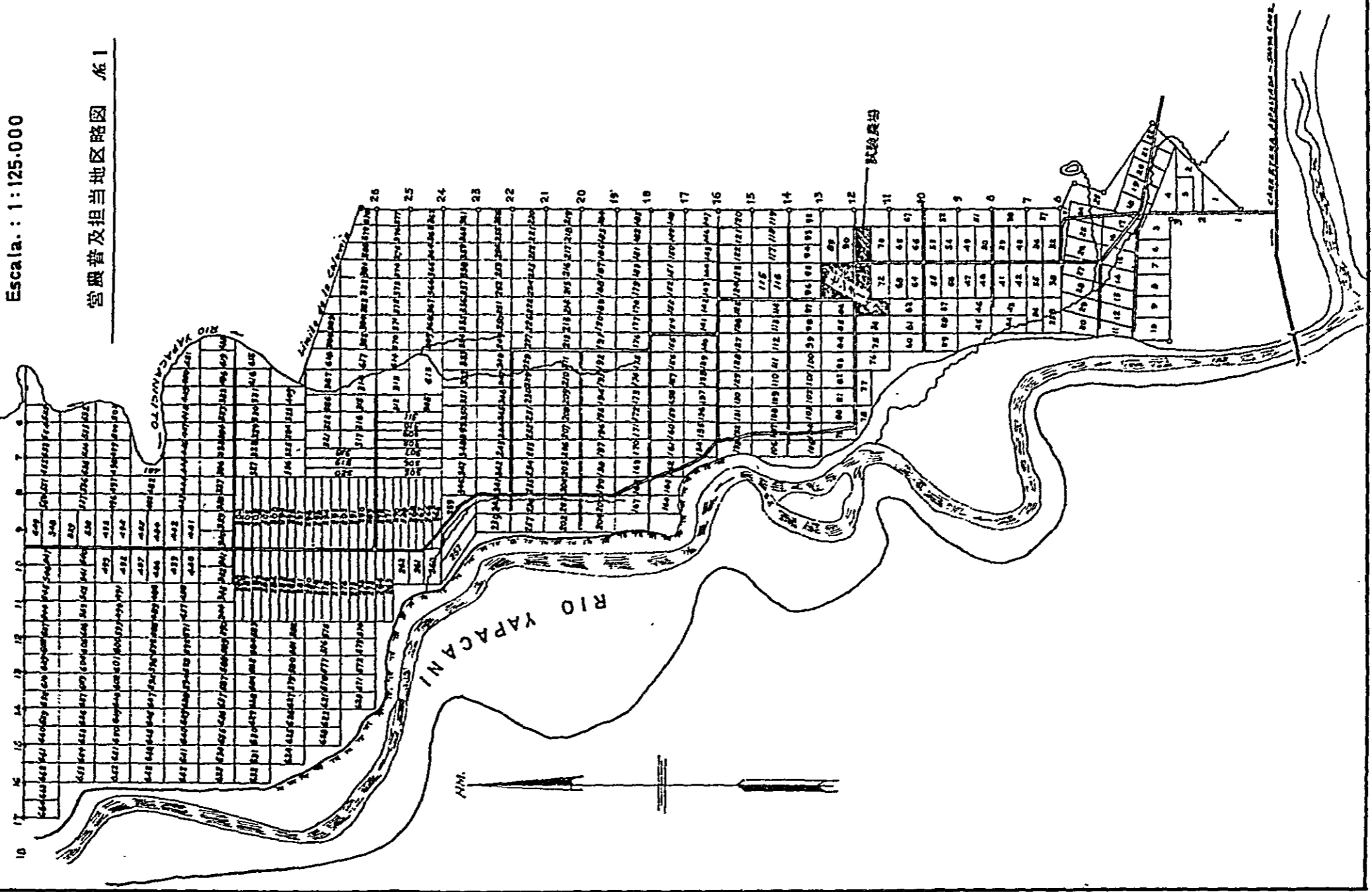


**PLANO DE PARCELACION  
DE LA COLONIA JAPONESA "SAN JUAN"**

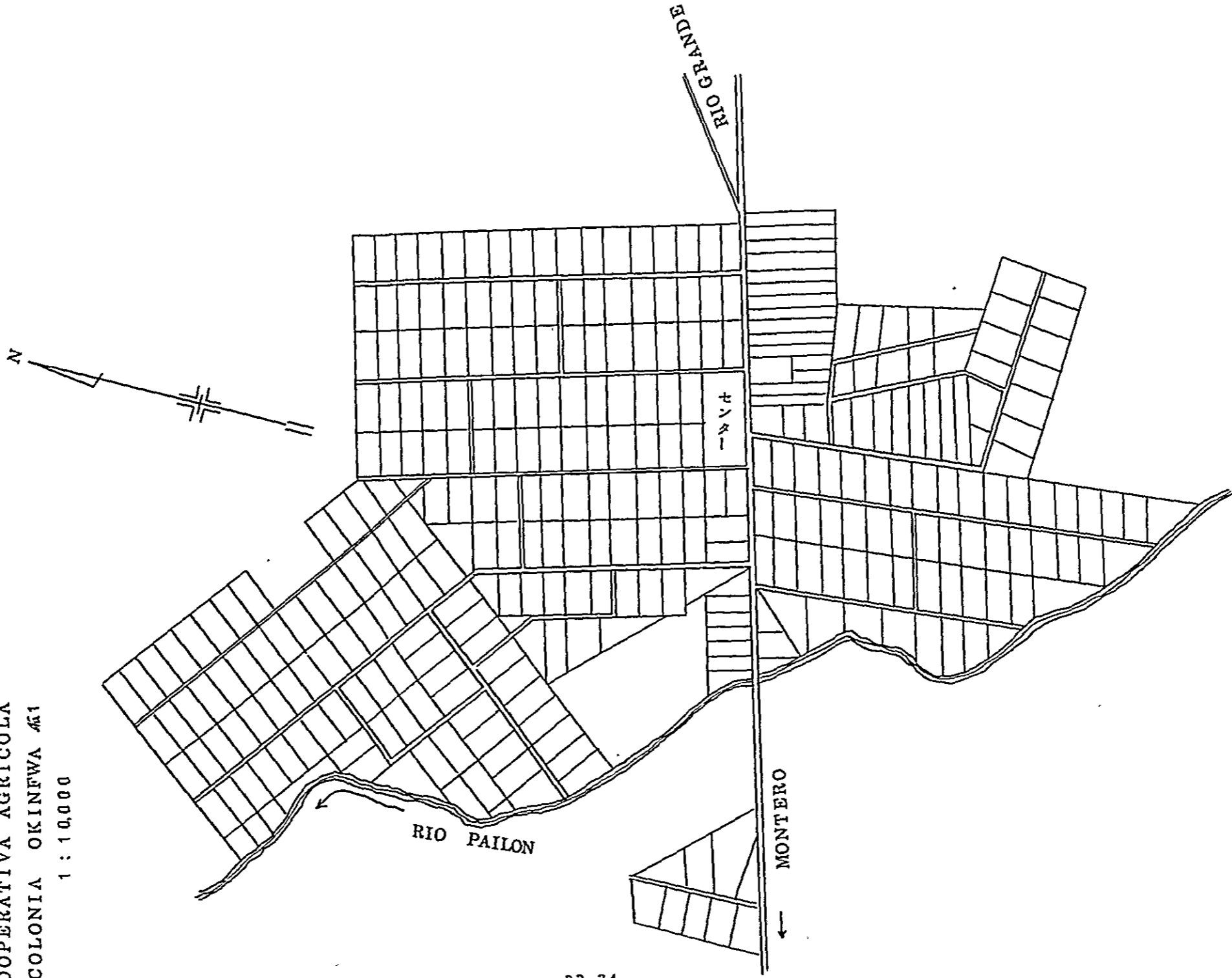
UBICACION : PROVINCIA ICHILU  
DEPARTAMENTO : SANTA CRUZ Superficie : 27.132.54

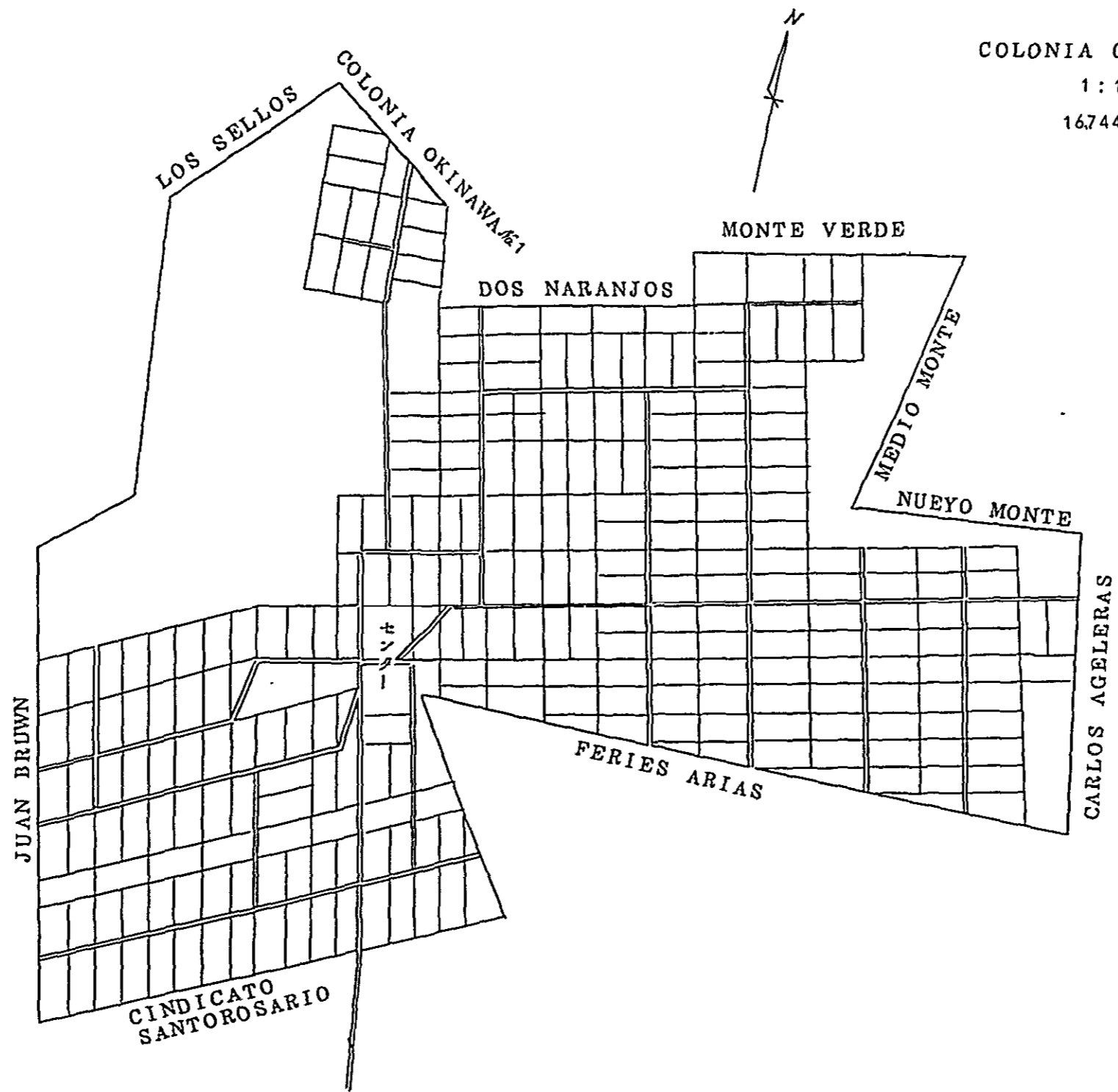
Escala : 1 : 125.000

營農普及担当地区略図 左1



COOPERATIVA AGRICOLA  
COLONIA OKINFWA 461  
1 : 10,000



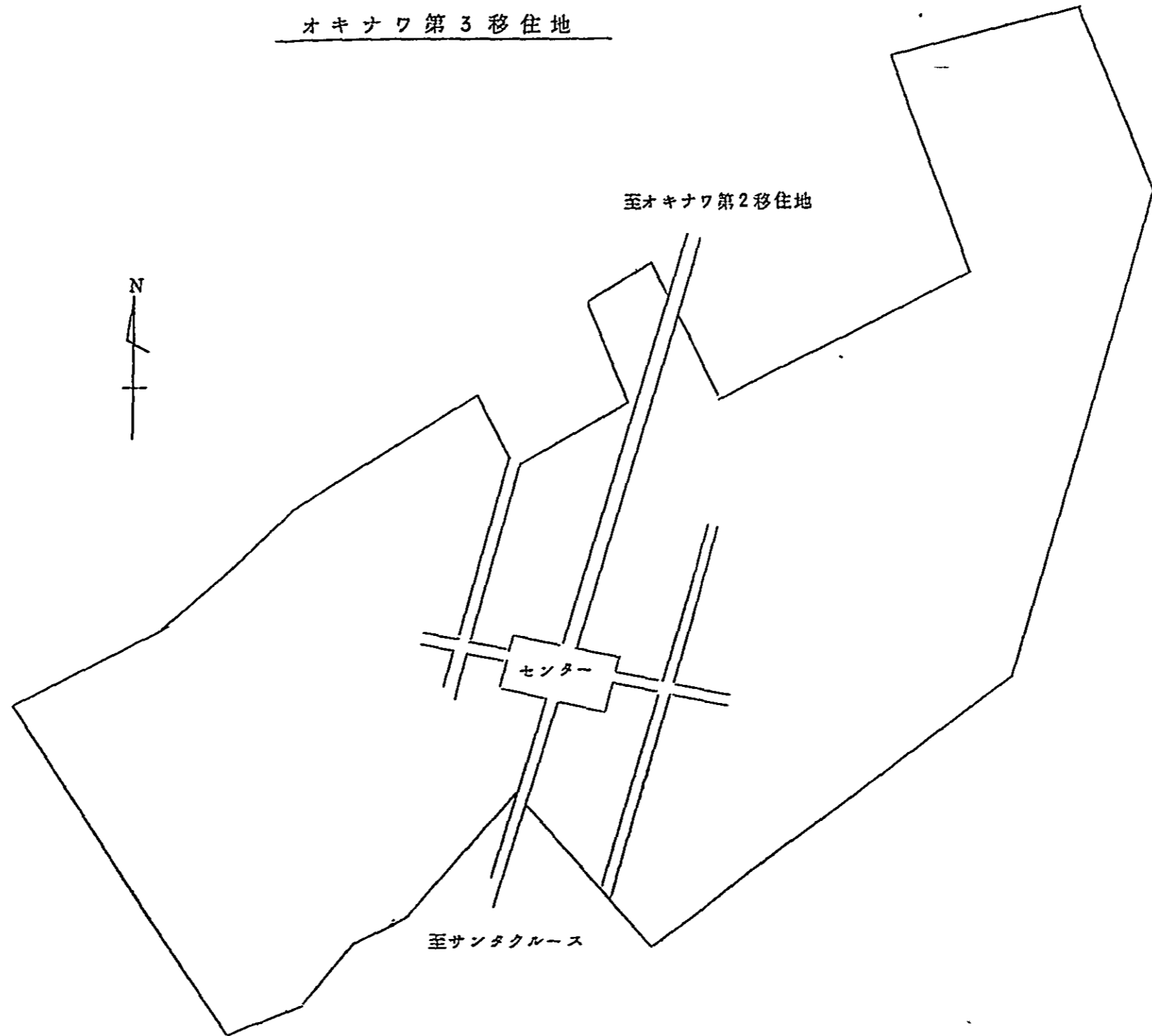


COLONIA OKINAWA No. 2

1 : 100,000

16,744 Hcs

オキナワ第3移住地



Year	1998	1999
1	100	100
2	100	100
3	100	100
4	100	100
5	100	100
6	100	100
7	100	100
8	100	100
9	100	100
10	100	100
11	100	100
12	100	100
13	100	100
14	100	100
15	100	100
16	100	100
17	100	100
18	100	100
19	100	100
20	100	100
21	100	100
22	100	100
23	100	100
24	100	100
25	100	100
26	100	100
27	100	100
28	100	100
29	100	100
30	100	100
31	100	100
32	100	100
33	100	100
34	100	100
35	100	100
36	100	100
37	100	100
38	100	100
39	100	100
40	100	100
41	100	100
42	100	100
43	100	100
44	100	100
45	100	100
46	100	100
47	100	100
48	100	100
49	100	100
50	100	100
51	100	100
52	100	100
53	100	100
54	100	100
55	100	100
56	100	100
57	100	100
58	100	100
59	100	100
60	100	100
61	100	100
62	100	100
63	100	100
64	100	100
65	100	100
66	100	100
67	100	100
68	100	100
69	100	100
70	100	100
71	100	100
72	100	100
73	100	100
74	100	100
75	100	100
76	100	100
77	100	100
78	100	100
79	100	100
80	100	100
81	100	100
82	100	100
83	100	100
84	100	100
85	100	100
86	100	100
87	100	100
88	100	100
89	100	100
90	100	100
91	100	100
92	100	100
93	100	100
94	100	100
95	100	100
96	100	100
97	100	100
98	100	100
99	100	100
100	100	100

100

1. サンフアン、オキナワ各移住地普及指導状況

月別	普及指導事項	普及方法	対象地区名 又は研究グループ名
4月	家畜伝染病とその予防	講習会	オキナワ第3移住地
5月	雄牛の去勢	実施指導	オキナワ移住地
7月	鶏の飼養管理	講習会, 実施指導	サンフアン及びオキナワ各移住地
9月	鶏の病気と手当	講習会	第1移住地
'	'	'	オキナワ第2移住地
'	'	'	オキナワ第3移住地
'	'	'	サンフアン移住地
'	棉栽培	'	棉作連絡指導員
10月	'	'	オキナワ第1移住地
'	家畜の病気と手当	'	第2移住地婦人会
11月	'	'	農薬訓練生
'	棉栽培	'	オキナワ第2移住地
'	農薬の取扱い方	'	'
2月	棉の生理	実施指導	オキナワ第1移住地
'	'	'	オキナワ第2移住地
3月	'	'	オキナワ第3移住地

農普及実施報告(46年度)

昭和47年3月

対象件数 又は実施回数	当初目標	実現した成果
35名	家畜伝染病を認識せしめ、予防接種の徹底	大
15名	肥育牛の肉質改善	大
150名	鶏の合理的飼育及び経営	大
93名	病気の早期発見、早期治療	大
30名	・	大
25名	・	大
25名	・	大
21名	稲作連絡指導員の育成	大
52名	稲栽培に関する知識と技術の修得	大
40名	病気の早期発見、早期治療	大
10名	・	大
80名	稲栽培に関する知識と技術の修得	大
75名	養蚕に関する知識の修得	大
47名	稲栽培に関する知識と技術の修得	大
34名	・	大
25名	・	大

## 2. 普及指導上の反省と所感

### (1) 普及指導上の反省

#### (畜産関係)

ア、ポリビア国には各種の家畜伝染病が散在しているので、その予防対策について重点的に普及指導した。移住地内では家畜伝染病の発生が除々に少なる傾向があり、その効果があらわれつつある。

イ、担当職員が農場の運営管理、移住者の家畜疾病治療、相談等の業務で精一杯で、本格的な普及指導活動ができなかった。

ウ、畜産指導を濃密的に行なうために担当職員の増員が必要である。

#### (一般作物関係)

ア、稲作については、本格的栽培に入った初年度でもあり、稲栽培に関する基礎知識。基礎技術を修得せしめることを重点的に普及指導した。

イ、普及方法は講習会、巡回指導、印刷物配布等により行ない。その効果は大であった。

### (2) 今後の方向についての所感

#### (畜産関係)

ア、巡回指導を強化し、濃密度に普及指導したい。

イ、現在の粗放的畜産経営を集約的、合理的経営の方向へ普及指導したい。

#### (一般作物関係)

ア、当面、稲作に関することを重点的に普及指導したい。

イ、稲作に関する文献、資料を整備し、それに基づいて普及指導を強化したい。

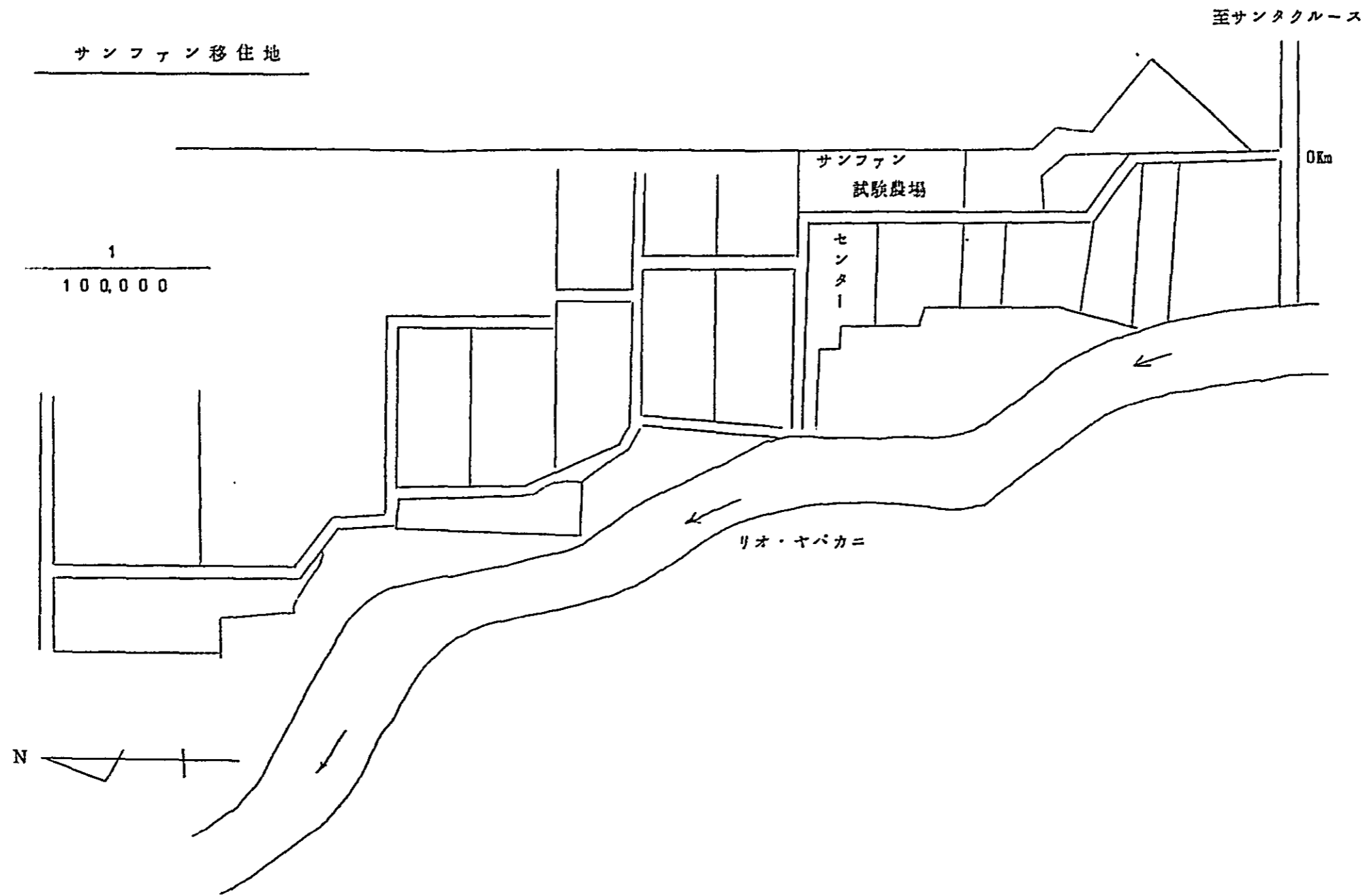
ウ、青年層に魅力ある移住地にするため機械化農業を推奨したい。

## 3. 普及指導者の体制

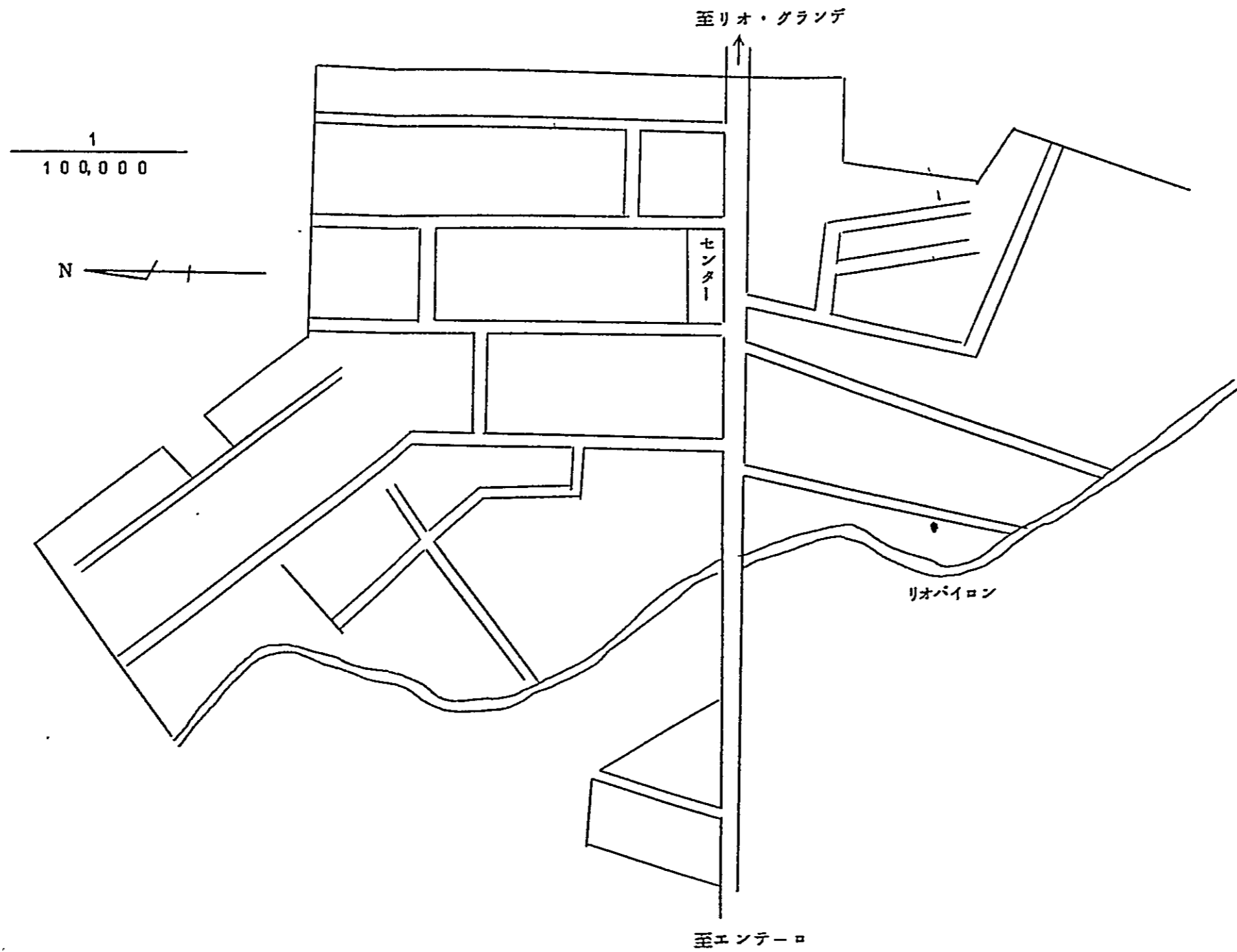
氏 名	所 属	担 当
大 塚 弘四郎	NE畜産試験農場	畜産関係
遊 佐 健 輔	、	一般作物関係



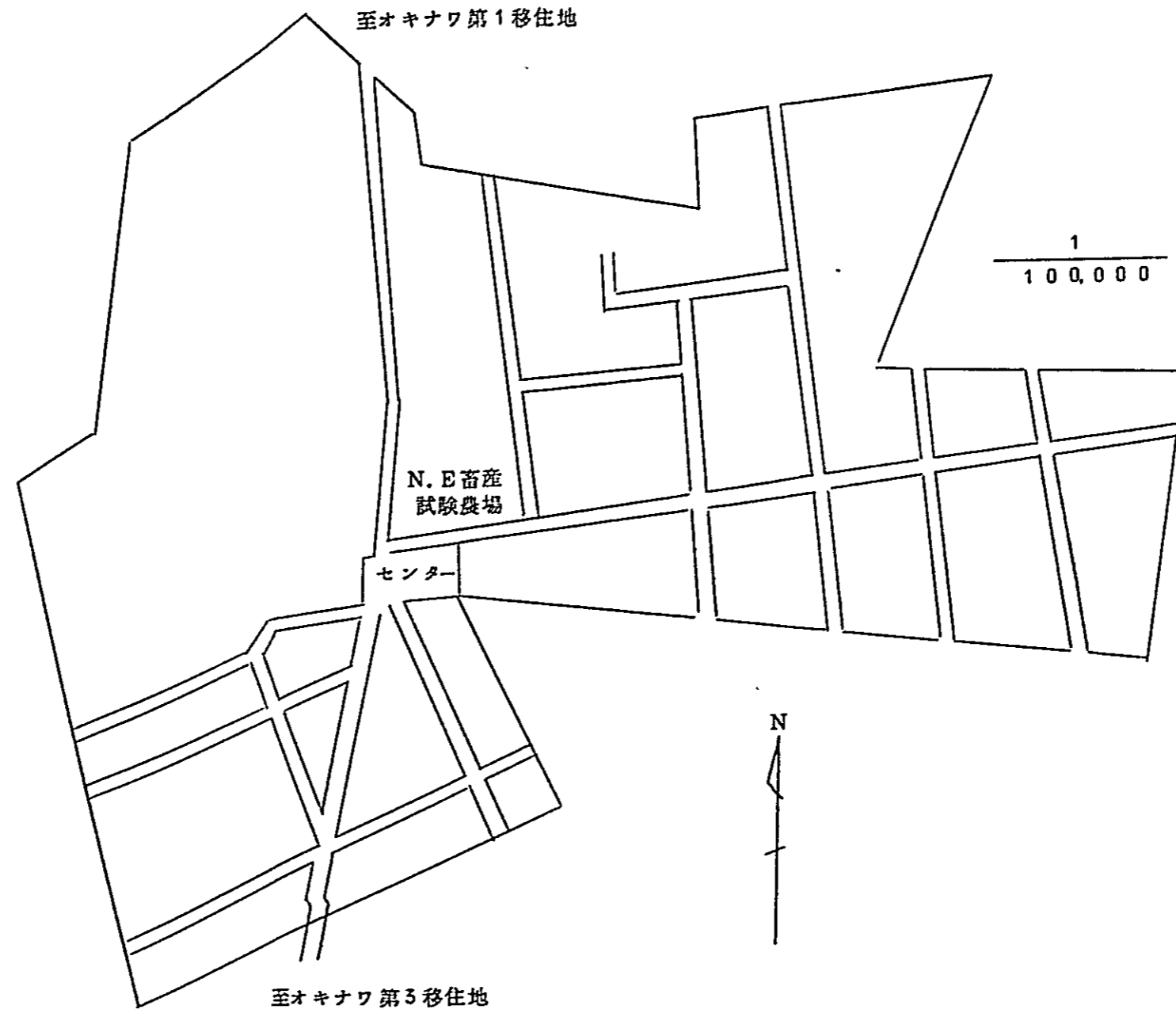
管農普及担当地区略図



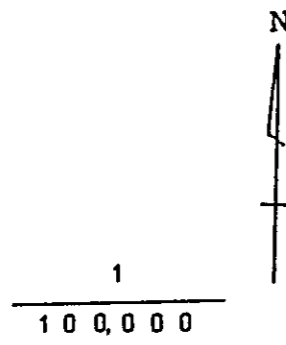
オキナワ第1移住地



オキナワ第2移住地

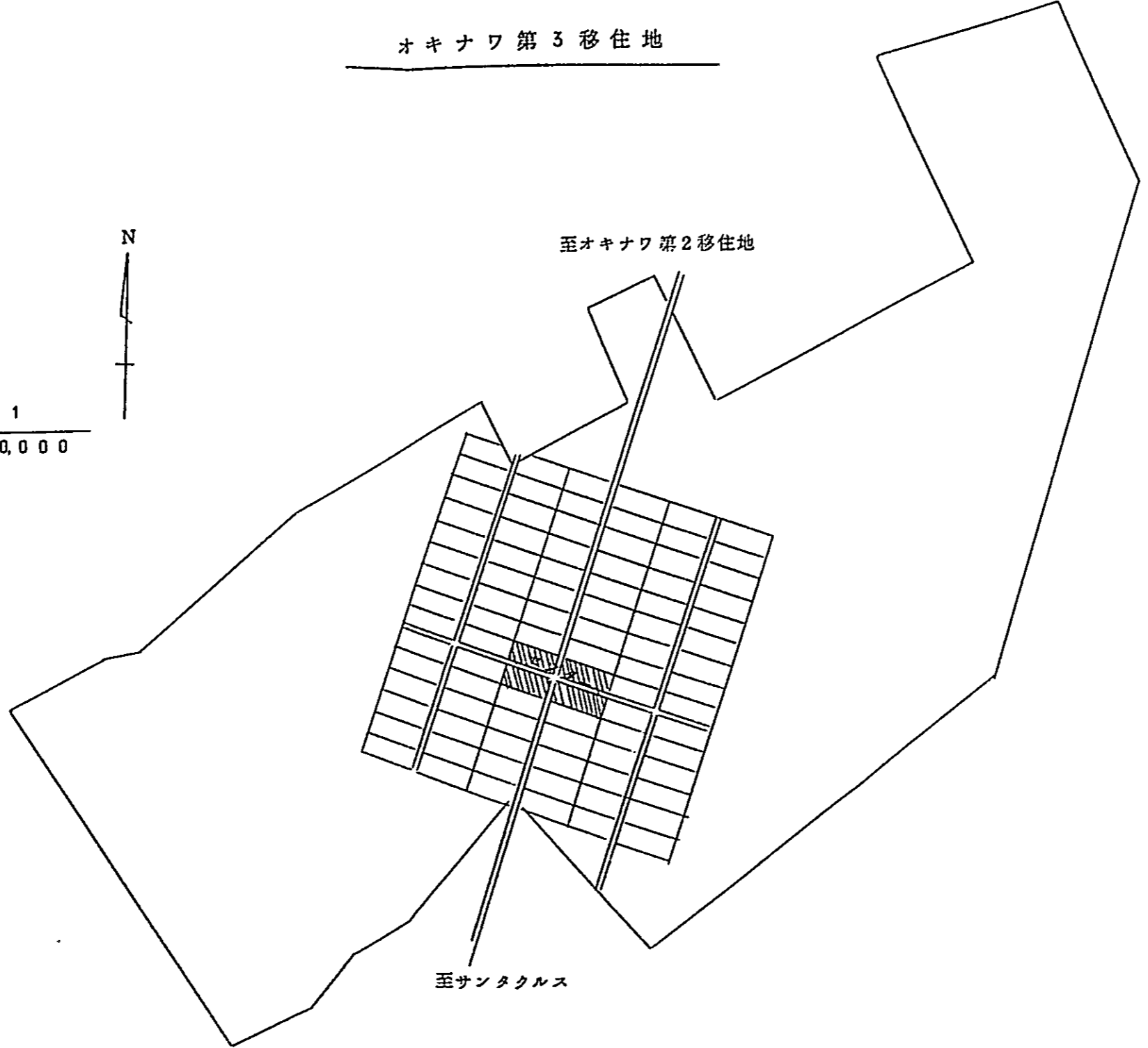


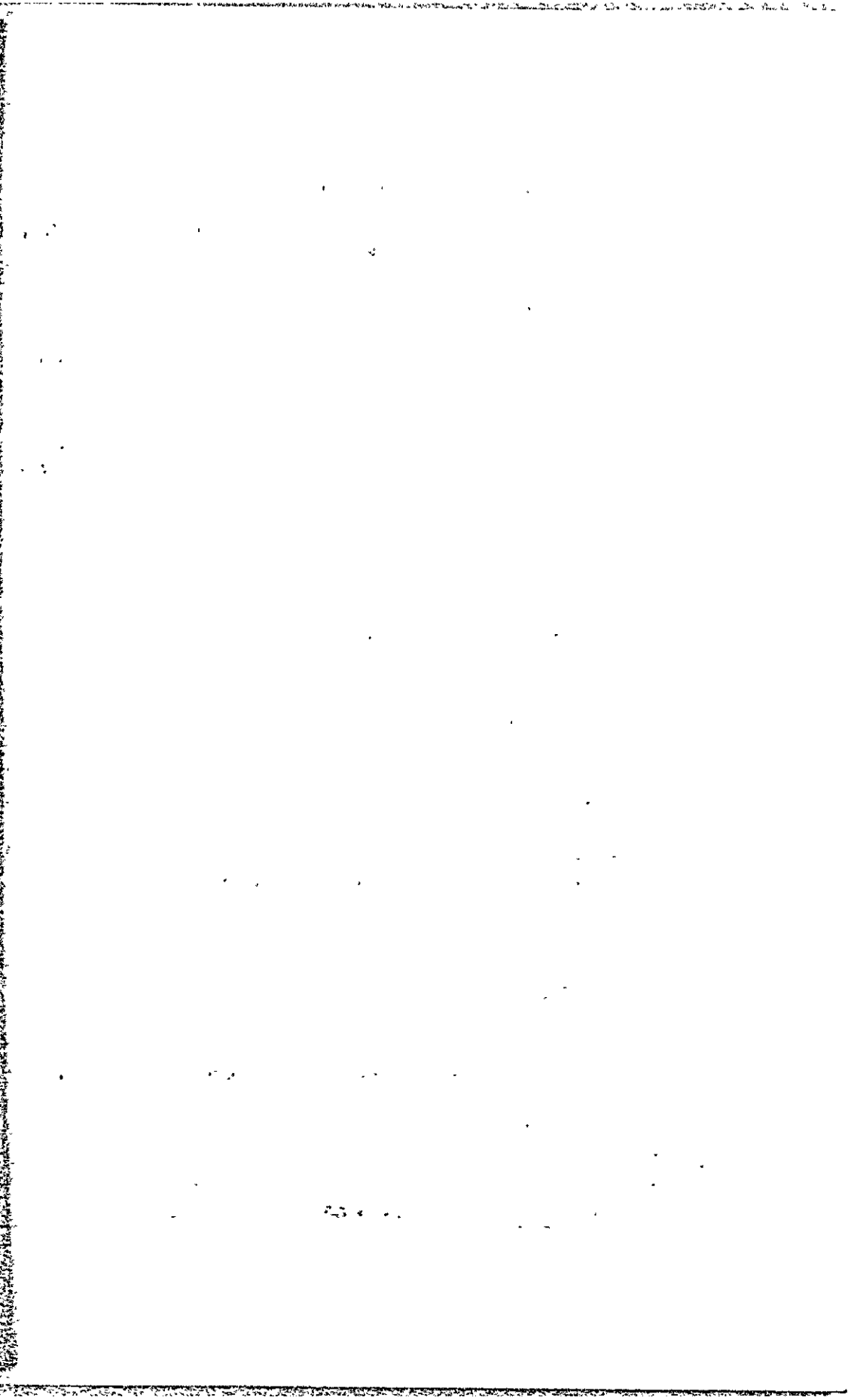
オキナワ第3移住地



至オキナワ第2移住地

至サンタクルス





V アスンシオン支部  
イグアス管農普及活動実施報告書(46年度)

月別	普及指導業務	普及の方法	対象地区又は 研究グループ	対象件数 (実施回数)	
4月	生産者組織の結成	発起人会	畜産振興会	35 1回	
		・	肉用牛部会	35戸 3	
		・	養豚部会	40戸 2	
		・	養鶏部会	30戸 2	
		・	酪農部会	10戸 1	
		・	果樹グループ	10戸 1	
5月	果樹講習会 生産者組織の結成	・	ハツカグループ	7戸 1	
		・	養蚕振興会	33戸 3	
	家畜伝染病予防対策 養豚農家実地調査 ヘルパーの発足	巡回講義(部落別) 巡回調査 10名の選出	全戸 養豚部会	3 1 年 12	
	食肉センターの運営	畜産振興会	肉用牛部会	週 2頭	
6月	種鶏場の視察 及ふ卵場の視察	アスンシオン近郊	養鶏部会役員	1	
	初生雛の導入 小児栽培指導 鶏病対策指導	ブラジル伊藤養鶏場 品種別播種 講習会	全 区 全 区 全 区	6~8月迄 5 1 30戸 1	
7月	桑園造成指導 家畜伝染病防疫対策 養蜂飼育管理	講習会 講習会 講習会	全 区 養鶏部会 全 区	30戸 1 30戸 1 10戸	
	8月	種子の導入 豚肉加工指導	マイス牧草の優良品種 ヘルパー指導	全 区 養豚部会ヘルパー	15戸 20事 10名10回
	9月	家畜伝染病予防対策 桑園調査指導 牛肉販売指導 豚出荷指導	予防注射 専門指導員の巡回 卸売単価アップ 輸送中の事故防止	全 域 ・ 肉用牛部会 養豚部会	30戸 1回 30戸 1 30戸 45戸 7

実 績		
当初目標	実現した成果	実現しない要因
畜産技術の浸透 畜産意欲の場 液の完全実施 自発的に結成された 植木の導入造成 口蹄疫の完全実施 養豚管理技術教育 と殺権取得手続き申請カ ーレンスの区役所として 自治会長名によりと殺権 の取得 主豚の管理状況とフラム システム 40000導入 kg当2000Kg ニューカッフル病防疫 講話、現場半枝指導 コリーザ痘防疫 自然蜂の採取 マイス50 牧草20 と殺、解体、ハム、ベー コン、腸詰め 1000頭 100kg造成 80% 1kg当50G/S(枝肉) 年間12回600頭出荷	①話会の場が出来意欲が高 揚して来た。 ②畜産技術の指導浸透が容 易となった ③養豚ヘルパーにより青年 層の意欲が向上して来た ①ハツカ苗の導入エルナン タリアより ②アルトパラナよりトラッ ク2台導入 ③90%実施  ①豚コレラ予防注射実施 ②豚肉加工技術の修得 ③豚の繁殖技術疾病予防 試験解体の実施良好のため 週2~3頭のと殺を実施し ている 視察及質問アスンシオン支 部山崎職員寮内 ①41000羽導入した ①1000~1800Kg ①全予防注射の実施、生ウケ  ①80kgの造成 ①90%の成果 ①実枝採取妊更新 ①完全通関 ①10周年入植祭に展示販 売 1300頭実施95% 予定通り80%活着した 60G/S(枝肉) 7回 420頭出荷	①自衛活動の力が乏し い ②事業内容が不明確 ③酪農(乳牛)の導入 と共同出荷が出来ない ①90%実現したと思う ①100%実現 ②100%美現  ③10%は施設不十分  ①地区の指導員として の役割を果たすために は更に研修が必要 ①小売販売者が日系人 にいない ②冬期間と殺牛の不定 を生じる  ①通関事務が困難 ①播種期の再検討 ①10~20羽飼の小 羽数農家の実施しない ①治着不十分で枯死あり ①10%は使用の誤り 100%実現  ①冷凍庫がないコロニア への普及が困難 3戸はコラール不備不能 100%は無理  事故死 年7回6頭

	普及指導業務	普及の方法	対象地区又は 研究グループ	対象件数 (実施回数)
10月	肉用牛導入指導	共同購入牛の選定	肉用牛部会	6戸 3回
	経済調査	巡回実施(カート)	全 域	1回
	育すう指導	巡回実施	全 域	2回
	繁殖豚管理指導	講習会	ヘルパー	1回
1月	牛肉販売指導	販売人指定	肉用牛部会	1
	牛乳販売指導	地場消費単価決定	酪農部会	10戸 1
	家畜伝染病防疫対策	豚コレラ予防注射	全 域	1
12月	養蚕講習会	講義 実技	全域及 エストコロネ サントドミン ゴ	25日 1
1月	養蚕指導	巡回 掃立農家	全 域	5戸
	養豚指導	巡回	全 域	30戸
	養蚕指導	巡回掃立農家	全 域	3戸12箱
	豚出荷指導	巡回	全 域	1
2月	鶏病対策	コリーサー 巡回及鶏痘ロイコ	全域 部会	30戸 1
	養蚕指導	巡回掃立農家	全 域	3戸12箱
	畜産講習会 講習会	講義(皮革) 果樹ベカン他	ヘルパー 果樹グループ	10名 1 10名 1
3月	養蚕指導	巡回掃立農家	全 域	13戸45箱
	グループ会長指導	集 合	各グループ会長他	15名
	ベカン栽培視察調査 大豆栽培収穫指導	アマンバイ移住地 防虫対策	全 域	2日間 1回



実 績		摘 要	
当 羽 目 標	実 現 し た 成 果		
120頭 アスンシオン支部協力 育すう率9.0% 生存率7頭 日系人に変更 販売単価の統一 全頭完全実施	サンタヘルーテス種 9.0%実施 95%で推移良好 生存率6頭 内山田英雄 原乳1.2G15G/S 処理料 3G/S 配達料 2G/S	100%実現 10%は不在者  施設不備による  哺乳中の仔豚	リービツヒ社 エストロネを含む
40名の技術指導  技術指導1箱30Kg 出荷豚の指定 完全飼育 成体100Kg前後の出荷	900頭 41名参加 (エストロに、サントミンゴ イクアスヨク) 100%実現 1頭当り平均体重125Kg 100%1箱30Kg 100%40頭	(K当35G/S)  月令的に発育が遅れ ている 20%発見の手おくれ	38/Kg
早期発見子防処置  1箱当り30Kg 皮の分類と剥方法 栽培技術	80%防疫  100% (論理のみ) 永年作としてベカンの決定	一部マカタミヤを導入 する 桑の給与と質、匹度	森屋吉五郎
上族の斉一性 新年度計回樹立 ベカン他永年作の選定 早期発見防虫	90%実現 個人別カード集積及樹立 ベカンマカダミアが有望 発生なし	今後種子所在地の調査 収獲対策が不十分	2Kg播種

アルトパラナ管農普及指導実施報告書

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区及 研究グループ名	
5 9 1	アフターザ予防注射	実務指導	牛飼育農家	3回
9	養蚕講習会		養蚕農家	2回
11	養蜂講習会		養蜂農家	1回
3	小麦栽培	実施指導	栽培希望農家	5回

実 績		実 績	摘 要
当初目標	実現した成果		
全飼育農家	70%		(1) SENALFA指導員によりアフターザ予防注射の実務指導 (2) 予防注射実施宛記手続指導幹旋
養蚕農家	70%		(1) ISEPSAの協力により 養蚕農家講習会
養蜂希望農家	50%		(1) 技協巡遊竹下技師により養蜂希望農家の講習会
栽培希望農家	100%		(1) O T C A江口技師により日系移住地各雑作物として小麦栽培につき実施指導して協働を得た。 (2) 当団が奨励している小麦につき印刷物等により指導した。 (3) 小麦栽培地区 (MISSIONES) を希望農家案内見学させた。 (4) 種子及び品種につき、同技師の幹旋協力を以て指導した。

月	対 策 計 画		対象グループ又は地区
	指 導 事 項	達 成 目 標	
5	植 林 育 苗	各農家が自分	植林希望農家
6	台湾桐の栽培	栽培管理知識の普及	台湾桐栽培希望農家
7	桑 園 造 成	適正桑園造成技術の修得	養 蚕 農 家
8			
5	家畜の予防衛生	予防衛生知識の普及	家畜飼育農家
9			
1	育蚕知識附与	正しい育蚕知識の普及	養 蚕 農 家
10			
4	ペカンの栽培について	栽培特に接木方法の修得	全 農 家
2			
4	個別経営指導	特に低位農家の経営指導 を中心とする	全 農 家
3			

実		績		
員数	方 法 場 所	担 当 者	協 力 者	
40人	講習会 農場	真 下	跡部氏	
30人	実施指導 栽培農家	真 下	栽培グループ	
100人	講習会、農場及び地域の 代表農家	花 木	ISEPSA 宮下専門家	
200人	パンフレット	真 下		
100人	実施指導各農家	花 木	ISEPSA	
30人	講習会 農協サロン	真 下	農 協	
150人	個別訪問指導	真 下	農 協	

月	項目	普及の方法	対象地区又は研究グループ名	
5	植林育苗	講習会	植林希望農家	1
6	台湾桐の栽培	実施指導	栽培希望農家	3
7	桑園造成	講習会	養蚕農家	5
8		実施指導		
5	家畜の予防衛生	印刷物	牛又は豚飼育農家	3
9		実施指導		
10	育蚕知識の附与	実施指導	養蚕農家	100
4				
2	ペカンの栽培	講習会実施指導	ペカン栽培希望農家	1
4	個別経営指導	個別訪問指導	特に低位農家を中心	150
3				

実 績		摘 要
当 初 目 標	実現した成果	
希望全農家	100%	
希望全農家	80%	
委垂農家及び希望農家	70%	農家の無感心
飼育全農家	90%	農家の認識不足
委垂農家又は希望	100%	
栽培希望全農家	50%	連絡の不徹底
低位農家及び融資 借入れ希望農家	70%	農家の努力の欠如

## 営農活動上の反省と所感

### 1. 移住地の営農現況と問題点

大部分の移住者は入植してから10年以上を経過し略々経済的な基盤は確立されたやと見受けられるがまだまだ満足するような状態にはない。

一日も早く確固たる経済基盤を築くため、この数年間は出来る限り経営の引しめを行う必要がある。

#### (1) 雑作(大豆、トモロコシ)を主体としている農家

人力による大面積経営にはそのずと限界があり、現在以上の飛躍を望むなら、早晚機械化営農への移行を考えなければならないが、移行するにはそれだけの基盤整備がなされなければならない。即ち自己資金の保有、適正なる経営面積、機械に対する知識と運転、整備技術等最低の条件が満たされていることが必要である。

無計画に機械を導入した場合は機械は遊休化し、いたずらに金利はかさみ営農拡大とは逆に経営を圧迫しないとも限らない。

#### (2) 養蚕を主とする農家

大型養蚕に移行するとしても大部分の農家が大なり小なり、過去に負債を抱えているので、資金調達がなかなか困難である。

無理をして従来の負債に上乘せし多額の借入金をもって大型養蚕に移行した場合、経営的にも危険を伴うので自己の能力に応じた規模で、型実に拡張を計らなければならない。

一方技術面から見ると、まだまだ研究の余地があり、時に省力化については台車の取付け自動条刈機の導入等をも含め今後の研究がまたれる。

#### (3) 雑作と養蚕を組み合わせた農家

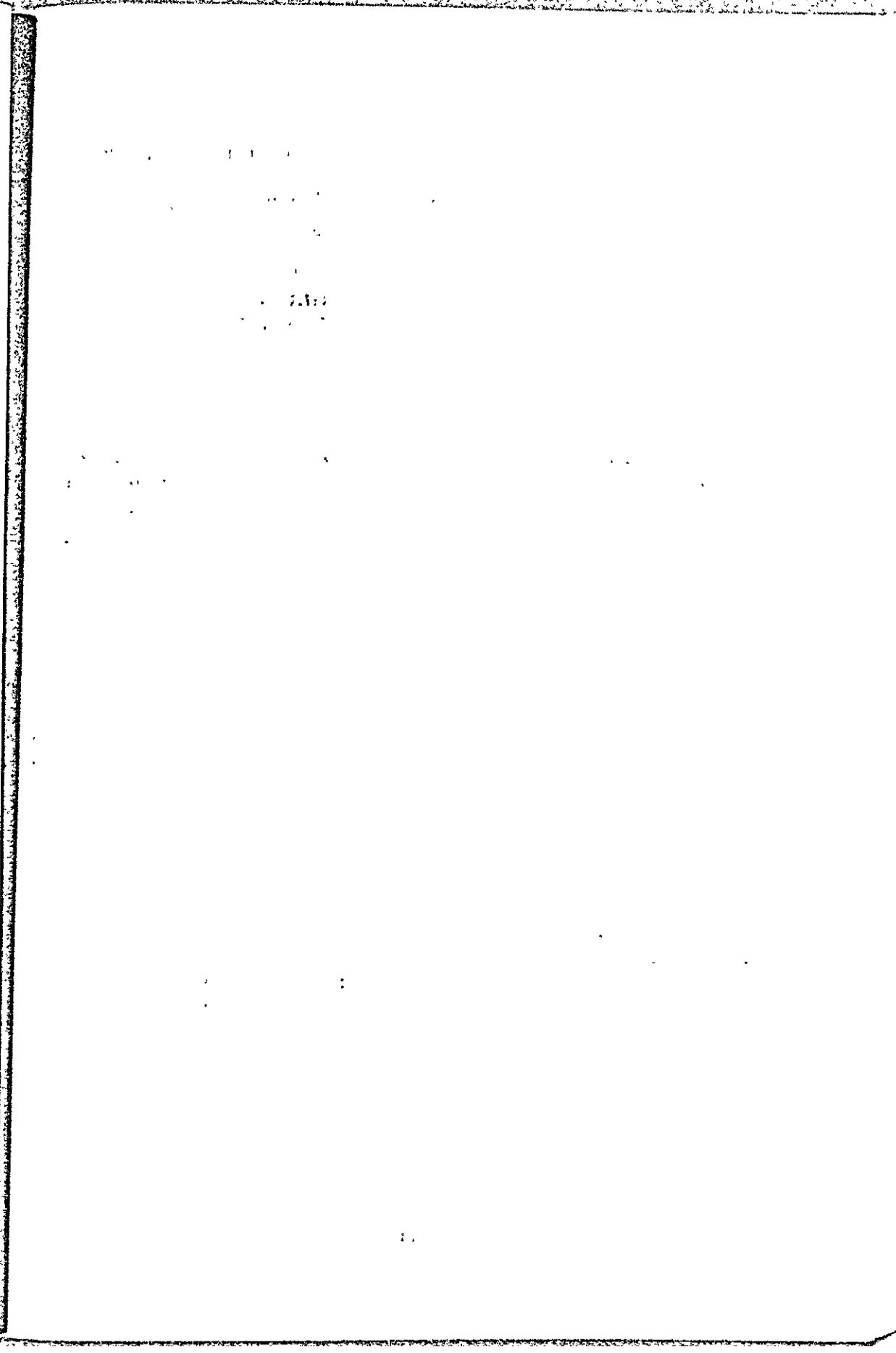
モノカルチャーの危険性をさける意味からも、二種目以上の作目導入は必要なので雑作、養蚕の組み合わせは有利な型態である。

但し極少量の養蚕をやることによって雑作畑を荒しどつちつかずの経営に落ち入る危険性もあるので稼働力資金量等を充分検討し、養蚕導入が経営にプラスになるようなことでなければならない。

#### (4) 将来の方向

当園の置かれている経済的、自然、社会的条件よりして、牧畜、植林な等関視することは出来ない。出来る限り早い機会に自己の能力の範囲内で牧畜、植林を導入することが望ましい。





営農普及活動実績報告書（アマンバイ）1971.4.~1972.3

普及指導事項	普及の方法	対象地区又は 研究グループ名	対象件数 実施回数	当初目標
養 鶏	講習会 個別指導 パンフレット 研修会に派遣 研究会 講演会 種子の導入斡旋 実地指導	市内、サンハブイタン シリグエロの3地区	15戸 講習会 2回 研究会 1回 個別指導2回 パンフレット3回	育雛技術 鶏病知識の普及
		サンハブイタン・シリグロ カナデンシアの3地区	サンブタタン20戸 シリグエロ8戸 カナデンシア7戸	(1)導入果樹 ペカン 30 マカデミア20 ブドウ 4 マンゴ 4 リンゴ 2 柿 2 (2)果樹の病虫害と薬 剂知識の普及 植付普及 50 消毒の励行
台 母 桐	パンフレット 講習会 個別指導	全 地 区	80戸	
養 蜂	パンフレット 講習会 改良女王蜂の導入	養蜂研究会	10戸	各戸5群の飼育 (2)果樹の病虫害と薬 剂知識の普及
		養蜂研究グループ	4戸	20群の改良
養 菜	講習会 パンフレット	全 地 区	40戸	育苗栽培技術の向上
養 蚕	講習会	全 地 区	1回 50戸	
気象データ 養菜雑誌 その他 計	データ集計 養菜雑誌の購入	全 地 区		

実 績		摘 要
実現した成果	実現できなかった要因	
期待値の70%成果	30%は資金繰りに50%の養鶏家が初歩で知識を充分吸収できなかったことによる。	養鶏農家は従来6戸であったが今年度より9戸増加した。
(1)導入果樹 ペカン       30ha マカデミア   20〃 ブドウ       0.5〃 マンゴ       1	(1)穂木の入手難と永年作を入れる余裕が農家にない  (2)果樹がまだ入っていない農家が多く関心がうすい為	ペカン等果樹を導入できた農家は主に優良農家である。
(2)当初目標の20% (1)植付       10ha (2)消毒の励行者10%	(1)適期に早げつが続いたこと、導入する時間的経済的余裕がなかった (2)病気の恐ろしさを認識していない。	
各戸平均 1群  13群 10%	蜂が凶暴過ぎること 蜂の捕獲が困難なこと 改良女王蜂の入手が困難である為 かん水施設を持たない農家が30%を占めているので天候まかせである。	
養蚕のアウトラインを把握桑園の造成計画樹立		今年度伯国バストスブラ拓製製糸との関連に於て養蚕を導入したという農家増加 未発表 農薬と協同

	指導事項	目 標	対象地区又はグループ	員 数
4月	マカデミアナットの 種子導入と育苗技術	今年10分のマカデミア苗 育苗アマンバイ導入果樹の選 定	カナデンシア	10戸
5月	各種果樹の栽培技術 果樹の病気と農薬		サンハピタン サンハピタン シリグエロ	10戸 30人
6月	馬鈴薯の栽培方法		全地区蔬菜農家	30人
7月	台湾桐の市場性 養蜂管理		全地区 "	90人 90人
8月	養蜂講習会 台湾桐の栽培方法 カフェー蔬菜栽培指導	カフェーの施肥法、肥料の基 本蔬菜の育苗技術知識	" "	20人 90人 60人
9月	養蚕講習会 養蜂技術指導	養蚕経営指導 鶏卵の知識	" 全養蜂農家	50人 14人
		飼養技術	"	14人
10月	養蜂指導 養蜂研究会	初歩の養蜂 養蜂技術の伝授	全農家 全養蜂農家	90人 14人
11月	アバカ栽培技術			
12月	ブドウ栽培技術 桃			
1月	ペカン栽培技術 パイナップル			
	養蚕講習会		全地区	50人
2月	果樹栽培講習会	バラグアイ果樹栽培	"	90人
3月	71年気象データ集計 改良女王蜂の導入 マカデミアナット委託育苗	当地区全群(20群)改良 女王に交換 サンハピタン地区に於ける 営農改善	養蜂研究グルー プ サンハピタン地区	3戸13群 20戸

実 績		備 考
方 法 場 所	協 力 者	
種子ジョンソン農場より導入育苗 個別指導 講習会 講習会 実地指導  パンフレット パンフレット  講習会  実地指導、講習会  講習会 市内で講習会、各地区個別指導  同 上  パンフレット サンハブインタシ野養鶏場 報 告 書 、 、 、 、 、 講習会実地指導  報告書 サンハブインタシ、筑前、大石、山 本、シリグエロ 種子委託育苗	アマンバイ農協 コチア産組 井上技師 バイエル技師 農 協   竹下養蜂専門家 (URTRAFERITIL社) 田中技師 成松養蚕技師 伯国 FERTIL 平尾健技師 伊藤種鶏場 浅海技師   URTRAFERITIL 社 田中技師 コチア産組 井上技師  竹下養蜂専門家 三浦良定氏浦場	アカデミアナット60kg導入     管農通信   市内、シリグエロ、サンハブインタシ にて、スライドと共に実施 農協主催 養蚕経営について   解剖実習外 サンパウロ果樹栽培技術報告書 、 、 、 、 ベカン、ブドウ主としての技術指導  13群中10群改良に成功

### 普及活動上の反省と所感

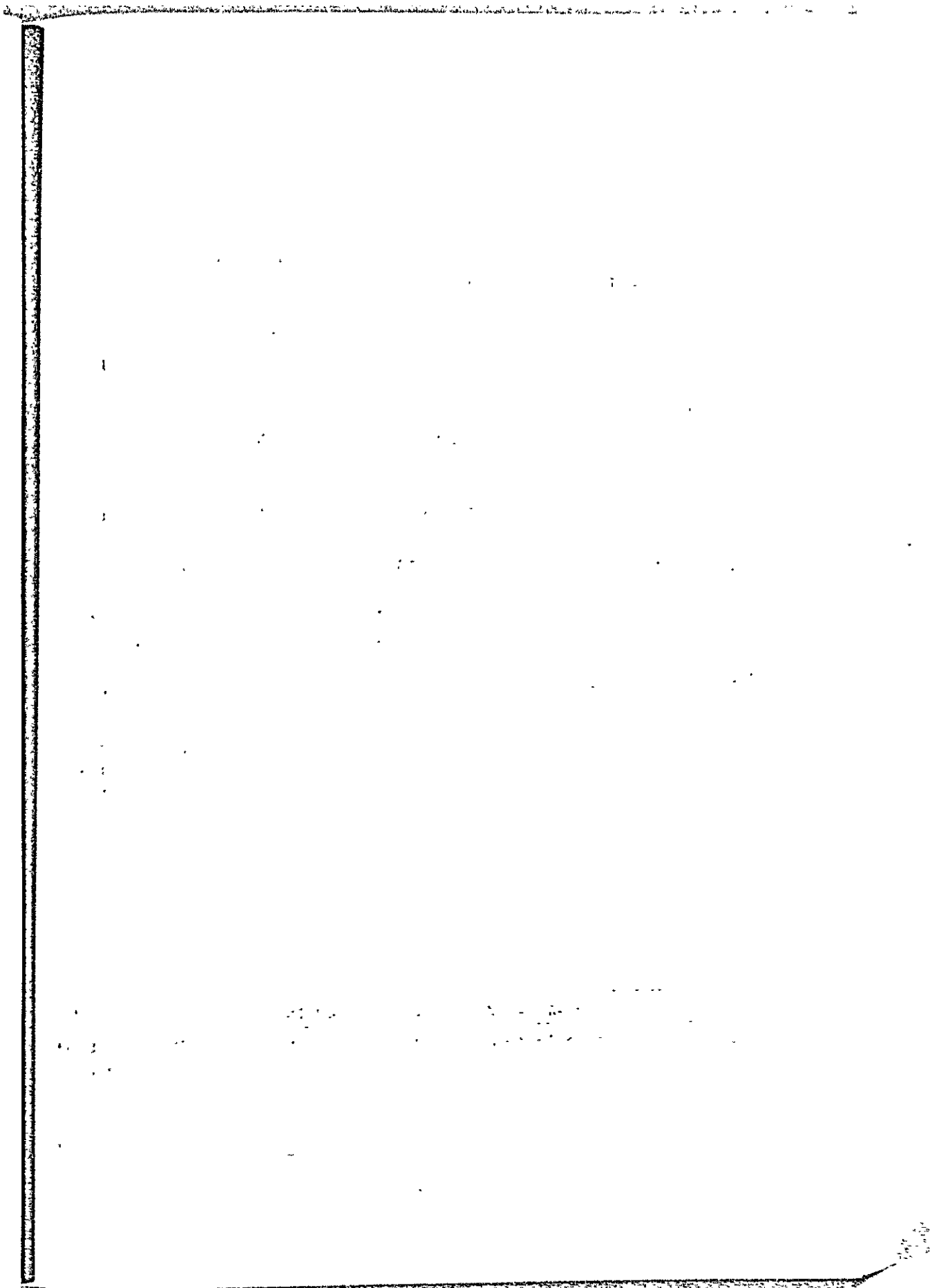
今後のアマンバイの方向としては、土地所有面積狭少(20ha以下45戸)土地肥沃度小借金大という現状の中では最低の投下資本で単位面積当りの収益を最大限に掲げる経営が必須条件である。それには当地区の市場現況からは永年作物を取入れる以外に現時点では方法がないと極言出来るに至っている。

その意味では46年度は、従来の雑作経営から永年作物への転換を成は霜害の危険性のあるカフェーから他の永年作物への転換を説きその技術向上の為の普及活動を行って来た。

しかし養鶏の如き短期換金作目を除き、永年作物の導入とその得た知識、技術の駆使はあまり行なわれなかったと見る、即ち農家としては有望と解っても、その新規作物を導入するだけの成は良いと解っても新しい知識技術を取入れるだけの経済的・時間的余裕がなかったというのが実情である。更に突込んで理由を挙げれば過去のカフェーブーム時代の既往債務が大きな重圧となって経営転換を困難なものとしていると言える。今後は、借金をどうするか、生活費、経営貸などの様に生み出しつゝ永年作物を取入れさせるがという個々の経営にも一歩踏み込んでの指導が必要となる。

現在、当地区で考えられる作目は下配の様なものであり、これを如何に組合せるか。資金繰をどうするかの問題が大きなキポイントなる。

永年の作目	カフェー	ベカン	台湾桐	柑橘	その他の果樹
半永年の	養蚕	養蜂	バナナ	パイナップル	
短期	雑作(大豆、フエジョン)	蔬菜	養鶏	養豚	



Ⅴ サントドミンゴ支部

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区名又は研究グループ名	対象件数又は実施回数
5月	輸出蔬菜研究 並びに情報相互交換	研修座談会	コンスタンサその他 放任の輸出蔬菜栽培者	1回
6月	市場視察調査	1 プエルトリコ 市場視察調査	上記の代表3名 支部より2名	1回
7月	市場視察調査	2 キュラソウ 市場視察調査	代表者 1名	1回
9月	現地視察調査	カリフォルニア花卉 栽培視察便宜供与	コンスタンサ 1名	1回
10月	市場速報配布	毎週プエルトリコ市 場速報をコピーは配 布	輸出蔬菜栽培者	週1回～ 3月迄
12月	経営者としての自覚をも たせる	営農通信発行	全移住者	1回
3月	移住者の営農状況把握	営農座談会	ダハボン ハラバコア コンスタンサ	1回 1回 1回

営農担当者の体制

氏名	所属事業所名	年齢	普及活動経験年数	担当農家戸数
二宅博敏	サントドミンゴ支部	43	3ヶ月	ダンボン地区 18戸 ハラバコア 15戸 コンスタンサ 15戸 その他 36戸 計 84戸



昭和47年3月

成		果		摘 要
当初目標	実現した成果	実現出来なかった要因		
<p>作付計画収益予想取引価格の情報交換</p> <p>市場調査委託打合せ並びに市場視察報告会</p> <p>代表者の視察調査報告会</p> <p>視 察</p> <p>プエルトリコ市場市況を周知する</p> <p>水稲蔬菜栽培の現況把握</p>	<p>輸出蔬菜について熱心な意見交換があり成果があったと思う</p> <p>現地を実際に目で見ることは非常によく成果はあったと思う。</p> <p>非常に勉強になりかなりな成果があったと思う</p> <p>輸出商人が取引上で言うのと違ってかなり成果があった</p>	<p>現況があまりにもひどく栽培技術経営改善以前の問題が山積して指導方針がきかなかった</p>		

昭和47年4月

担当面積	普及上の機動力	摘 要
<p>約6,500ヘクタール (400ha)</p>	<p>フォードライトバン1台</p>	<p>着任して日が浅く現況把握分析問題点等十分でない。</p>

000

3  
31

1111  
1111  
1111  
1111  
1111  
1111  
1111  
1111  
1111  
1111

1111  
1111  
1111  
1111  
1111  
1111  
1111  
1111

1111  
1111  
1111  
1111  
1111  
1111  
1111  
1111

1111 5  
1111 8  
1111 1

## 第 2 部

### 昭和47年度管線普及指導実施報告書

I レシーフエ支部

営農普及活動実施報告書

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区名又は 研究グループ名	対象件数 又は 実施回数
47. 7	(生産技術) 養鶏技術	(講習会) 経営の合理化・防疫対策 飼養技術の実際	ピオ12世植民地 ピウン植民地 (10戸)	1回
48. 3	養鶏の実際	(巡回指導) 養鶏の実際	ピオ12世植民地 (5戸)	1回
48. 3	花卉栽培	(巡回指導) バラ、グラジオラスの栽培	J・K植民地 ピウン植民地 (24戸)	1回 1回
48. 3	果樹栽培	(巡回指導) 柑橘類の栽培	J・K植民地 (30戸)	1回
47.12	(防疫技術) ゴム防疫	(講習会) ゴムの防疫講習会	ウナ植民地 (36戸)	1回
48. 3	胡椒の防疫	胡椒の防疫	イツペラ植民地 (含むオペア地区) (30戸)	1回

昭和48年3月

成 果			摘 要
当初目標	実現した成果	実現出来なかつた要因	
近代飼養技術の修得	—	近代化への資本投下に積極的ではなく、その日その日が過せばよいとの	講師： 福島佐京
養豚の実際	—	感が強いことと、資本蓄積がなく、融資による近代化投資に自信がないこと。	
花卉栽培の実際	50%	資金回転の早い花卉栽培に目が移り柑橘部門に対する関心が薄い、資金的蓄積の余のなさと土地	指導者： 春田秀夫
柑橘特の栽培	20%	基盤の狭さ故、永年作による採算性を危惧する向きもある。	指導者： 春田秀夫
防疫理論・実際管理技術	不詳		講師： CEPLAC 普及部長
TAPING と調整法 肥培管理の理論と病害との関係	不詳		講師： 高砂香料 日高善馬

昭和47年度委託栽培実績調

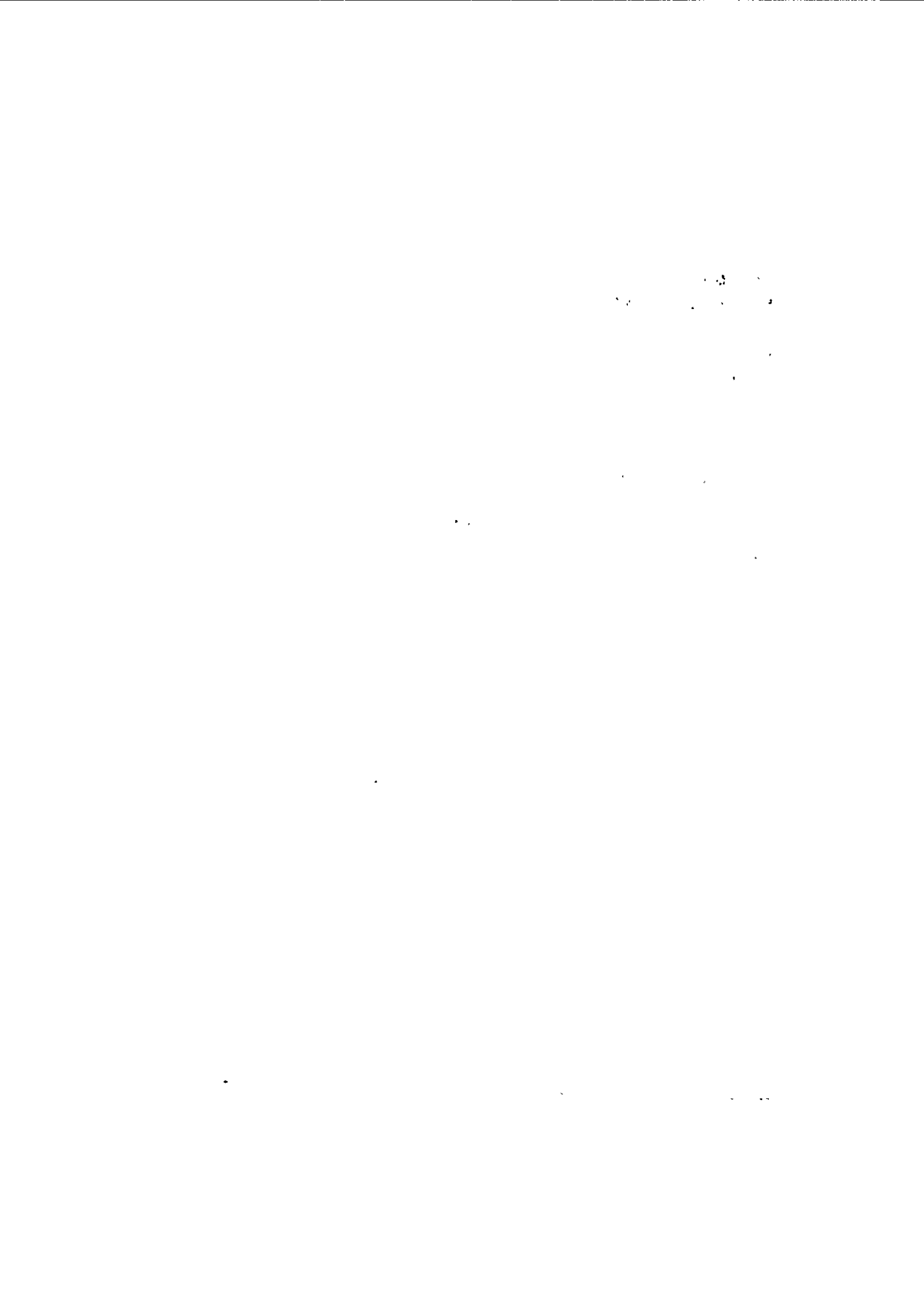
作物名	委託先	委託者名	面積本数	委託内容	実施目的
マカダミア ナッツ (継 5) 44. 3植	レシーフェ	坂口章司	KAKAE } IKAIKA } <sup>2</sup>	本圃に於ける 栽培適否試験	永年作物の探索と育成
カジュナツ (継 4) 45. 3播	ピウソ	長島良澄	1Ha 100株 CAJU- BKAS系	・	海側に舞点のある高台砂 地の利用としての永年作 物の育成
クマルー (香料) (継 3) 45.1 2播	ウナ	西本伍一 神崎実	各0.1Ha 40株 IPFAN系	本圃に於ける 栽培適否と胡 椒の灌水とし ての効用	胡椒との混作による第2 の香料作物の探索と育成
ゴヤーバ (継 2) 47. 2植	ピウソ	長島良澄	0.1Ha 30株	本圃に於ける 栽培適否試験	高台砂地利用としての永 年作物の育成
ピーニャ (継 2) 47. 2植	ピオ12世	西村定雄 藤原市郎	各0.1Ha 30株 (核無種) 1PA系	・	永年作物の探索と育成
ボンカン (継 2) 47. 6植	ピオ12世	土屋きかえ 小林保二	各0.1Ha 30本 1PA系	・	・

実績及問題点	所 見
<p>二品種共 接木後4年生、生長状況はKAKEAが5m、幹直径9cmで旺盛 I K A I K Aは当初より伸長がおそく3.5cm、幹直径4cmである。灌水の実際なし。葉に蛾が発生する</p> <p>定植後丸2年生、樹高平均1m、乾期は全くの乾燥で生長は殆ど停止する。目立った早害はない。Hosca Besalca(トゲムナシラミ)の虫害あり、集団防除しないと特に乾期に発生し易い。</p> <p>丸2年生で樹高4mに伸長、生育旺盛であるが風に弱い。生長が早いので混植用陰木によいと思われる。既に開花(10月~1月)した樹があったが結実に至らなかった。原因不詳</p> <p>特別な病虫害はない。</p> <p>丸2年生で樹高平均1m。施肥効果大きく、伸長とよい乾期の記録には強いが生育が止る。目立った病虫害はない。</p> <p>種子なし種(品種名なし)の穂木を導入、接木して育成中伸長度合は50cm平均である。介殼虫の発生がひどい。</p> <p>定植後2年未済で、平均伸長量は1.2m、特にナリーバ蜂の咬害、蟻虫害が大きい。</p>	<p>当地は幹期に相当な乾燥があり眼に見える早害はないが生長が止っている。未だ結果年令に達しないこと、供試本数が少ないので、開花期に達するまで 取で打切ることにする</p> <p>(本年度打切)</p> <p>本作物は耐旱性植物であり、砂地によく生育するが、施肥効果が大きい。高台砂地利用の作物としては期待が持たれる。</p> <p>(継 続)</p> <p>特に雨量分布のよいウナでは生長が旺盛で、J・Kのは乾期の乾燥で少し遅れている。いづれも生長は早いので苗叢の樹蔭木としての効用は大きいとみられる。</p> <p>(継 続)</p> <p>供試地は低地と高台との中間地帯であるので、比較的生育がよいが、この中間地帯の面積があまりないので規模は自づと限られる。</p> <p>(継 続)</p> <p>ピーコヤ樹(SUGER APPLE)は東北伯での嗜好性が大きく、適地性もあるので問題は少いとみられる。唯核無種は未だ市場になく州試験場でも試作中の段階で、有核種に比して甘味が出るから問題である。(継 続)</p> <p>当植民地は養蠶主体経営で、未だ永年作物が育成されていない。</p> <p>鶏糞を利用して果樹類の導入生産を面りたい。特にセアラ州との柑橘類は供給量が不足しているので期待される。</p> <p>(継 続)</p>

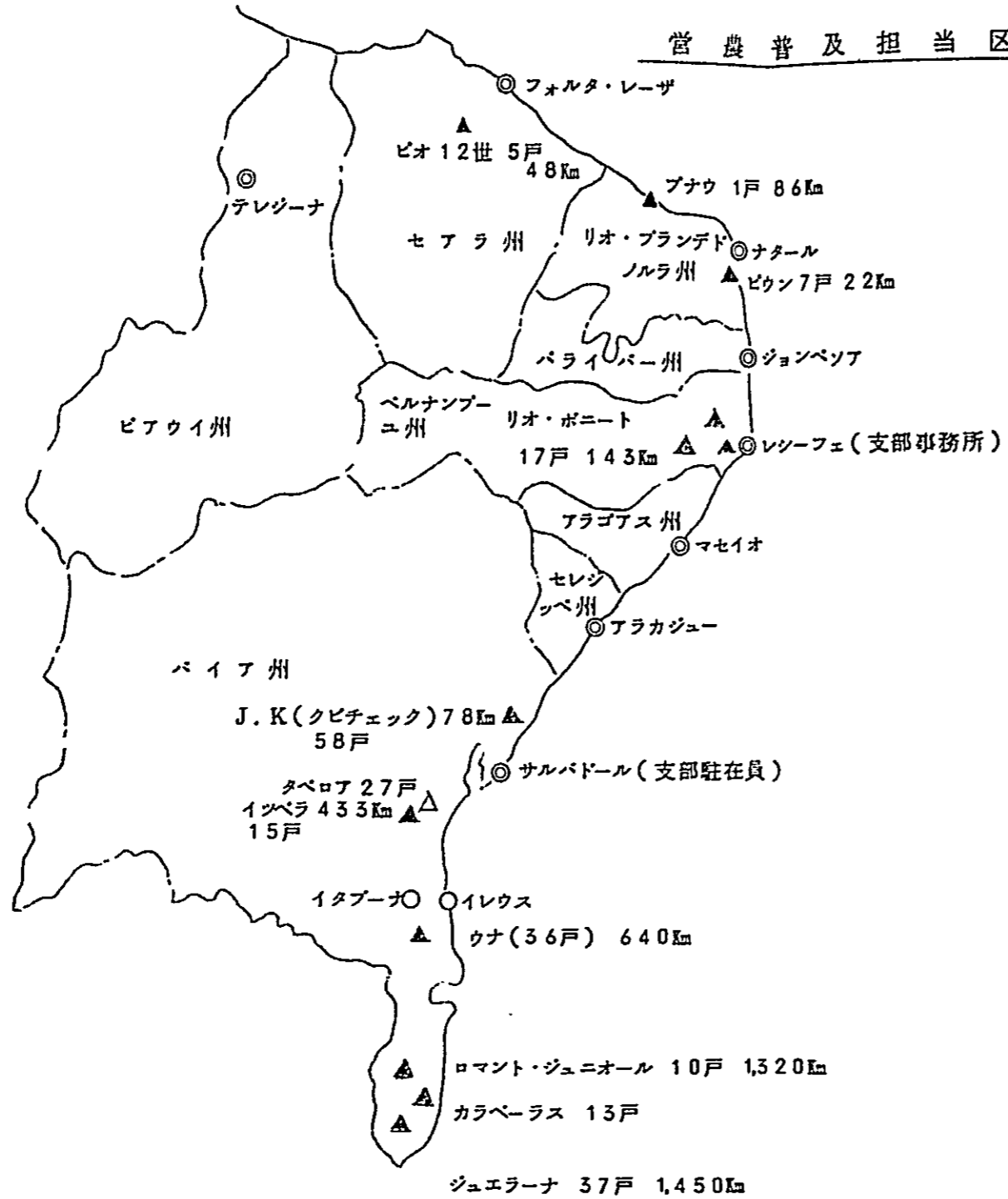
作物名	委託先	受託者名	面積本数	委託内容	実施目的
イヤーマ (大) 短期作物 気象観測	ピウン	松苗幸孝 田中太郎	各0.01Ha COSTA種	本圃に於ける 栽培適否試験	高台砂地利用の一環として 雨期に於ける短期作物 の探索と育成
	リオポニート (紐5)	藤原勇一		気温 湿度 降雨量 晴雨 日数	植民地内における局地気 象を観測し官農に資する
	イツペラ (紐3)	倉谷虎夫		,	,
	ウナ (紐3)	西本伍一		,	,
	J・K (新規)	竹並辰巳		,	,



実績及問題点	所 見
<p>雨期に於ける初期生育は良かったが、乾期の肥大期(芋)の早熟が激しく1株平均収量は0.5kgを下廻った。</p> <p>(気温)最高27.0°, 最低1.80°  (平均)22.2°, (湿度)82.9%  (雨量)1983mm  晴曇日 136日  雨日 230日</p> <p>(気温)最高30°C, 最低19.7  (平均)24.9°, (湿度)64.2%  (雨量)2368mm  晴曇日 187日  雨日 129日</p> <p>(気温)最高30°C, 最低21.4°C  平均25.7°C, 湿度72.5%  (降雨量)1528mm  晴天 222日  雨天 144日</p>	<p>施肥しても早熟抵抗性がなく、収益性が低く、経済性がない。(打切)</p> <p>前年度は乾燥度がひどく雨量が少なかったが、(1148mm)本年は多雨高温であった。年により降雨状況の変化が大きい。多雨のため短期作は低調であった。標高が高いため気候は温和高温、多雨の(AWS型)で乾雨期の判然とした区別がない。霖雨月は11月の33.5%でその他は毎月100%を突破している。晴雨日数は半々である。</p> <p>イツペラ植民地と同様の気候型で雨量分布がよい。</p>



営農普及担当区域略図



- 凡例
- レシーフェ支部 S. 47.4 現在
  - △ 邦人入植民
  - ◎ 州首都
  - 戸数 邦人入植戸数
  - Km 州都からの距離

## 普及活動上の反省と所感

### 1. 普及活動の限界について(反省)

本報告様式の制定が何年度に実施されたか定かでないが、移住地の設定・入植とすでに入植者の営農活動は、10数年に及び適地適作物の栽培パターンは夫々の植民地が有する営農の基本的立地条件に従い定形化している。

かかる現況下における普及指導活動の行着くところは、営農立地条件(土地・水利・社会基礎「道路・電力・衛生・教育・治安・農協・自治体・公共施設etc」)の改良・整備・導入・育成・建設等に対する対策の実施である。

このことはとりもなおさず、営農普及指導活動の範疇を大きく上回る対策業務であって、この対策の実行なくして入植地の抜本的飛躍はあり得ないと確信する。

しかしながらこれが対策は毎年変ることなく報告事項となっておるが実行はされておらない。従って普及活動の実態は、基本的改善がなされないままに栽培技術講習会・営農実績発表会等を主催するなど普及指導の入口を往來するのみで、その報告も作文に終始するのみで完全に形骸化していることに鑑み、この種報告書の提出に関し、再検討を煩わしたい。

### 2. ノルデステ地方における農業(向後の方向)

伯国政府の重要な政策に農業関係と農産物のコスト・ダウンを図る農業近代化があるが、この重点指向地は、ノルテ、ノルデステ地方である。そしてすでに当地方においては農業開発の基本的条件となる。社会財基盤整備への資本投下が活発に実施されており、これに併行し同地方の農業開発に民間デベロッパを誘致する開発計画が次々に実行に移される段階にある。

かようにして農企業への資本援助が政府の手で実施され、生産が軌道に乗れば、近代化が現有土地基盤(砂壌土にして高台、灌水量の絶対的不足に悩んでいる)の劣悪さ故に遅れている邦人移住者の営農は完全にダウンしてしまうであろうことが容易に予測出来るところである。

従ってこの余波を少しでも緩和するためには、①生産性の高い作物への転換と転耕、②適地適作物の一大産地化を進めるための資本投下を促進する以外に対抗策はないかと思われる。

この意味から従来の普及指導活動では、いかんとも1カブナユリ資本攻勢の波に洗われ邦人農業者の自然淘汰が進むこととなる。

営農担当者の体制

氏名	所属事業所名	年齢	普及活動経験年数	担当農家戸数
前田安隆	レシーフェ支部	37	15	39
前川利久	サルバドール出張所	47	15	114

## 48.4.1現在

担当面積	普及上の機動力	摘要
ベルナンブコ・セアラ リオグランデ・ノルテ州 パイア州	支部用車両	昭和48年3月退職。以後48年7月迄営農担当者なし

富農環境概況表

部 門	区 分	現 状
1. 自然条件	地 形、土 壤	標高30～40mの高台地と緩傾斜低地とに区別される。 赤色系植土又は砂壤土となっている。
	水 利	農業用水はダムからの給水によるが、水量不足のため時間給水制となっている。 飲料水は井戸水を利用している。
	気 象 観測地： フォルクレーザ	年平均気温……………23.5℃ 年平均雨量……………1,668mm 乾期8月～1月 雨期2月～7月
2. 地 権	地 権 交 付 ①経過年数12年 ②対象邦人戸数 5戸	未交付・分譲条件未定
3. 社会・経済	公 共 施 設	小学校・医務室・売店・IN CRA事務所・全職員住宅・運搬用車両あり
	環 境 衛 生	住血吸虫による肝臓障害症が散見されることから、中間宿主平巻貝が棲息しているものと思料する。
	電 気 の 導 入	中心地区のみ配電済
	教 育	小学生5名は植民地内小学校に通学中・高・大学はナタール・フォルクレーザ等の都市で寄舎通学している。
	自 治 体 組 織	ビオ12世混合農協(法定) 北伯産業組合 (任意) ビオ12世日本人会(5名)
	治 安	良 好

ピオ12世植民地  
昭和48年4月1現在

問 題 点	対 策
<p>有機物不足にして強酸性であり理学的性質は劣悪・微量要素に欠ける。</p> <p>総体水量が不足気味の上に、水路設計が不備のため漏水が甚しく農業用水が不足している。</p> <p>現地人の患者が附近に転居して来た場合、極めて危険であることから早期に撲滅し得る予防策が必要である。</p> <p>養鶏の生産性向上 植民生活の充実のために必要であるが、農家が散在しているため経費を多く要する。</p> <p>父兄の営農が安定していない今日、経済的負担が極めて大きい。</p> <p>いずれも有名無実的存在であり、運営の単位能力に欠ける。</p>	<p>有機質肥料(植物残・糞糞)と石灰の使用を指導する。</p> <p>IN CRAに対し水路改善を強力に要望していくが、総体水量が不足していることもあり、養鶏の拡大・耐旱作物の育成に重点を置くよう指導する。</p> <p>IN CRAフォルタレーザ支局に対し地権交付諸手続業務の促進方を要請すると共に日伯混合委員会における支局宛指令を実施願う。</p> <p>石灰窒素の水田地・水溜・池等に対する撒布による中間宿主平巻貝の撲滅を計る。</p> <p>入植者の経済的自立能力をつけることが先決であり、しかる後融資ベースで考慮したい。</p> <p>奨学金制度の実施適用</p> <p>生産物の出荷販売面については協業化を検討指導する。</p> <p>フォルタレーザ所在日本人会(40戸)と連合した組織活動を育成する行政事務費補助の継続</p>



部 門	区 分	現 状
4. 農業基礎 条件	道 路	未舗装であるが砂質のため損傷は少ない。IN CRA による補修が行われている。
	農地所有面積及び利 用状況	1戸平均13.3ha；利用面積4ha
	農 業 災 害 災	短期作物については一応防除技術を有するので問題は ない。 養鶏については昨今一部にマレック氏病の発生をみて いる。
	適応作物の確定状況	養鶏主体の営農で、永年作物としてはカジュウ・ゴヤ バ・イチジュク・グラビオラが少数栽培されている。
	経 営 の 近 代 化	養鶏は一戸当り成鶏2,000羽で平均産卵率は67% 平均で飼料は殆んど購入しており、養鶏収入が農業総 収入の90%を占めている。
市 場 立 地	州都ホルタレーザ 距り48km 人口：96万人	

問 題 点	対 象
<p>有効巾員が狭い</p> <p>INCRAは地権交付作業の前提としてロッセテ再測量を実施した。これがため1戸当り所有面積は拡大される見込み。</p> <p>利用度が低いのは農業用水の不足と耐旱作物の育成が遅れているためである。</p> <p>疫病に対する基礎知識と防疫に対する注意に稍々欠ける。</p> <p>永年作物については今後早害に注意を払う必要がある。</p> <p>丘地利用の困難さもあり、基幹永年作物が未確定である。</p> <p>鶏舎施設が不十分であり、飼料確保も安値時資金不足のため充分ストックできず、飼養規模も未だ小さい。</p> <p>永年作収入が皆無で営農安定度が低い。</p> <p>フォルクレーザ市における消費量・販売力・流通機構が充分調査されていない。</p>	<p>INCRAに対し強力に改善を要望する。</p> <p>丘地開発利用のため委託栽培を継続実施する。</p> <p>1 防疫研修の継続強化</p> <p>2 雇用労力の節減に努めることにより経営の合理化と責任の自覚度を高める。</p> <p>委託栽培の継続実施</p> <p>1 バタリー若しくはゲージによる飼育への転換</p> <p>2 共同飼料庫(サイロ)、配合施設の設置、協業化促進を指導する。</p> <p>3 技術研修の強化</p> <p>1 市場調査指導</p> <p>2 販売改善指導</p>

宮農環境概況表

部 門	区 分	現 状
1.自然条件	地 形・土 壤	標高20m低湿地と高台地(砂地)よりなる。
	水 利	河川水も利用している。但し低地のみ
	気 象	平均気温 23.3℃ 雨 量 1,396mm 乾期10~2月 雨期3~8月
2.地 権	地 権 交 付	未交付・分譲条件未定
3.社会的条件	公 共 施 設	小学校・工業学校・修理工場・INCRA事務所・職 員住宅・運搬用車両
	電 気 導 入	中心地区のみ配電済
	環 境 衛 生	住血吸虫の中間宿主平巻貝が近傍河川に見られる。
	教 育	小学校は植民地区 中学校以上はナクール「生徒の家」 があり、寄宿通学している。
	自 治 体 組 織	ピウン日本人会(7戸加入)
	農 協 関 係	1 ピウン河混合農協(法) 2 北伯産業組合 (任)
	治 安 道 路	凶悪な犯罪はないが、ゴソ泥は相当存在する。 地区内道路は全面砂質で極端な損傷はないが、良好と はいえない。
4.宮農基礎 条 件	農地所有面積及び その利用状況	1戸平均52.3Ha 利用面積平均4.4Ha

問 題 点	対 策
<p>○低湿地：地下水位60～80cmでPHは4.0前後の強酸性相壤土</p> <p>○丘地：有機質が少なく5.0前後の強酸性砂質土</p> <p>○乾期の終期若しくは雨期に氾濫し短期作物に水浸害が頻発する。</p> <p>早期に換地対策が必要 父兄の営農が安定していない今日、中・高校への進学経費負担は大きい。 戸数が少ないため自治会としての活動が困難</p> <p>何れも有名・無実的存在であり、運営の単位能力に欠けている。</p> <p>路面が狭く砂質土で柔軟となっており、特に低地との往路は車輛の利用が限られている。 利用度は極めて低いが、大部分が砂丘地で利用方式は未検討</p>	<p>河川の浸食実施委（INCRA）</p> <p>INCRA支局に対し地権交付に伴う諸業務促進要請と日泊混合委員会等における推進</p> <p>入植者家屋も連続して且つ短区間にまとまっておりますり導入し易い条件下にあるのでINCRAに強力を要望して行く 殺菌剤を補助金により継続して投与する。 育成（英）助成とともに、大学・高校生に対する奨学金制度の実施適用 ナタール近郊散在移住者を含め、親睦と連携を図るよう指導する。 特に対策は必要としないが、販売面の研究指導が必要である。 入植者に不断の注意を喚起する。 路面改良をINCRAに要望する。</p> <p>丘地用栽培作物を開発するためカシューナット ゴヤバ・イヤメーetc.を委託栽培試験を継続している。</p>

部 門	区 分	現 状
	農 業 災 害	水害 湿害 低湿地での連作害丘地での旱害がある。
	適 応 作 物 の 確 定	短期作物＝メロン・西瓜・トマト・米・グラジオラス 多年作物＝バナナ 永年作物＝ココ椰子 1,500本 カシュー 1,000本
	経 営 近 代 化	限られた低地短期作が主体の営農であり近代化の要素が見られない。
	市 場 の 立 地 条 件	州都＝ナタールに20km 人口 270,000人 レシーフェに300km 人口 1,200,000人

問 題 点	対 策
<p>河川が氾濫すれば水浸害となり氾濫がないと沖積土の堆積がなくなり連作害が発生し易い。</p> <p>永年作物の経済性が未知数である。</p> <p>交通事故、優良農家の他地区転住等もあり平均農家所得は減少しつつあり、資金の蓄積・経営の改善が困難になりつつある。</p> <p>特に問題なし</p>	<p>① 丘地利用を早期に進めて営農の安定度を高める。</p> <p>② 土壌の改良指導(?) 委託栽培の結果により強力な増殖指導を実施する。</p> <p>当面更生資金の利用により営農再建を指導して行く。</p> <p>更生資金利用による養鶏の販売・市場について調査指導する。</p>

宮農環境概況表

部 門	区 分	現 状
1. 自然条件	地 形、土 壌	標高600~800mの山腹地で緩急傾斜地、小河川に富む。花崗岩母材 赤色砂壤土と云われている。
	水 利	農業用水・河川水又は私設貯水池を施設している。
	気 象	平均気温 20.9℃ 雨 量 1,436mm 雨期3~8月 乾期9~2月
2. 地 権	地 権	地権未交付、分譲条件未定
3. 社会的条件	公 共 施 設	小学校農協事務所・組合・売店・倉庫・修理工場・製材所 IN CRA事務所・職員住宅・運搬用車両・診療所
	電 気 導 入	中心地区配電済み
	環 境 衛 生	平巻貝は根絶せず一般に良好、飲料水は河川水を使用している。
	教 育	小学校は教室(4)、図書室(1)、大ナロン(1)、TV教室(1)、給食用倉庫(1)、炊事室(1)があり、教員(5名)で充実している。 中学校はポニート町又はレシーフェ市、高校以上はレシーフェ市に寄宿通学している。
	自 治 体 組 織	リオ・ポニート共栄会
	農 協	1 リオポニート農協 (法) 2 中伯産業組合 (任)
	治 安	良 好

問 題 点	対 策
<p>開拓が進み使用量が増大しているので将来、水源涵養と効率的な使用を考慮していく必要がある。</p> <p>熱帯圏にあり乍ら標高が高いため、温暖気候を呈し、特に雨期は多雨冷源となり、乾期は早魃がみられる。</p> <p>特に問題はない</p> <p>特に問題なし</p> <p>開拓が進み農薬の使用が増加しているため、現状河川水を飲用することは危険である。</p> <p>上級学校進学に要する父兄の負担が大きい。</p> <p>活動はまだ低調である。</p> <p>法定農協は、日伯混合農協で創立は昭和46年4月1日。現在の活動は運輸・販売を行っているが、近いうちに購買・厚生(診療所運営)を開始する予定。 中伯産業組合は有名無実</p>	<p>貯水池の増設による収支コントロール永年作物・防風林(兼水源涵養林)の増植指導の要あり。</p> <p>委託気象観測の経緯</p> <p>他連邦植民地に対する促進対策と同様</p> <p>INCRAが電気導入計画をもっているため、実現促進について要請して行く</p> <p>試験の結果、良好な飲料水が得られれば井戸を設置するようにさせる。</p> <p>水源調査について予算化を図る。</p> <p>育英助成とともに大学・高校生に対する奨学金制度の実施適用</p> <p>隣接放任移住者を含め、自治による行政サービスの活動を徐々に助長して行く。行政事務費補助の経緯実施。</p> <p>INCRAが直接介入して指導を強めているが意思の疎通を欠き勝ちであるため側面的指導が必要</p>



部 門	区 分	現 状
4. 営農基礎 条 件	道 路	補修が不断に実施されているため概ね良好である。
	住 宅	1. INCRAにより建設された規格住宅 (5戸) 2. 入植者が自力で建設した仮住宅 (12戸)
	農地所有面積及び その利用状況	1戸平均 2.5 Ha 利用面積 7.9 Ha
	農 業 災 害	顕著な事象は見受けられないが風害・旱害に留意する必要がある。
	適正作物の確定状況	柑 橘 類 = { 成 木 4,600本 未成木 4,300本 ゴ ヤ バ = { 成 木 450本 未成木 1,700本 バ ナ ナ = 2,000本 マラクジャ = 10,000本
	経 営 の 近 代 化	基幹作物の育成が遅れている。又債務が大きく資金収支を圧迫している。
	市 場 立 地	蔬菜機械の利用は進んでいるが改善の余地は大である。 レシーフェ市 143km 人口 = 1,200,000人 ポニート町 8km 人口 = 10,000人

問 題 点	対 策
<p>ポニート町への城外連絡道路は急勾配で側溝がないため、特に雨期は車輛の運行が危険となり易い</p> <p>仮住宅は荒壁で塵埃がたまり易く極めて非衛生的であり、倒壊の虞れのある住宅も見受けられる。</p> <p>短期作の収入地位が高いため、未だ利用面積が少ない。(?)</p> <p>樹園地面積は1戸平均3.5Haで2Ha未満の農家が50%を占めている。</p> <p>谷間段により樹形が変形したりバナナの葉が裂けたりする例がある。</p> <p>産地形成競争に打ち勝つための優良種品(品)生産と販売技術を早期に修得する必要があるが関心は未だ低調である。</p> <p>マラクジャの成育は極めて良好である。</p> <p>輸送所要時間(3~5時間)道路状況 市場の大きさからみて特に解決を急ぐ問題はないが、不断に市場調査を継続して実施する必要がある。</p>	<p>市員拡張・側溝附設等を実施するようINCRAに要請する。</p> <p>今後、自力で住宅改善の困難な者に対し更生資金の貸付を進めて行く</p> <p>永年作物の増植指導を強化し所要資金融資を行う。</p> <p>防風林の敷設指導</p> <p>① 技術研修の継続と強化 ② 販売技術の研究 ③ 品種別市場の確保</p> <p>① 基幹作物の肥培管理及経営指導 ② 防風林・草生栽培の指導 ③ 経営規模の拡大と機械利用の改善</p> <p>市場調査(マラクジャ・柑キツ・ゴヤバetc)の継続実施</p>

宮殿環境概況表

部 門	区 分	現 状
1.自然条件	地 形、土 壌	標高90~100m緩やかな起伏のある丘陵地。第3紀砂岩母材。植壤土ないし砂壤土
	水 気	農業用水—河川水 年平均気温 22.8℃ 雨 量 1,813mm 雨期3~8月 乾期9~2月 (サルバドール出張所)
2.地 権	地 権 交 付	土地代(400~500CR\$)の支払次第地権を交付している。
3.社会的条件	公 共 施 設	小学校(4) 診療所・売店・修理工場・集荷場・運搬用車両・職員住宅
	電 気 施 設	中心地区は配電済み
	環 境 衛 生	平巷貝の糞息が一部にみられるが一般に環境は良い。
	教 育	ア 伯語教育—小学校は地区内4校のうち、3校の通学。中学校はマツタ・ヂ・ナンジ・アンに通学。高校・大学はサルバドールにて寄宿通学している。 イ 日語教育—ルンダ・イタピシリカの2地区において日曜日に入植者2名の犠牲的奉仕により辛うじて維持されている。 生徒数 ルンダ 15名 イタピシリカ 10名
	自 治 体 組 織	J・K自治会 158戸 (協力団体としてJ・K青年会がある)
	農 協	J・K農協 (注) , (任)
	治 安	過去に婦女子暴行殺人事件があったが、近年この種犯罪は見受けられない。

問 題 点	対 策
<p>海岸地帯のサールパドル測候所によるデータは、海岸森林地帯にある当植民地とでは降雨量気温の差が相当認められ利用度が薄い。</p> <p>入植者が約60戸あり、自治活動も活発になりつつあるが、一堂に会する集会場所がない。</p> <p>住血吸虫防疫対策の実施 設備教材も殆んど皆無で日語教師の無給奉仕では、教育の向上にも限度があり、運営も永続させず問題である。</p> <p>活動は次第に活発となっているが未だ地区間に感情的な対立がみられる。</p> <p>法定農協は 卵事業が厚農に伸びているので再建の目的が立ちつつある。任意農協は有名無実イタビシリカ地区を中心に市街地の荒廢、空ロツテの再生林化等治安上 好ましくない状況であり再発の危険がある。</p>	<p>気象観測委託の実施</p> <p>自治会の基礎ができ財政力が高まれば公民館建設の一部を補助する。</p> <p>殺菌剤の継続投与 日語教育の助成開始 (現在教師謝金・設備教材)</p> <p>戸数が多く地域も広汎であるので自治活動の必要性が大である故 従来の行政事務費補助に人件費補助を加えたい。</p> <p>治安確立のため警官の駐在と機動力の強化が必要(オートバイ)</p>

部 門	区 分	現 状																								
4. 営農基礎 条 件	道 路	一部を除き道路の損傷が全般に甚だしく要、補修及び延長は40kmに達する。																								
	通 信	州都サルバドールに80kmの近距離にあって電話・電報・手紙はすべて隣のmata de são joãoからである。																								
	農地所有面積並びに 利 用 状 況	1戸平均 22Ha 1戸当り平均耕地面積 5.8Ha 1戸当り平均樹園地面積 2.1Ha																								
	農 業 災 害	胡椒の根腐病発生の危険あり																								
	対応作物の確定状況 (19717現在)	<table border="0"> <tr> <td>柑 橘</td> <td>成 木</td> <td>5,380本</td> </tr> <tr> <td></td> <td>未成木</td> <td>7,435本</td> </tr> <tr> <td>胡 椒</td> <td>成 木</td> <td>2,250本</td> </tr> <tr> <td></td> <td>未成木</td> <td>6,790本</td> </tr> <tr> <td>マラクジャ</td> <td>成 木</td> <td>7,140本</td> </tr> <tr> <td></td> <td>未成木</td> <td>3,390本</td> </tr> <tr> <td>ゴヤバ</td> <td>成 木</td> <td>720本</td> </tr> <tr> <td>パ ラ</td> <td>成 木</td> <td>6,600本</td> </tr> </table>	柑 橘	成 木	5,380本		未成木	7,435本	胡 椒	成 木	2,250本		未成木	6,790本	マラクジャ	成 木	7,140本		未成木	3,390本	ゴヤバ	成 木	720本	パ ラ	成 木	6,600本
	柑 橘	成 木	5,380本																							
		未成木	7,435本																							
胡 椒	成 木	2,250本																								
	未成木	6,790本																								
マラクジャ	成 木	7,140本																								
	未成木	3,390本																								
ゴヤバ	成 木	720本																								
パ ラ	成 木	6,600本																								
経 営 の 近 代 化	永年作物(柑橘他)の規模が少ない。																									
市 場 立 地	サルバドール市 人口：1,030,000人 マッタデサンジョマン市 人口：20,000人																									

問 題 点	対 策
<p>州政府も部分的には補修を実施してきているが効果的でなく、今後は殆んど実施される見込みはない。</p> <p>自治会活動の業務連絡・治安・その他の緊急通信・社会文化教育の向上、広報等の実施が通信手段でないため殆んど皆無である。</p> <p>開拓面積、農地利用面積を多永年作物植付面積が入植経過年数に比し極めて少ない。</p> <p>現在の処、明瞭な収量は出していないが専門診断をしてみる必要がある。</p> <p>基幹作物として育成中の柑橘類、胡椒、マラクジャの1戸当り作付面積が少なく、短期作の比重が大きい。</p> <p>基幹作物は年々増加中であるが、現在の1戸平均作付量は柑橘0.85ha、胡椒0.14ha、マラクジャ0.3haである。</p> <p>州都に近いので短期作の比重が大きく永年作の意識が薄い</p> <p>特になし</p>	<p>4年計画で側溝設定を含める本格的な補修を実施する経費の一部を補助し以後の維持管理を容易に且つ完全に実施できるようにする。</p> <p>将来、有線放送施設の設置の一部を補助することを検討する。</p> <p>永年作物の強力な増植指導融資の永年作物に限定した貸付の徹底</p> <p>根腐病の早期発見と防疫上の措置を行う。</p> <p>永年作物増植は当面1戸当り5haを規模として普及指導を統行する。</p> <p>永年作物栽培振興(5ha目標)のため巡回指導・専門指導委託研修・融資の強化を期する。</p>

部 門	区 分	現 状
1. 自然条件	地 形、土 壌	標高140~230m起伏の多い山陵地、第3紀層砂岩母材、肥沃度の高い砂壤土である。
	水 利 気 象	農業用水：河川水・松設ダム水流量高で滝が多い。 年平均気温 (不詳) 雨 風 2,130mm 雨期2~7月 乾期8~1月
2. 地 権	地 権 交 付	未 交 付
3. 社会的条件	公 共 施 設	小学校・診療所・倉庫・修理工場・共同作業場・職員住宅
	電 気 導 入	中心地区は配電済み、市街地に起居する3戸を除き電気はない。
	衛 生 環 境	入植当初マラリヤが発生した経緯があるが最近では発生をみていない。
	教 育	小学生は植民地内。中学校・高校はイツペラ若しくは、パレンナの学校へ通学している。
	自 治 体 組 織	イツペラ日本人会(15戸)
	農 協	イツペラ混合農協 (法) イツペラ産業組合 (任)
	治 安 道 路	良 好 概ね良好(INCRAにより随時補修)
4. 営農基礎条件	農地所有面積並にその利用状況	1戸平均 20Ha 1戸当り平均利用面積 18Ha 1戸平均樹園地 17.8Ha

問 題 点	対 策
<p>特になし</p> <p>海岸山脈に位置しているのでサルバドールのデータは利用出来ない。</p> <p>倉庫は旧収容所であり、これが管理活用を図る必要がある。</p> <p>特に問題はない</p> <p>上級学校進学者の家庭負担が大である。</p> <p>活動は未だ軌道に乗っていないが意欲的である。</p> <p>活動は未だ軌道に乗っていないが意欲的である。</p> <p>法定農協は有名無実 任意農協は発足した許りである。 (S. 47.2.13)</p> <p>特に問題はない。</p> <p>管内では最も土地利用が進んでおり樹園地面積が大部分を占めている点開拓進度は高い。</p> <p>:</p>	<p>気象観測委託の継続実施</p> <p>最終的にはINCRAへの移管を経て入植者の集会所・宿泊等の利用施設として活用する(?) 入植が放任してバラバラに行われている。</p> <p>巡回診療の継続実施</p> <p>育英助成とともに奨学金制度の実施適用</p> <p>隣接タペロア郡内のアマゾン地域から転住した邦人(15戸)を含む自治会を指導し行政事務負担補助の継続実施</p> <p>香辛料作物を中心としたイツペラの基幹作物の生産販売グループの指導という側面を考えていくこととし農協活動としての育成は当面考慮しない。</p> <p>丁字・胡椒の混作等により土地利用の高度化を図る。一方新規ロッテの取得奨助により土地拡大を図る。</p>



部 門	区 分	現 状
	農 業 災 害	<p>胡椒根腐病</p> <p>適応作物の確定状況</p> <p>丁 字 成 木 1,700本</p> <p>          未成木 6,000本</p> <p>胡 椒 成 木 12,200本</p> <p>          未成木 7,500本</p> <p>ピアナーハ 成 木 12,000本</p> <p>柑 橘(成・未成木) 1,650本</p> <p>ゴ ム 2,000本</p> <p>カ カ オ 500本</p>

問 題 点	対 策
<p>既に根腐病の発生が認められ（連邦農務省） ている。</p> <p>永年作物のうち現金収入を挙げているのは、 丁字と胡椒、<sup>11</sup>次で若干の柑橘であるが確定し た適応作物としては胡椒と丁字である。特に 胡椒は病害に弱く又新植も急ピッチで進んで いるのでこれが防疫対策が最重要課題である。</p>	<p>病害防疫講習会の実施継続</p> <p>胡椒の根腐病の蔓延と丁字の生産過剰の問題 が出て来ると予測されるので、これらに次ぐ 第2作物の採果育成（オールスパイス、肉桂 e t c . 委託栽培）</p>

農作物・家畜別概況表

部 門	区 分	現 状
1.家 畜	産 卵 鶏 飼 育 (5戸飼養数17,000)	耕地割が短冊型の上に、公共ダムの絶体水量が不足しており、ダムより下手の農家は水量不足により蔬菜栽培での営農拡大は望めないことから産卵鶏を導入。現状農家総収入の90%は養鶏収入である。その他牛・馬・豚等の家畜収入が見受けられるが経済単位ベースのものでない。
2.永年作物	柑 橋 (29本) マラクジャ (300本)	比較的水量の多いロッテ所有者により栽培されているが、これ以上の増反は望めない。
3.短期作物	稲 作 (2.7Ha)	同 上

問 題 点	対 策
<p>養鶏技術水準は低位で早く云えば100羽程度を飼育する素人的な方法が半数を占めていることから、相当な設備資金と飼育指導を要する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 養鶏技術水準の向上（設備改良飼育技術指導）</li> <li>2. 養鶏羽数の増加（平均5,000羽確保を目標）</li> <li>3. 乾燥に強い永年作物の育成（カシュー）</li> </ol> <p>— 対策の区分 —</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. については講習会・先進地視察等による普及指導を最重点とし、技術水準の向上については、設備融資等の資金手当を実施する。</li> <li>2. については拡大資本としての融資金手当を最重点とする。</li> <li>3. については試験作物の委託栽培を継続する。</li> </ol>

部 門	区 分	現 状
1 永年作物	①バナナ栽培 (8戸=20,000本) ②カシムー栽培 (6戸=850本) ③椰子(ココ) (8戸=1,200本)	<p>所有地の大半が高台地にあるため灌漑に相当な施設を要することから未利用地が多い。</p> <p>従って低地の短作経営とバナナ栽培が経営の主体となり安定的経営に達していない。</p> <p>① 低地は雨期到来の早晚により水害の不安がある。            ② 雨期は低地が滞水するので陸稲作に限られる。            ③ 所有面積の大半を占める高台地が充分利用されている。</p>
2 短期作物	①西瓜 (収量=215t) ②トマト ③キャベツ ④花  弁 ⑤メロン	<p>灌漑施設不要な低地での乾期野菜作の偏重である。</p>

ピウン及びブナウ植民地  
昭和47年4月1日現在

問 題 点	対 策
<p>① 高台地の利用について普及作物を確立する。</p> <p>② 家畜導入がなされていない。</p>	<p>1. 揚鱈・石灰窒素の利用による施肥法の改善と輪作</p> <p>2. 鶏・豚の飼育奨励指導</p> <p>3. 高台地の利用(カシニ栽培)</p> <p>対策区分</p> <p>1. については普及指導を優先させる。</p> <p>2. 普及指導と共に導入資金を融資する。</p> <p>3. 委託栽培を継続する。</p>
<p>① 連作害が見受けられる。</p>	

部 門	区 分	現 状
1 永年作物	①ボンカン (成木3,800本) ②レモン (成木1,200本) ③ゴヤバ (成木900本) ④グラビオラ (成木350本)	当地の特色である温暖な気候を利しボンカン・ゴヤバ等の永年作物を中心とした経営に移行中であるが、全体として営農安定本数に達していない。
2 短期作物	①西 瓜 (615t) ②人 参 (120t) ③キュウリ (150t) ④ピーマン ( - ) ⑤イヤミ ( - )	乾期短作物のみで灌水・農薬等生産費コスト高の傾向にある。

問 題 点	対 策
<p>① 永年作物の導入が充分でなく且つ改良種に対する関心が薄い。</p> <p>② 標高が高く起伏が大きいことから灌水設備投資が大である。</p> <p>③ 市場まで140km 雨期における多雨冷涼による蔬菜生産費の高</p>	<p>1. 収益性の高い雨期換金作物の育成(ニンニク・薑)を指導する。</p> <p>2. 基幹永年作物の育成拡大(ボンカン・ゴヤバ)</p> <p>3. 小規模養殖若しくは家畜の導入</p> <p style="text-align: center;">対策区分</p> <p>1. については普及指導を最重点とし普及試験を行う。</p> <p>2. については普及指導と共に増産融資を実施する。</p> <p>3. については普及指導と施設資金を手当する。</p>



部 門	区 分	現 状
1.家禽家畜 (5戸)	採 卵 鶏 ( 1,500羽 )	ブナウ・ボニート植民地より転住入植してより6年経過 レシーフェ市への近距離にあることから、営農は各自の立地条件 特性を生かし、多様化しているが内容は良好と云えない。
2.永年作物 (5戸)	柑 橘 ( 1,000本未成共)	
( ● )	ゴ ヤ 六 ( 420本未成共)	
( ● )	パ ラ ( 200本 )	
3.短期作物 (5戸)	①西瓜(47t販売) ②メロン(15t ● ) ③花卉(3万本 ● )	

問 題 点	対 策
<p>① 甘蔗作廢地跡のため瘠地であり、下層に粘土質・不透水層のあるところが多い。このため永年作継付の適地が少ない。</p> <p>② 多雨のため雨期作が不安定である。</p>	<p>1 州都に近い地の利を生かし各耕地に見合った作物を導入。多角経営の普及が必要である。</p> <p>対策区分</p> <p>1 について普及指導を重点とする。</p>

部 門	区 分	現 状
1 家 禽 ( 家 畜 )	産卵鶏 ( 9,000羽 ) 肉用鶏 ( 80羽 ) 豚 ( 50頭 )	分益借地農又はポニート植民地からの転入者で入植後 6年を経過。近郊の地の利を生かし、そ菜・養鶏専業 とに区分されるが、経営内容は階層分化に大きな差異 が認められ、悪い者は徹底的に悪い。
2 永年作物	① 柑 橘 ( 未成木共 800本 ) ② アバカテ ( " 40本 ) ③ コ コ ( " 200本 ) ④ ゴ ヤ バ ( " 500本 )	
3 短期作物	○ ① 西 瓜 ( 販売量 290t ) ② ノ ロ ン ( " 70t ) ③ ト マ ト ( " 105t )	

レシーフ近郊(6戸)  
昭和47年4月1日現在

問 題 点	対 策
<p>① 甘蔗作廃地跡で瘠地。下層に粘土質・不透水層のあるところが多く永年作植付適地は少である。</p>	<p>1 適地適作、多角経営の普及 対策区分 営農普及活動に重点を置く。</p>

部 門	区 分	現 状
1.永年作物	①柑、橘 (未成木共 12,800本) ②胡 椒 (未成木共 9,000本) ③マラクジャ (成 木 10,500本) ④パ ラ (成 木 6,600本)	州都サルパドールに近いため短作・養鶏に加え野菜市 商と店舗を兼ねた販売人も多出しており、近年永年作 としてマラクジャ・レモン・ピメント等の植付がかな り多くなって来ており、経営は平均的に上昇する傾向 にある。
2.家 畜 (家禽)	①産卵鶏(4,300羽) ②肉用鶏(3,100羽)	
3.短期作物	crE ①トマト (売上高 191,000) ②準人瓜 (売上高 135,700) ③菜 豆 (売上高 60,300)	

問 題 点	対 策
<p>①. 蔬菜経営偏重の投機性農業から脱しきれない営農者も多く、基幹となる永年作物の育成が肝要である。</p> <p>② 経営の多角化</p>	<p>1. 水年作物としてビメンタ・マラクジャ・レモン・ゴヤバ等の営農を普及する。</p> <p>対策区分</p> <p>1. については営農普及と営農資金の融資手当を最重点とする。</p>

部 門	区 分	現 状
永年作物	①クラーボ＝ 未 10,050本 成 2,750本	基幹作物の丁字・胡椒を増殖中で経営内容は上昇気味であるが階層分化の落差が大きい。 植付本数の僅少な且つ経年致に達しない栽培者もあり平均的安定度に乏しい。
	②ピメント＝ 未 15,715本 成 10,500本	
	③枳 橘＝ 未 1,230本 成 640本	
	④ゴ ム＝ 未 2,600本 成 400本	
短期作物	①トマト 売上高＝45,000cr\$	
	②ピーマン ＼ ＝10,500 々	
	③葉野菜 ＼ ＝ 5,500 々	

問 題 点	対 策
<p>① 基幹作物の丁字・胡椒の適地であるが生産中のものは5戸に過ぎず又この5戸の内3戸は収穫可能本数が少ない。</p> <p>② 毎月の降雨が100mm前後あり雨量分布よく栽培上の利点はあるが、製品仕上のための天日乾燥に難点あり。</p> <p>③ 生産単位戸数の確保</p>	<p>1 基幹作物の増反指導</p> <p>2 間作物の肥培管理指導</p> <p>— 対策区分 —</p> <p>1 については現地入植希望があれば入植の誘致促進をなし、資金手当を重点的に考慮する。</p> <p>2 については、短期営農資金手当を考慮する。</p>



部 門	区 分	現 状
1. 永年作物	①ゴ ム 未 63,200本 成 26,150本	基幹作物ゴムでの営農は、いまだ安定に達しておらない。現在第2の永年作物としてカカオ・胡椒・丁字・マラクジャ等の栽培が導入され始めている。
	②柑 橘 未 280本 成 410本	
	③マラクジャ 未 500本 成 500本	
2. 短期作物	①マンジョカニ crE 売上高 49,000	
	②西 瓜 売上高 8,130	
	③菜 菜 売上高 10,117	

部 門	区 分	現 状
1. 永年作物	①ココヤシ 12,500本	基幹作物のココヤシは一戸平均10ha作付しているが生後期に入っていない。 全地区移住者は、南伯からの転入々植でココヤシ栽培に専念しているが、導入種に問題あり、最近では短期換金作物として西瓜・メロン栽培が盛んとなっている。
	②柑 橘 2,000本	
	③パ ナ ナ 4,100本	
2. 短期作物	①西瓜 売上高 240t	
	②南瓜 販売量 25t	

ウナ植民地  
昭和47年4月1日現在

問題点	対策
<p>① ゴム単一経営の危険分散のため第2永年作を導入する要あり。</p> <p>② ゴムの成木の90%は落葉病に弱い気象条件(ゴムにとって多湿・低温は大敵である)にあった品種に更新する要あり</p>	<p>1. ゴム樹病害虫抵抗性品種へ更新すると共に土地基盤を拡大する。</p> <p>2. カカオ・丁字・胡椒・マラクジャ等の普及 対策区分</p> <p>1. 2. 共に投下資本欠除から来る面もあるので 貸本手当を重点的に実施すると共に導入作物 普及については講習会等開催による指導を実施する。</p>

ノーバビソーザ地区  
昭和47年4月1日現在

問題点	対策
<p>① ココヤシの肥培管理が不十分又導入品種に特生早生の青果用種が多く工業用種が少ない。</p>	<p>1. 1戸当り所有面積が大きいことから基幹作物椰子以外の永年作物(柑桔ect)を育成する。</p> <p>2. 牧畜についても検討する。 対策区分 資金融資による普及指導が肝要</p>

	邦人入植 経過年数	現在戸数	現 状 と 問 題	
			項 目	現 状
			② 農業災害	胡椒根腐病
			③ 適応作物の確定状況	丁字 成木 1,700本 未成木 6,000本 胡椒 成木 12,200本 未成木 7,500本 ピアナーバ成木 12,000本 柑橋(成木, 未成木) 1,650本 ゴム2,000本 カカオ500本
			④ 経営の近代化	基幹作物(T字, 胡椒)の規模が小さい。 T字の加工法の検討がされていない。
			⑤ 市場立地	サルベドール 300Km 人口 1,030,000人 ベレンサ 55Km 人口 50,000人 イツペラ 10Km 人口 10,000人

イツペラ植民地  
昭和47年4月現在

題 点	対 策	
問 題 点	対 策	対策推進者
既に根腐病の発生が認められ(連邦農務省)ている。	土地拡大を進める。 病害防疫講習会の実施継続	事業団 IPEAC 州農務局
永年作物のうち現金収入を挙げているのは丁字と胡椒次いで若干の胡椒であるが、確定した適応作物としては胡椒と丁字である。が特に胡椒は病害に弱く、又新植もで進んでいるのでこれが防疫対策が最重要課題となる。	胡椒の根腐病の蔓延と丁字の生産過剰の問題が出てくると予想されるので、これらに次ぐ第2作物の探索育成(オールスパイス、肉桂etcの委託栽培)	事業団 INCRA 州政府
永年作物の利均面積は7haであるが平均に到達しない農家が10戸(66%)である。伯国の丁字生産量は需要量にほぼ到達しているので、新しい製糸加工法を検討すべき段階にきている。	丁字・胡椒の栽培技術指導の強化 丁字の加工試験(新規) 丁字の真空乾燥装置並に重油抽出装置の導入	事業団
特になし		

	邦人入植 経過年数	現在戸数	現 状 と、 問	
			項 目	現 状
INCRA	18.5年	34	1. 地 権	未 交 付
			2. 自然的条件	
			① 位 置	サルバドール南々西640km
			② 地形・土壌	標高200~300m 緩急傾斜地。高台地は第3紀 層母材の砂礫土
			③ 気 象	年平均気温 24.1 雨 量 1,948 雨 期 3~8 乾 期 9~2
			④ 水 利	農業用水・河川水利用、水温 豊富
			3. 社会的条件	
			① 公共施設	小学校2(教室12、教員1 2)会館、倉庫、修理工場 売店、運搬用車輛 植民地事務所 職員住宅
			② 電気導入	中心地区のみ配電済み (自家発電)
			③ 衛生環境	概ね良好である。
			④ 教 育	小学校は植民地内、中学はウ ナ、高校はイタブーナ、サル バドール
			イ 伯語教育	

ウナ植民地  
昭和47年4月現在

題 点	対 策	
問 題 点	対 策	対 策 推 進 者
	他の連邦植民地の対策に準ずる。	INCRA
<p>海岸山脈に位しているので、海岸地帯にあるサルバドル測候所のデータは利用できない。植民地内は局地気象を呈している。 特になし</p>	委託気象観測の総統実施	専業団
<p>会館の利用度が高にも拘わらず、極めて狭い。設備も皆無である。</p>	各種集会、講習会、映画会、料理実習等が実施できる公民館建設の一部を補助する。	専業団
<p>導入には相当多額の経費を必要とするので投資効果は薄い。 特に問題点はないが寄生虫（アメーバ回虫、十二指腸虫、etc）は多い。</p>	<p>経済力の充実に伴い、投資ベースで自家発電を考えていく。 駆虫薬の使用と飲料水の殺菌使用指導</p>	<p>専業団 専業団</p>
<p>高校・大学の場合、父兄の経済州負担が極めて大きい。</p>	育英助成、教助謝金の支給総統と奨学金制度の実施適用	専業団

	邦人入植 経過年数	現在戸数	現 状 と 問	
			項 目	現 状
			イ 日語教育	日語教育の対象となる小中学生は約30名であるが、設備教材に不足している。
			⑥ 自治組織	ウナ日伯文化協会
			⑥ 農 協	ウナ混合農協（法） ウナ開拓農協（任）
			⑦ 治 安	良 好
			⑧ 道 路	概ね良好でINCRAが随時補修を実施している。
			4. 営農基礎条件	
			① 農地所有面積並に 利用状況	1戸当り平均所有面積35Ha 1戸当り平均土地利用面積 20Ha 1戸当り平均永年作植付面積 ゴム8.7ha、カカオ0.4ha 胡椒0.8ha
			② 農業災害	ゴムの落葉病並にラガルタの異常発生による被害

題 点	対 策	
問 題 点	対 策	対 策 推 進 者
<p>父兄の負担も多く望めず、運営を担当する自治会の負担能力も低い。</p> <p>壮年層を中心に良くまとまっており、活動は漸次盛り上っているが、運営費に乏しい。</p> <p>何れも有名無実であるが、法定農協の新発足のINCRAの指導により検討されているものの重要性に乏しい。</p> <p>特に問題点はない。</p> <p>雨期一部に交通が1時的に途絶されることはあるが、実際上問題はない。</p>	<p>日語教育助成（現地教師謝金及び教具教材の一部補助）の実施</p> <p>行政事務員補助の継続実施（公民館建設の一部助成と活動について指導）</p>	<p>市 業 団</p> <p>市 業 団</p> <p>INCRA</p> <p>INCRA</p>
<p>標高200～300mの海岸山脈に位するため微気象を呈し低温多湿の条件となり易く落葉病にされ易い。</p> <p>激性昆虫は時期的に異常発生するのでその園のみの防除では効果が薄い。</p>	<p>特別防食対策指導の継続実施</p> <p>CEPLACによる巡回指導</p> <p>抵抗性品種への更新</p> <p>共同防除作業の実施（防除機の補助）</p>	<p>市 業 団</p> <p>CEPLAC</p> <p>IPEAL</p> <p>INCRA</p>



	邦人入植 経過年数	現在戸数	現 状 と 問	
			項 目	現 状
			③ 適応作物の確定状 況 (23戸)	ゴム 成木 27,000本 未成木 63,500本 丁字 成木 300本 未成木 2,300本 カカオ 成木 2,200本 未成木 20,300本 胡椒 成木 550本 未成木 3,400本
			④ 経営の近代化	落葉病抵抗性品種への更新が おくれている。 スモークシートの製品が不均 である。 ゴムに次ぐ永年作が不確定
			⑤ 市場立地	ナルパドール 640km イタプーナ 120km ウナ 10km

題 点	対 策	
問 題 点	対 策	対 策 推 進 者
<p>ゴムの成木の90%は落葉病に弱い成であり、耐病性品種へ更新中であるが、ゴムに対する気象条件(低温多湿)が悪いので、落葉病にまったくかからない品種はない。</p>	<p>基幹作物ゴム単一作の危険分散のための第2作物としてカカオ、胡椒、丁字等の育成</p>	<p>耶 美 団</p>
<p>確定的な落葉病抵抗性品種がない。ゴムに次ぐものとしてのカカオ、丁字、胡椒のうちカカオは適地が少ない。胡椒は比較的資金がかかる。</p>	<p>比較的抵抗性の高い品種の高更新新植の推進 第2作物としては適地適作を検討の上、技術及経営指導を強化する。出荷組合等による製品の格付を実施する。</p>	<p>耶 美 団</p>
<p>ゴムの市場はイタプーナである。年産量は40トンで少いので、また問題は無い。</p>		

農 業 体	邦人入植 経過年数	現在戸数	現 状 と 問	
			項 目	現 状
政 府	6 年	11戸	1. 地 権	未 交 付
			2. 自然的条件	
			① 位 置	ヌケ市東方 100km カラベラス市西方 100km
			② 地形・土壌	標高45~60m平坦地 砂質土、砂礫土
			③ 気 象	年平均気温 20.6 年間降雨量 1113 雨期1~3、乾期4~10
			④ 水 利	農業用水・河川水・水車灌漑
			3. 社会的条件	
			① 公共施設	小学校2校、会館、映画館、 診療所、植民地事務所、職員 住宅
			② 電気導入	中心地区のみ配電済み
			③ 衛生環境	概ね良好
			④ 教 育	小学校2校があるが設備教育 内容とも不十分である。中学 以上は殆んどサンパウロで寄 宿通学している。
			⑤ 自治組織	南 連合日本人会 a タクワリ日本人会 b ジュエラーナ日伯文化体育 協会 c エルベシア日本人会レーバ ピンヂを含む) d 外2地区(ホストダマッタ アパラジュ)

ノーバ・ピソーザ  
昭和47年4月現在

題 点	対 策	
問 題 点	対 策	対 策 推 進 者
<p>大部分の砂土で流七が烈しい</p> <p>公共施設は極めて完備しているが 入植地域がこのセンターより遠いた め殆んど利用されていない。 当面考えられない 特に問題点なし</p> <p>活動は比較的活発であるが区域が広 大であるため連絡がスムーズでなく 役員の負担も大きい。</p>	<p>有機物の施用Cover Crop 永 年作物の栽培、短期作畑の等高線栽 培</p> <p>小学校に対する教師謝金の支給総額 と設備教材費の補助</p> <p>自治体育成費(事務費・交通費・人 件費)の交付</p>	<p>州 政 府</p> <p>専 業 団 州 政 府</p> <p>専 業 団</p> <p>専 業 団</p>

	邦人入植 経過年数	現在戸数	現 状 と 問	
			項 目	現 状
			⑥ 農 協	ノーバピソーナ農協(法)
			⑦ 治 安	概ね良好
			⑧⑨ 道 路	概ね良好であるが雨期センタ ーから入植地域まで悪路とな る。補修は随時州により実施 されている。
			4. 営農基礎条件	1戸50ないし100ha
			① 農地所有面積並に 利用状況	利用面積平均30ha
			② 農業災害	局部的に集中豪雨がありノロ ン、西瓜等が水害を被ることが 多い。
			③ 適応作物の確定状況 (1970)	ココヤシ 12,500本 柑 橘 2,000本 バナナ 4,100本 西 瓜 28.5ha 240トン 南 瓜 8ha 25トン
			④ 経営近代化	ヤシの工業化施設がない(1 次加工) ビトリア市 100,000人 ナンパウロ市 600,000人 リオ・デ・ジャネイロ市 14,000,000人

題 点	対 策	
問 題 点	対 策	対 策 推 進 者
<p>有名無実で役割を果たしていない</p> <p>特に問題はない</p>	<p>南パイヤ地区邦人入植者全員加入日 農協組織結成の意見もあるので必要 な助言を行う。</p>	<p>州 政 府 耶 業 団  州 政 府</p>
<p>基幹作物ココヤシは1戸平均10 ha作付しているが、生産期に入 っていない。</p> <p>ココヤシの肥培管理が不十分導入 導入品種に 性早生の青果用種が 多く工業的に有望な加工機が少な い。</p>	<p>気象データ蒐集と場合により気象観 測の開始</p> <p>1戸当所有面積が大きいことから基 幹作物ヤシの木 の永年作物( 柑橘 etc ) を育成する。 牧畜についても検討する。</p>	<p>耶 業 団  耶 業 団</p>
	<p>ココヤシの市場調査の検討継続</p> <p>ナンパウロ、リオ等大消費地指向の 農産物開発を考慮する。</p>	<p>耶 業 団  耶 業 団</p>

## Ⅱ サンパウロ支部

### 営農普及活動実施報告書

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区又は研究グループ名
10月11月 12月 3月	(カタバラ移住地営農振興対策関係) 1. 果樹関係	果樹専門技師井上忠治氏の派遣指導 昭和47年10月11月 12月 昭和48年3月	カタバラ移住地 個別の果樹農家
1 1月 2月 5月 6月 7月 8月	2. 蔬菜関係、農薬関係 3. 養鶏関係 4. 全体指導	北興化学拓野技師(農薬) ピラシカーバ大学生田博士(野菜) 養鶏専門家 古田士技師 営農振興特別対策指導班(野菜 団サンパウロ支部営農担当職員 による指導3名 昭和47年7月~8月	カタバラ移住地 個別農家 個別養鶏農家 振興対策農家 (種類64戸対象)
5月 9月	(各移住地) 1. 牧場事業実施計画	牧場(牛)専門家中島重次郎氏 による指導	カタバラ移住地
1月	2. 果樹関係	果樹専門技師井上忠治氏による 指導	オウリニオスム ンドノーボ移住 地
5月	3. 養菜経営関係	牛草茂氏(野村農場)島田領事 事業団、山田和文氏(サ・中央 会)による経営指導	オウリニオス、 ムンドノーボ移 住地
	(各研究グループによるもの) 1. 技術改善、生産性向上	自主的なもの、事業団事業所の グループ指導、養蚕、果樹、簿 記の青年研究会	カタバラ

件数又は 実施回数	成 果			摘 要
	当 初 目 標	実現した成果	実現できなかった 原因	
4 回		マラクジャの増大		柑柿(レモン、 ボンカン、ララ ジーヤ、モロコ チ他) マラクジャ
1 回 1 回 2 回 2ヶ月間 連 日	技術指導経営指導共 に協賛対策の作成と これに沿った指導で 10年計画によるも の	全体としては長期計 画のため短絡的には 成果は現われてない が生産性向上顕著		
2 回	水利組合及び特定農 家の牛導入	未だ研究中	資金不足	セボラ・アル ファセ登
1 回	経営の安定化	実施中	市場の安価	
1 回	経営の安定化	簿記等の計数に注意 を払うようになった。	安定作目の未発見	
年間各8回	技術習得	全体としての生産性 が増大している。		



## 普及活動上の反省と所感

### 1. 管内が広すぎること。

サンパウロ支部の管内はサンパウロ州、マツトグロツソ州、パラナ州とミナス州の一部を含む広大な地域であること。

### 2. 営農担当職員が居ないこと。

サンパウロ支部は上記3州を管轄するが営農担当職員は形の上で1名のみ殆んどが便宜供子と一般事務の仕事を受持ち普及指導関係は僅かに年数回予算の範囲内でサンパウロ市在住の各界専門家技師と同行して日系集団移住地を訪問することかできる程度である。パラナ州(ロンドリーナ市)の職員1名は営農普及活動ができる力はあるが融資と一般事務で手いっぱいでありマツトグロツソ州バルゼアアレグレ事業所は担当が居ない。

従って普及活動に実施できるのは、ガタバラ移住地の職員1名のみである。

### 3. 対象が極めて多いこと。

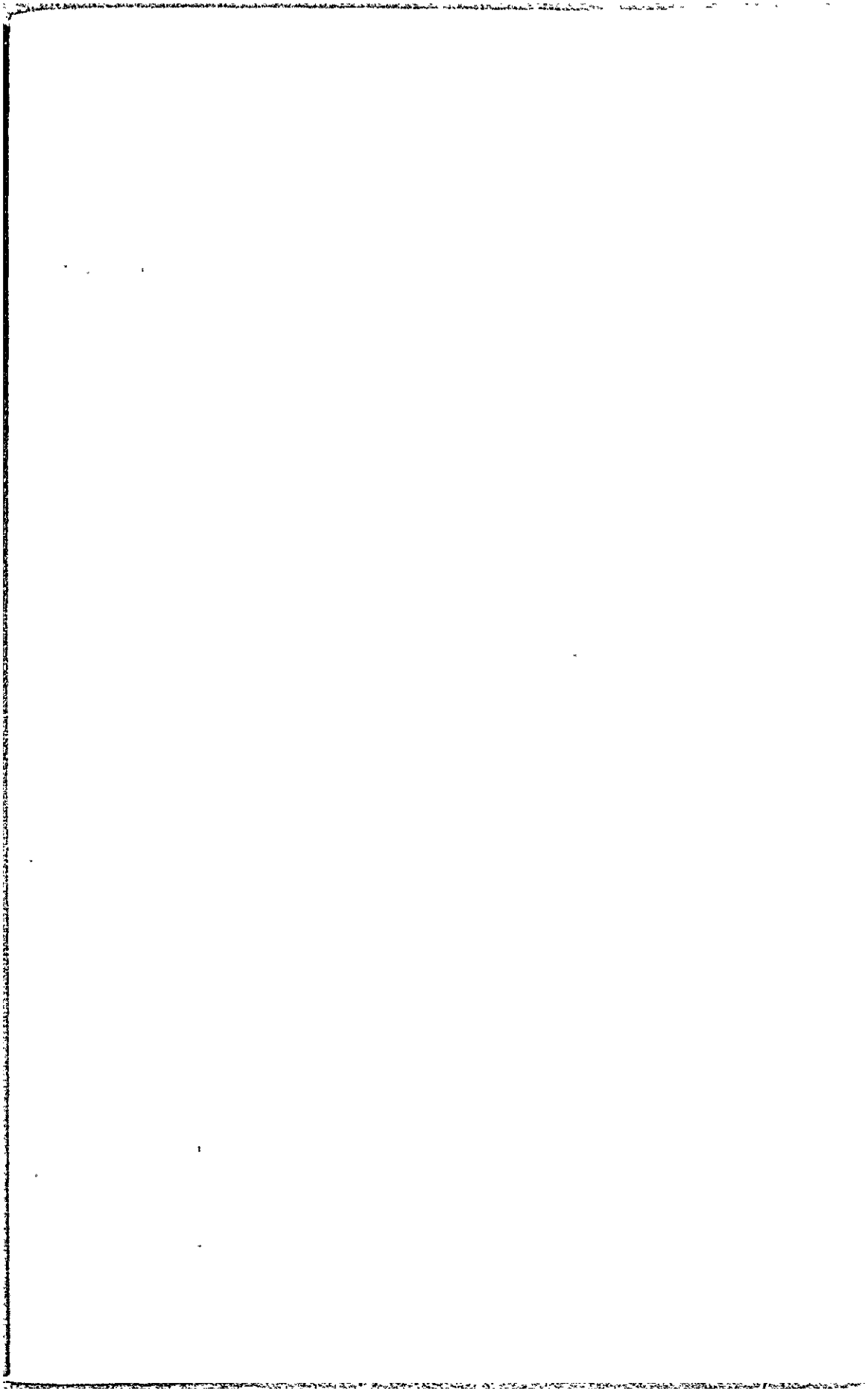
10万の日系人の90%以上が管内に在住し戦後移住15万人の40%が農業者で各地に散在している。伯国南部の日本人農業者に対する普及活動と迫めるためには、少々の予算や人員があっても不可能である。そして現状では直轄、準直轄移住地ですら同活動は全く行っていない。但しガタバラ移住地だけは例外で担当職員1名が幸いにして知識を有するために、普及活動が行われている。本来理想的にはマンツーマンで行うべきこの体制から言えばガタバラの場合でも1人120戸は受けもちきれず完全に実施するためには最低3名は必要である。

### 4. 農業地帯の移動が激しく技術改善が急務であること。

パラナ州の綿作、ミーリヨ作がマツトグロツソ州、ミナス州に移動し、パラナ州のセフェー作が再びサンパウロ州に戻り、パラナ州の大豆が急激に伸び、サンパウロ州、パラナ州のメロン、イクリヤ、ブドウ等の安定的見通しが暗くなってきたようなほんの数例をみてもその地域農業の移動が激しく市場が不安定でかつ、良品質を目標にその競争が激しく技術改善、適地適作への営農指導及び普及活動が最も要求される時期である。

### 5. 普及活動システムが極めて貧弱なこと

ブラジル側頼りにならず日系産業組合の営農指導体制も全く貧弱である。集団移住地で永年作の果樹やカフェーが低い生産性、雑病等により大きな打撃を受け、営農指導不在を如実に見ることができるところからしてもサンパウロ支部管内も決して文明の地でなく、営農指導人材及び予算は奥地、後進地域と同様に必要とするのである。



宮農担当者の体制

氏名	所属事業所名	年齢	普及活動 経年数	担当農家 戸数
湯川 修介	ガタハラ事業所	30	5	118
中 筋 登	ナンパウロ支部	35	6	-

担 当 面 積 ha	普及上の機動力	備 考
3,000  —	カミオネッタ 1台  フォルクスワーゲン ワリアンラ 1台	

畜産・棉関係

ヌエパエスペランサ試験農場畜産普及実施報告書(昭和47年度)

期日	場 所	対 象	人員数	講 師 名	時間数
47.					
4. 26	第 1 移 住 地	棉栽培者全員	33名	宮 川 清 忠	3 hr
4. 27	第 2 移 住 地		32		3 hr
4. 27	第 3 移 住 地		21		3 hr
4. 26	第 1. 2. 3	畜産農家		大 城 弘 四 郎	
5. 15	移 住 地				
9. 15	同 上	棉栽培者全員 及び棉 栽培予定者全員	41	宮 川 清 忠	3
9. 16			18	遊 佐 健 輔	3
			29	宮 城 徳 昌 (CAICO会長)	3
11. 12	ナンファン移住地	畜産経営者	35	永 野 征 一	4
11. 29	同 上	棉栽培者 全 員	52	宮 川 清 忠	3
11. 30			32	遊 佐 健 輔	3
2. 26			第 2 移 住 地	18	
		畜産経営者	15	永 野 征 一	3
48.					
3. 19	同 上	同 上	27	宮 川 清 忠	3
3. 20			16	遊 佐 健 輔	3
			24		3

## 講習会一覧表

講習内容	効果又は所見
1 開絮前後の棉の生理 2 棉の収穫方法  牛の結核とブルセラ病検査	4月下旬より棉収穫が始まったことにより、開絮前後の棉の生理に関する初歩知識・管理方法の修得、効率的な収穫方法の習得  各畜産農家の牛の結核とブルセラ病検査と実施
1 '71/'72年度棉作の反省と '72/'73年度の栽培上の留意点 2 '71/'72年度棉作試験結果について 3 糞棉給粉、種子発注現況について  鶏の飼料、管理、病気  播種後1ヶ月間の管理について	1 '71/'72年度の棉作について種々の反省点、改善的を見出し、'72/'73年度の棉栽培の参考にする。 2 着蕾数・開花数・着莢数・開絮数・収穫数の相互の関係を数値(割合)で見出すことによって各生育段階にて、当該年度の予想収量を算出する。 3 生産・出荷された糞棉の船積状況などの説明を通し、輸送・取引に関する一般知識を吸収する。  飼料の給与方法 成分割合、配合の仕方、病気の発生による確認を習得 播種後の除草・農薬散布・補種などの諸管理に関する初歩知識の修得
家畜の病気と去勢法	家畜の病気の確認と判定の方法 去勢術の方法を実習習得
生育後期より収穫までの諸管理について	生育後期の農薬散布の注意事項・主な害虫に関する一般知識、収穫方法などについての修得

畜産・棉作関係普及資料一覧表

資料名	摘 要	送付部数	複写依頼部数
	(畜産)		
—	牛の病気に付いて	2部	
—	家畜異常の見分け方(豚)	2	
—	(牛)	2	
—	鶏の病気に付いて	2	
—	牛の品種に付いて	2	
	(棉作)		
15	棉の収穫に付いて	2	
—	棉作作業の記録回収に付いて	2	
—	急告(棉作畑処理に付いて)	2	
1	棉作講習会開催に付いて	2	
2	棉作試験に於いてのおしらせ	2	
3	棉の害虫に付いて(おしらせ)	2	
4	棉作講習会開催に付いて	2	

1972



## Ⅱ アスンシオン支部

### 営農普及活動実施報告書

項目 月	対 策 計 画	
	指 導 事 項	達 成 目 標
1 5 9	ア・トーザの予防注射	全牛飼育農家の完全実施
9 1 3	台湾帯の栽培法	正しい栽培方法の周知徹底
4 1 3	個別経営指導	特に低位農家の経営指導を中心として個別巡回して経営改善を計る。
9. 9 1 8. 31	棉の栽培法	訂品種である B-50の正しい栽培方法の周知徹底
8. 29	果樹の栽培方法	熟帯果樹の特性について
8. 29	養蜂について	ローヤルゼリーを中心とした養蜂について
9 1 3	棉の栽培についての実施指導	正しい栽培技術の附与

実		積		
対象地区又はグループ	戸数	方法場所	担当者	協力者
全飼育農家	100戸	パンフレットによる周知徹底	花木級員	牛飼育農家
台湾桐を実際に植えている農家又は植えようとしてる農家	50戸	個別訪問指導	真 下	栽培グループ
全農家	100戸	個別訪問指導	真 下 花木級員	農 協
桐栽培希望農家	100名	講習会 アカカラジヤ公民館	真 下	芭園農牧省 農 協 森谷吉五郎氏
果樹栽培に関心のある農家	30名	講習会 農場事務所	真 下 農 協	OTCA派遣 平野専門家
養蜂に関心のある農家	30名	講習会 農場事務所		OTCA派遣 竹下専門家
桐栽培農家	50戸	個別訪問指導	農 協	農 協 農 牧 省

営農普及活動実績報告書

普及指導事項	普及方法	対象地区又は	対象件数
		研究グループ名	(実施回数)
アブナーザーの予防注射	パンフレット	牛飼育農家	3回
台湾桐の栽培法	個別訪問指導	台湾桐を栽培している農家又は希望している農家	50
個別経営指導	個別訪問指導	全農家	100
棉の栽培法	講習会	棉栽培希望農家	2
果樹の栽培法	講習会	果樹栽培に関心のある農家	1
養蚕について	講習会	養蚕に関心のある農家	1
棉の栽培についての実施指導	個別訪問指導	棉栽培農家	50
家畜衛生及び病気治療	個別訪問指導	家畜飼育農家	50
養蚕の省力化	個別訪問指導	養蚕農家	30
機械化営農のすゝめ方	実演会	機械導入希望農家	100戸

実		積	摘	要
業効目標	実現した成果	実施出来なかった理由		
飼育全農家	80%	牛追加の困難性		
栽培又は希望している全農家	70%	普及員の不足		
全農家	30%	普及員の不足		
希望農家	100%			
関心のある農家	100%			
関心のある農家	100%			
栽培全農家	70%	自己の間違った知識の固執		
知識の欠如している農家	90%			
委託主体農家	50%	省力化による飼育体系の不確定		
希望農家	100%			

事項 月	対 策 計 画	
	指 導 事 項	達 成 目 標
4 { 3	家畜衛生及び病気の治療	家畜衛生知識の附与と病気の治療
10 { 3	養蚕の省力化	省力化養蚕の実際についての知識と技術の附与
4 { 6	機械化営農のすすめ方	合理的な機械化営農をすすめるための機械についての正しい知識の附与

営農普及担当者の体制

氏 名	所 属	年 令	普及活動年数
真 下 慶 治	アルトパラナ試験場	38才	4年
藤 塚 昭 一	"	40	6カ月
花 木 琢 光	"	30	6年
居 村 徳 弘	"	44	5年

実		積		
対象グループ又は地区	員 数	方 法 場 所	担 当 者	協 力 者
家畜飼育農家	50戸	個別訪問指導	居 村	I S E P S A
養蚕農家	30戸	個別訪問指導	真 下	
機械導入又は導入希望 農家	100戸	実 演 移農家の圃場	花 木	機械販売会社

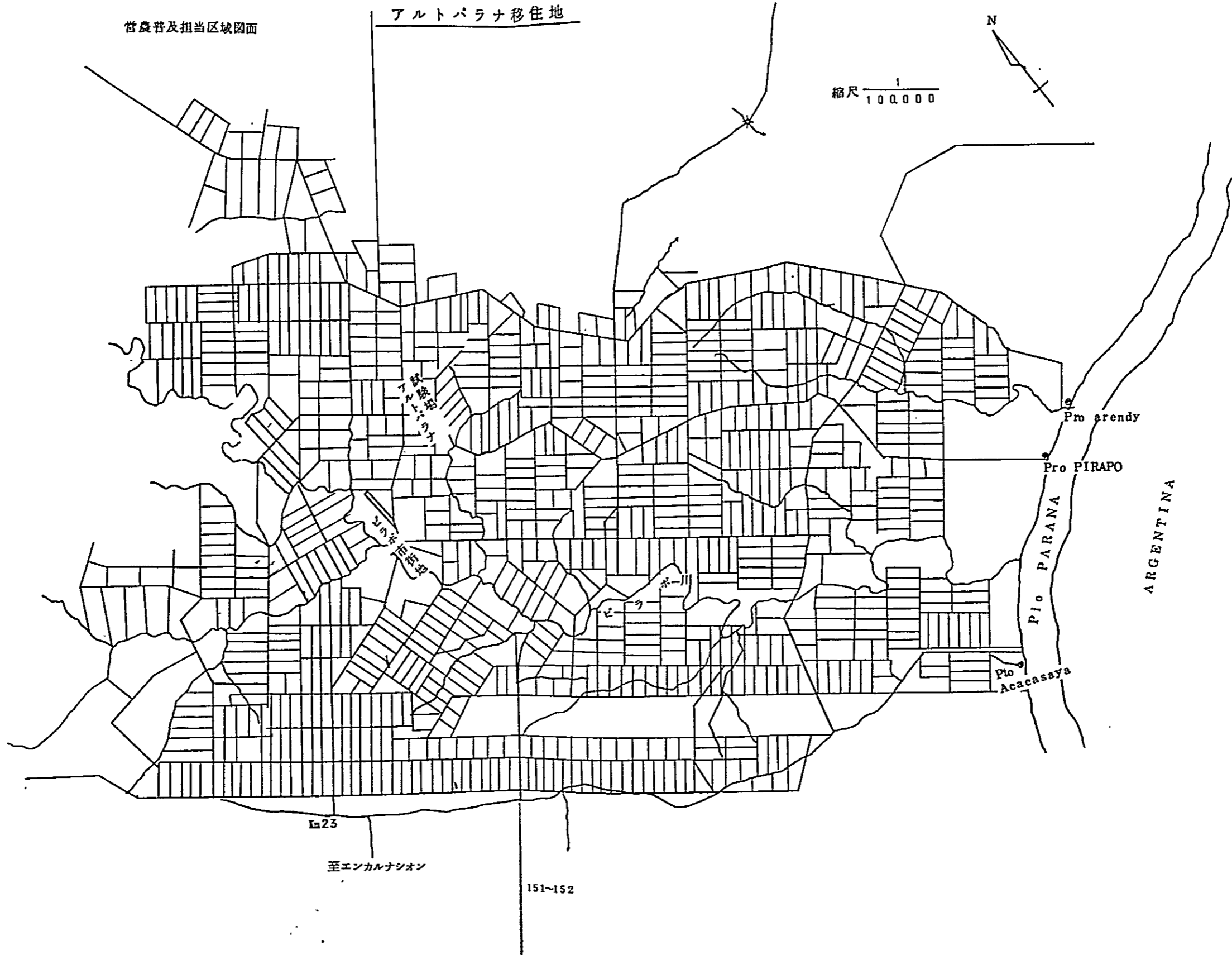
担当農家戸数	担 当 面 積	普及上の機動力	備 考
400戸	30,000 ha	ジープ 2台	

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40  
41  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68  
69  
70  
71  
72  
73  
74  
75  
76  
77  
78  
79  
80  
81  
82  
83  
84  
85  
86  
87  
88  
89  
90  
91  
92  
93  
94  
95  
96  
97  
98  
99  
100

管農普及担当区域図面

アルトパラナ移住地

縮尺  $\frac{1}{100,000}$





## 営農普及活動上の反省と所感

### 1. 移住地の営農現況と問題点

過去順調に伸びてきた移住地の営農も、昨年大豆減収（収穫期の長雨による）により一時足踏みした感があるが、本農年度は大豆の生育も良好で豊作が予想され、その他の農作物についても平年作を上回るものと思われるので、農家経済の好転が期待される。

但し、当アルトパラナ移住地は、過去に相当無理をした投資を行い能力以上に多額の負債を抱え、数カ所の金融機関を利用することによって、なんとか資金繰をつけている移住者もいる。こゝ2～3年は大きな投資は控え、先ず経営のバランスを図ることを心掛けるべき時期にきている。

営農の技術面については、入植以来12～13年経過し、当国の自然条件等にもなれ、かなりの自信をもったと思われるが、経営面がやゝもすると放棄に流れやすいので、計画的な営農を行うよう一層の指導が必要である。

### 2. 反省と所感

イ 当国発足以来試験農場の運営方針が定まっておらず、試験活動も又普及活動も中途半端になりやすい。現体制で出来る限り両面の強化を図るべく努力しているが、なかなか計画通りには行かない。

ロ 1でも述べたように当移住地が抱えている問題点は、技術面よりも経営面での立直しにある。

現在農業協同組合、事業所の融資担当者等と常に連絡を密にし、指導に当たっているが、普及担当職員が直接資金面の指導が出来ないところに困難性がある。

ハ 1972農年度的全芭国邦人集団移住地の経済調査によれば、全ての面でアルトパラナ移住地が劣っているが、故に残念である。移住者が一日も早く安定段階に至るよう一層の努力を致す所存である。

1. 普及指導概況

月別	普及指導事項	普及方法	対象地区又は 研究グループ名	対象件数 又は 実施回数
4月	収蚕及び蚕出荷	実地指導	蚕蚕振興会	1回
	重機械の導入運営世話 人の選出	助言	機械運営協議会	2回
	病蚕対策、稚蚕飼育改善	研修	蚕蚕振興会	1回
	肉用牛飼育実態調査及 飼養改善	戸別巡回	肉用牛部会	1回
	養豚実態調査及飼養改 善	・	養豚部会	1
	養鶏実態調査及飼養改 善	・	養鶏部会	1
	養蚕実態調査及飼育改 善	・	養蚕振興会	1
	ベカン、ハツカ植栽実 態調査及栽培指導	・	栽培農家	1
	蚕飼育について	講習会	蚕蚕振興会	1
	養豚経営及飼養技術	・	ヘルパー	4名
	豚ヘルニア手術	・	ヘルパー	7名
	部会決算予算書作成指 導	実地	養豚部会	1回
	部会運営について	指導・助言	肉用牛部会	1回
	大豆乾燥機能力試験	実地	雑作農家	1回
養蚕振興会定期総会	助言	養蚕振興会		
7月	牛用薬品治療器具共同 購入	購入指導	肉用牛部会	1回
	種豚導入	種豚選択指導	養豚部会	1回

実 績			実施者又は実施機関
当初目標	実現した成果	実現出来なかった要因	
3月捨立分出荷	100%		三原 菊地 ISEPSA
機械利用組合の設立	100%		大畑
病気対策、飼育改善の知識普及	出席者 27名		三原 菊地 唐木 (ISEPSA 指導員)
農家の問題点を調査し助言、指導する。部会活動指導	50%	人員不足と農場業務に追われ集計まで終り個別指導は一部実施のみ	栗城
・	50%	・	菊地
・	50%	・	・
・	50%	・	・
・	50%	・	中山
今までの飼育経過を反省し、改善を計る	出席者 20名		鈴木 ISEPSA 技師 三原 菊地
飼養技術を習得させ自家営農振興を計る	養豚テキスト配布 経営について講義 豚4頭による手術実習		大畑
助言・指導	良		大畑 菊池
			大畑 栗城 コンチネンタル社農場 ISEPSA 三原技師、大畑 菊池
注射器 ノス等の選択	良		大畑 山泉
10頭導入予定	7頭導入	ビジャリカ国立種豚センターに種豚不足	養豚部会 大畑

月別	普及指導事項	普及方法	対象地区又は 研究グループ名	対象件数 又は 実施回数
8月	養豚部会定期総会	助 言	養 豚 部 会	1回
	肉用牛部会総会	助 言	肉 用 牛 部 会	1回
	種畜購入	引 卒 - 助 言	肉 用 牛 部 会	1回
	青年学級講師	講 義	移 住 地 青 年	3回
	マイス・牧草種子の導入	実 地	シ・ボイラ農協	1回
	種豚導入	種豚選択指導	養 豚 部 会	1回
	養豚ヘルパー講習	講 義・実地	ヘルパー	3回
	農家経済調査	調 査 助 言	全 農 家	
	牧野アランブレ調査普及	現地調査(F O Z エストロネ)	肉 用 牛 部 会	1
	皮革なめし方法	講 習 会	移 住 者 有 志	1回
5月	収縮及び絹出荷	実 地 指 導	養 蚕 振 興 会	1
	初生雛の導入	技術指導・助言	養 鶏 部 会	4
	小麦種子導入指導	実 地 指 導	小 麦 栽 培 農 家	1
	注射法指導	講 習・実地	肉 牛 部 会	2回
6月	ペカン種子導入	伯 国 理 地 調 達	ペカン栽培希望者	1
	素牛の導入	ビジャリカにて実地指導	肉 用 牛 部 会	3名
	口蹄疫予防注射	接 種 指 導 協 力	牛 飼 養 農 家	
	優良素牛の導入	座 談 会	肉 用 牛 部 会	1
	糸の栽培について	講 習 会	養 蚕 振 興 会	1

実 績			実施者又は実施機関
当初目標	実現した成果	実現出来なかった要因	
種豚導入時に 於き注 意事項の周知徹底	良		大畑 山県, 菊池
2頭(3/4) 肉牛改良の為の種牛 購入	2頭(3/4)		大畑 山県, 菊池 大畑 山県,
今後の農業経営のあ り方を周知させる。	良		大畑
マイス, コロニアル 導入の通関手続指導	良		中山
10頭	10頭		大畑
加工実習, 家畜生理	80%	通いの為, 出席でき なかった。	大畑 山県
巡回調査	95%		山県, 菊池
伯国より牧場資材の 導入, モンテ牧野調 査	0	伯国よりバ国への資 材導入は税金が高い ため不可能	中山
皮革なめしの知識習 得,	出席 14名		森谷吉五郎氏, 栗城
4月括立分出荷	100%		菊池
希望数の取りまとめ 発注	100%		大畑 アスンシオン COVLSA
BNFより優良種子 導入配布	100%		BNF, 中山
自衛防疫体制を確立 する	15名出席		栗城, 菊池, 関
種子導入, 配布	良		大畑
素牛の資貨, 単価を 調査し, 導入ルート を決定する。	導入希望3名		栗城
疫病の予防	良		栗城, 関
希望頭数のとりまと め導入先の検討	(19名出席)		栗城
桑の栽培 管理技術 を習得せしめる。			OTCA宮下技師, IS EPSA三原, 大畑, 中 山, 菊池

月別	普及指導事項	普及方法	対象地区又は 研究グループ名	対象件数 又は 実施回数
8月	卵事業参画への助言	会 談	養 鶏 部 会	1回
9月	口蹄疫予防注射	接 触 指 導 協 力	牛 飼 養 農 家	1回
	蔬菜, 養蜂	研 究 演 講	移 住 地 有 志	1回
	熱帯果樹	“	“	“
	養豚ヘルパー講習	研 究 , 実 地	へ ル パ ー	3回
	豚コレラ予防注射	実 地	豚 飼 養 農 家	1回
10月	養豚ヘルパー講習	研 究 , 実 地	へ ル パ ー	3回
	豚コレラ予防注射	実 地	豚 飼 養 農 家	1回
	養蚕協定	立 合 地	養 蚕 振 興 会	1回
	炭疽気腫痘予防注射	実 地	牛 飼 養 農 家	“
11月	口蹄疫防疫法編成	助 言	肉 用 牛 部 会	1回
	モンテパスト調査	現 場 調 査	“	1回
12月	青年学級講師	研 究 演 講	移 住 地 青 年	3回
	脱穀機実演会	実 地	移 住 地	1回
	大買豚去勢	実 地	養 豚 部 会	1回
1月	口蹄疫予防注射	実 地	牛 飼 養 農 家	“
	肉用牛部会定期総会	助 言	肉 用 牛 部 会	1回
	畜産訓練講習会	研 究 , 実 地	八 箇 移 住 地 青 年	20日間
2月	養蚕訓練講習会	“	“	20日間

実 績			実施者又は実施機関
当初目標	実現した成果	実現出来なかった要因	
CAYSAの孵卵に 移住者も参加させて もらう事の依頼	ナシ	CAYSAの事業中 止	CAYSA, 大畑 山県
	90%	コラール不備, 農家 の認識不足	山県, 岡(F)
雨米に於る養蜂技術 の周知	良		OTCA, 竹下技師
パイナップルの栽培 技術の周知	良		OTCA, 平野技師
家畜の疾病, 他を青 年に伝習	70%	通いの為出席出来な かった	大畑, 山県
疾病の予防	95%		大畑, 岡(F), 佐藤(S)
養豚経営他を青年に 伝習する。	60%	通いの為, 出席出来 なかった	大畑, 山県
疾病の予防	95%		岡(F), 佐藤
適正蚕価の決定	200GS/kg		中山
疾病の予防	30%	コラール不備, 農家 の認識不足	山県, 岡(F)
自主防疫体制の確立	良		大畑, 山県 大畑, 中山
今後の営農のあり方 周知せしめる。	良		大畑
作業の省力化	良		グランメルカード 山縣職員
去勢法, 消毒法を周 知せしめる	良		大畑, 佐藤
疾病の予防	90%	コラール不備	山県, 岡 大畑, 山県
畜産に関する知識, 技術の普及	90%		大畑, 山県, 中山, 菊池
養蚕に関する知識, 技術の普及	90%		ISEPSA鈴木技師 石橋

## 昭和47年度気象統計

昭和47年度	4	5	6	7	8	9	
平均	最高気温	31.3	30	29.2	27.6	29.3	32.5
	最低気温	5.5	8.0	5.1	0.9	2	4.5
	平均気温	21.6	19.8	19.3	16.7	17.2	15.5
雨	量	5日14.62	3日4.17	9日21.45	8日13.33	9日20.89	8日10.14
	種	弱 2回			大 4回	中 1回	中 1回

### 2) 普及指導上の反省と所感

(1) 昭和47年度はパラグエイ農業総合試験場関係の新宮工事に多大の労力を投入した事、養蚕部門の設置、将来の調査、試験、研究、研修のため基礎固めとしての農場圃場の管理に重点を置いたため普及活動は例年に比べ低調であった。

従来の畜産をその主要業務としてきたイグアス試験農場から、全パラグエイを対象とするパラグエイ農業総合試験場の設立に当っては、移住者の間にもかなりの困惑があり、今後の調査試験研究、研修と普及活動のかみ合いは検討を要する課題であると思われる。

(2) 普及活動は原則として畜産振興会、養蚕振興会の各部会を通じて行っており、各部会とも年々その活動は活発になってきている。畜産振興会のうち養鶏部会は3月に農協傘下に入り、初生雛飼料の導入事業を行っている。

(3) 現場に於る普及指導は試験場が行ったデータあるいは実際の経験を基にしていない限り十分な効果は期待できない。パラグエイ関係機関でも一部それらについて試験研究を行っているようであるが、お互い積の連絡がなく、それらの情報資料等を利用する事も出来なかった。又当該試験も積み上げたデータに欠けており、個々の経験に頼って来たのが現状である。

従って昭和48年度以降については、当該試験場本来の業務である調査試験研修部門を更に充実そのデータ経験を十分普及指導に活用し又移住者子弟に対する研修を通じて畜産、養蚕に対する知識、技術の普及を図ってきたい。



10	11	12	1	2	3	最高低
3 3.8	3 3.5	3 6	3 5.9	3 6	3 5	3 6 ℃
7.9	1 2.8	1 3.2	1 9	2 0	1 6.3	0.9 ℃
2 0.6	2 3	2 3.1	2 7.4	2 7.8	2 5.8	2 1.5 ℃
8日 1605	8日 2713	6日 1552	9日 2493	7日 1425	6日 93.4	86日 1918 8 回

### 3. 営農担当員の体制

氏 名	主 業 務	備 考
大 畑 吉五郎	畜産, 養蚕業務総括	
栗 城 俊之助	家畜健康管理, 施設物管理, 草地畜産技術普及指導	6月15日事業所へ転勤
山 泉 正 安	同 上	6月15日試験場へ配属
石 橋 隆 介	桑園管理, 養蚕技術普及指導	
中 山 栄 助	雑作, モンテカフェー植林関係業務	
菊 池 明 雄	同 上	

宮農普及活動実績報告書（アマンバイ地区）

普及指導事項	普及の方法	対象地区又は 研究グループ名	対象件数・実施回数
養 鶏	講習会 巡回個別指導	養 鶏 農 家	講習会 10名 巡回指導 14戸
果 樹	種苗種子導入幹旋 個別指導	全 地 区	ペカン種子 5戸 ブドウ穂木 2戸 巡回指導 2回
カ プ ェ ー	講習会 パンフレット 個別指導	全 地 区	講習会3地区名各回 パンフレット 2回 5 件 1回
養 蚕	苗木導入 研究会 技術研修 パンフレット 巡回個別指導	全 地 区	苗60ha分 12戸 研究会4回 各10名 2ヶ所 7名 1回 9戸3月より隔日指導
ルバドウルセ	種苗の幹旋 個別指導	シリグエロ及びサン ハピタン地区	3 戸
台 湾 桐	講習会 パンフレット 巡回指導	シリグエロ地区	講習会 1ヶ所1回 パンフレット1回80部 指導 2ヶ所
蔬 菜 土 壌 分 析 宮農ハンドブック	講習会 個別指導	シリグエロ・セロコラ サンハピタン	講習会 2ヶ所各1回 5戸 3回 6ヶ所
気象データ 養蚕市場調査 農業雑誌 養 豚	優良豚の導入		

当初目標	実績		摘 要
	実現した成果	実現出来なかった要因	
講習会 2回 巡回指導 6回	病鶏の減少	資金不足と卵価暴落で指導通りの手だてが不能の為	
各種果樹の整枝技術と施肥法の確立 種苗の斡旋	ペカン種子 5ha ブドウ種木 (オリンピック) 300本	養蚕ブームで果樹への関心が減少した為	
	特定知識技術の習得 サビ病対策の知識の普及		本年度ついにサビ病の侵入を許したので、本対策を中心に指導を行った。
年度内案内準備	桑園50haが造成される。経費の安い蚕室が施設養蚕(テスト)が開始された。飼育技術の習得		養蚕は目標以上に進行した。
種苗の増殖 栽培コスト低出	約0.2haの試験圃が造成	種苗費がかさみ管理費が不足したこと 馬の食害があったこと	委託栽培による
今年度30ha植付	栽培体系の確立 10ha植付け	講習会の時期が遅れたこと	
	養蚕、肥料の知識の向上  ハツカ、カフエー、ペロン、マカダミアナット、ゼルバドウルセ  1972年度集計 バストスにて伯国市場調査  デューロックジャージ種5頭		本部送付  パンフレット支部にて印刷中 農桑と協同

宮農普及活動実施報告書

月別	指導・普及・調査・事項	目 標	対象地区又はグループ	
47年	桑苗木導入	40~60ha分植付	養蚕グループ	
	ベカン種子導入	10~20ha分	全地区	
5月	農家の営農五ヶ年計画の調査	営農改善計画基礎資料として	全地区	
6月	ハイナッブル外熟落果樹指導		サンハピタン、シリグエロ	
	営農基本単価表	当地区栽培全作目について		
7月	蔬菜技術指導	肥料、農薬知識の普及	シリグエロ、サンハピタン	
	ブドウ穂木導入	オリンピア種栽培テスト	シリグエロ、サンハピタン	
8月	モンテカフェー栽培事例調査	モンテカフェー普及の可能性と栽培収支	全地区	
	モンテカフェー経営収支調査報告			
9月	アマンバイの営農改善計画	パイロットファーム育成計画	全地区	
	土壌調査	各地区の土壌分析の実施		
10月	アマンバイ地区営農改善計画	パイロットファーム育成計画	全地区、全農家	
	農家経済調査	47年度農家経済状況の把握		
11月	セルバドウルセの苗集収	約1~2ha分の苗集収		
	営農ハンドブック			
12月	優良豚の導入斡旋	デューロックジャーシー種の普及	全地区	
	カフェーサビ病発生通知		全地区カフェー生産者	
1月	セルバドウルセの委託栽培	栽培コスト計算、栽培法の確立	3地区	
	養蚕希望者懇談会	樹立計画、技術の習得方法の研究	全地区	
2月	養鶏技術指導	養鶏技術の向上	養鶏農家	
	営農ハンドブック			
3月	カフェーサビ病対策	サビ病の知識と防除対策の研究	全地区カフェー農家	
	養蚕懇談会	養蚕導入計画と方法	シリグエロ、サンハピタン	
48年	1月	台湾桐の栽培法講習会	台湾桐の栽培体系の確立	シリグエロ
	2月	養蚕市場調査	当地区養蚕の導入可否の決定	
3月	養蚕の技術研修	10人の研究生	養蚕農家	
	養蚕調査報告会			
4月	養蚕巡回指導	養蚕農家個別巡回指導		
	養蚕懇談会		養蚕希望農家	
5月	養蚕巡回指導	養蚕農家一日一回巡回指導	養蚕経営農家	
	養蚕市場調査報告書			
6月	1972年気象データ集計			

実		績		備 考
員 数	方 法 ・ 場 所	協 力 者		
12戸	Bastosよりトラックにより2羽導入	新木進氏		品種 カラブレーザ 三浦種
10	ナンバウロより導入	中川安五郎氏		
80	個別訪問による聞き取り調査			
5	個別巡回 聞き取り調査	OTCA 平野昭一技師		営農改善計画基礎資料
15	講習会及び巡回個別指導	竹中商会田代技師		
2	ナンバウロより導入 視察と聞き取り調査	コチア組組井上技師		オリンピア種約400本分 山崎生年, Weaverの事例
	調査報告書 計画書			カフェー主核型事例
4	ナンバウロ送付分析 計画書	竹中商会		養鶏主核型, 養蚕主核型
70	聞き取り調査 セロカチアより採り取り 原稿送付	アスンシオン支部		
3	アルトバラナより導入	アルトバラナ農場		(ペカン マカダミアナット)の栽培法 デューロックジャシー種5頭
40	調査研究会パンフレット			
3	ナンシピタン, シリグエセロコラ委託栽培	大石幸丸, 三浦良定		
10	アマンバイ農協会談室	アマンバイ農協		
15	研究会及び巡回指導 原稿送付	伊藤種鶏場		浅見技師 セルバドウルセカフェーの栽培法
40	各地区で講習会 パンフレットの配布	竹中商会		中川技師
12	懇談会 原稿送付	ブテ拓製糸LL 新朝日川木工 大山技師		谷口専務 ハッカ編
18	シリグエロ公民館 講習会			
	バストス, ガタバラ, ナンバウロ調査	ブラタク製糸LL		
7名	バストス5名 イグアス2名	ブラ拓, イグアス農場		
10	農協会集室に於て報告会	ア農協		技術, 養具価格, 市場等
10	全養蚕家巡回個別指導 ア農協会談室 全養蚕家隔日個別指導 報告書の提出	OTCA 成松技師 ブラ拓LL ブラ拓LL		養蚕経営前の注意事項 内野, 清水, 伊藤技師

## 普及活動上の反省と所感

47年度の営農普及活動は、モンテカフェーの調査報告、アマンバイ地区パイロットファーム育成5ヶ年計画報告書、営農ハンドブック、養蚕市場調査報告書と、主として調査報告書の編めに多くの時間を費した。

又他の業務にも忙殺され個別指導を行う時間的余裕は殆んど無かったといえる。

一般に営農普及活動は、(1)作目そのものの栽培普及 (2)栽培技術の普及 (3)経営技術の普及 この3つが併せ普及され始めて効を奏する訳けであるが、しかしこれを農家側から促えると、

まず、市場性・採算性が有って、小面積、小資本で、しかも、短期に資金が回収出来、種苗が容易に入手する作目であるとなると、即ち、これが経営上主幹となり得る作目となると、技術は自ら積極的にこれを習得するものであることが、今回の当地区養蚕で見せつけられた。それほど当地区養蚕の普及は迅速を極めたが、いかに主幹作目を渴望していたかが理解出来る。かくの如く、47年度は営農普及活動としては例年と比較して、手薄であったにも拘らず、養蚕をアマンバイの営農計画の中に採り入れんと企画して一年も経過しないうちに、農家側からの積極的アピールで、これをものにする迄に至らしめた事は最大の収穫であった。常にイニシヤチベは農家自身がとり、当団としてはこれに必要な批判を加えながら、側面的にバックアップして行くという方法が普及活動としては一番適り易く、且つ効果が大きい。

又資金難な農家が新機作目を導入する場合、企業との結び着きは有効な手段である。

## 昭和四十七年度ゼルパドウルセ委託栽培実績報告書

(アマンバイ出張所)

### I 実施場所

- |            |         |
|------------|---------|
| 1 シリグェロ地区  | 大石幸亀氏圃場 |
| 2 ナンハピタン地区 | 三浦良定氏   |
| 3 セロコラ地区   | 宮地広喜氏   |

### II 実施期間

自 1972年10月 至1973年3月

### III 実施目的

- 1 栽培方法の確立      2 栽培コスト調査      3 増殖

### IV 実施所見

47年度の委託栽培は種子及び苗の入手の防係で実施が遅延したので一栽培サークルを通じて観察調査することが出来なかったこと。

苗配布先きは3ヶ所であったが、2ヶ所は管理不良でそのうち一ヶ所は殆んど枯死、或る程度データーが採れたのは一ヶ所のみであったこと。

更に実施出来た供試面積も甚狭少であるので、これをして経済栽培規模の面積をも押し測ることは危険であるが、大凡の傾向は握り得たこと。種苗の増殖態勢が整ったこと。次年度の栽培では、いかなる点をどの様にテストするかの要領を農家が握り得たと思われるので委託栽培の効果は一応挙げたと確信する。

第一表 生育及び収量調査表

		シリグェロ地区大石幸他	
		A区 (第一回刈)	A区 (第二回刈)
供試区	供試面積	13m <sup>2</sup>	13m <sup>2</sup>
	植付年月日	1970. 10	1970. 10
刈取期の状況	親培距離	60cm×25cm	60cm×25cm
	活着株数/植付株数	108株/110	106/110
栽培成績	土 質	赤黒色 壤土	全 左
	刈取年月日	72. 10. 17	73. 1. 31
積	植付後刈取回数	1回	2回
	植付後又は刈取後生育日数	109日	107日
生育期間の条件	病虫害	病虫害少	病虫害多発
	刈取期の花の状況	着蕾 50%	着蕾 20%
積	平均茎長	74cm	63
	一株当りの平均本数	10本	9
積	生 茎 葉 重	1.2kg	6.10
	乾燥後 { 葉 重	2.08kg	1.02
積	{ 茎 重	1.38	0.97
	計	3.46	1.99
積	乾燥葉重/乾燥莖重×100	60.10%	51.30
	ha 当り換算乾燥葉重	1.600kg	1.020
積	一株当乾燥葉	20%	10
	生育期間中の降雨日数	38日	40
積	の降雨量	807mm	810
	気温(最高平均, 最低平均)	24.9℃ 15℃	28.7° 19.4°
積	積算温度	2,055°	2,529°



亀氏圃場 (株植繁殖)			サンハピタン地区 三浦良定圃場
B 区	C 区	D 区	E 区
42m <sup>2</sup>	44m <sup>2</sup>	100m <sup>2</sup>	150m <sup>2</sup>
1972.11.6	1972.11.5	1972.10.22~24	1973.3.12
60cm×25cm	80cm×40cm	60cm×25cm	60cm×30cm
92/275	132/147	423/655	700/740
全左	全左	全左	灰黒色砂壤土
'73.2.21	'73.2.21	'73.1.31	—
1回	1回	1回	—
107日	108日	102日	—
病害虫なし	なし	なし	なし
開花始め	開花始め	着實 40%	—
35	64	59	—
15	6	25	—
3.50	17.20	21.50	—
0.45	3.05	4.23	—
0.28	2.22	2.17	—
<u>0.73</u>	<u>5.27</u>	<u>6.40</u>	—
61.60	57.80	66.66	—
107	693	423	—
5	23	10	—
43	43	39	—
885	885	807	—
29° 20.6°	29° 20.6°	28.7° 19.4°	—
2.665°	2.6885	2.498°	—

## 1 圃場区別栽培及び生育概要

A区 A区は1970年10月に株植えたものを、2ヶ年間刈り取らず自然のまゝに放置しておいたものであり、第一回の生産葉は72年7月1日に親株から萌芽したものである。第一回刈取時の成育はすこぶる良好でこのまゝではha当年間5,000kgほどの収量を掲げ得るのではないかと思われたが、第二回目には生育初期より葉に斑点病が発生生育末期には下葉から落葉し、収量は半減した。

又一月の第二回刈取後は、茎長わずか10cm~15cmで生長がとまり、株の20%は、新根も新芽も出さず枯死したやに見受けられる。

従って第三回目は収穫不能といえるし、次春の生育も疑問視される。

B区 B区はカピタンバードの自生地から採集した株の根を細かく分け定植したものであるが、細分し過ぎたため2/3は枯死した。

又、活着したものも、植付後107日位では分葉がなされず第一回の収量は微量であった。第一回刈り後は全く萌芽を見ていない。

C区 A区と同一時期に定植した2年生の古株から新根と旧根を分け、旧根のみを植え付けたもので活着は良好、収量も第一回刈りだけを見ると新根を植え付けたD区と比し高い。

但し、2月21日刈り取り后再生株は1割で生育も全く不良、二回目の収穫は皆無である。

D区 D区はC区と同一株から新根のみを分離し、植え付けたものであるが、この時点では活着率も収量もC区と比して不良であった。

又、第一回刈り取り後は全く萌芽していない。

大石圃場(A区~D区)は高台平坦地の比較的肥乏な壤土であり施肥は全く行っていない。

植付時には、灌水したが、その他の時期には全く灌水を行っていない。概して生育期間中降雨が多く、灌水の必要もなかった。

A区は前記した通り、病害(斑点病)に犯されたが、降雨日数が多かったこと、株が三年目に入り、無肥料であるため老朽化したからかとも推測される。本病に対しては銅剤により4回消毒したが、卓効はなく、多大な被害を受けた。

又、一農作期間の刈り取り回数もA区で2回、B、C、D区ではたゞの一回のみに留まったことは予想外であった。

三浦圃場(E区)では、去年11月27日当所配布の苗1,000株を低地に仮植したが、数度か馬が没入被害されたのでデータとして記録出来ず、73年3月別ロッチ(カンボで灰白黒色の砂壤土)に定植したもの。

但し、本区では現在旺盛な生育をしているところから考え合せて、2~3月は気候的にまだ休眠する時期ではないと思慮されるが、大石圃場では何故萌芽しないかは大いに研究の余地がある。

## II 播種テスト

第二表 区別発芽成績表(大石圃場)

区分	播種面積	播種期	播種量	発芽開始	発芽前	発芽本数
A	1 m × 2 m	1972 12.14	100 ♀	12月26日	1月10日	285
B	1 × 2	12.14	100 ♀	12 26	1 10	422
C	1 × 1	1973 3.23	50			—
D	1 × 1	3.23	50			—

### 播種実施概要

- 播種床は柑橘の木が三角形になって日陰を形成している地点に設けた。従って人工的な日覆いは作らなかった。
- 床土は砂7割に対して腐植土3割を混合し、これを にかけて厚さ10 cmにおろした。
- 種子は播種一ヶ月前(72年11月頃)から少量ずつ自己の圃場で採取したものをみほぐし、B区に使用し更に同種を3ヶ月後C、D区に使用した。貯蔵は木綿袋に入れ常温中に置いた。
- A、C区は無処理、B、D区は播種後ナフクリン酢酸10万倍液を灌水したもの。
- 播種床の表面には、発芽開始期まで草ワラで被覆した。

### 考 察

- 今期は種子の入手が困難で大量に、しかも何回も試験することが出来なかった。  
又、発芽後の管理も適切を欠き3月中旬6日間続いた晴天に、大石氏が家を留守にしたので、播種床が乾燥し、1/3が枯死残苗も枯死寸前となったので、3月30日現在仮植を行っていない。
- A BとC Dは、同種子を同一条件下で播種したにも拘らず、3ヶ月以上遅れたC D区は全く発芽を見なかった。  
播種後、急速に発芽率が獲えることがわかったが、貯蔵方法にも問題があるかも知れない。
- B区のナフ酢処理区とA区の無処理区と比し約5割発芽率が高くなっているが、一回のみの成績では、これを有意義と断定すること。

## III 挿木テスト

### 第一回 1972年10月17日

50名方着蕾期の2年生株の茎を茎の先端部(緑色部)A、中部(薄緑色半木質部)B、基部(木質部)Cの3つに分け長さ12 cm~15 cmにいずれも葉節の下部から切断、Aの茎には多少葉を着け、B Cの茎は葉柄から葉を切り落し、それぞれ25本ずつ1 m × 1.5 mの砂箱に挿木。日光10~15名の入射程度に覆陰し、毎日一回適度に灌水した。

結果はA区にも数ほど枯死せず2ヶ月間生きていたが発根せずついには消失した。

又、Bでは8割、C区では2割葉柄 から新芽を出したが、1ヶ月頃から2ヶ月頃にかけて順次枯死した。

第二回 1972年10月18日

着苗10日前頃の2年生株の上部を約12cm~14cmに切断葉を落さず播種床にいわゆる天押しを行いその上から切ワラで被覆した。約70日間宵味を保っていたが結局発根するに至らなかった。

第三回 1972年12月13日

播種床と同一条件の床に第一回目と同様上・中・下の3部分に切りそれぞれ50本ずつA、B、2区に分けて押した。

A区は第一回と同様無処理

B区はナフタリン酢酸10万倍液に一昼夜浸漬処理後押した。

しかし、結果はA、B両区とも第一回のテストと同一傾向を示して失敗に終わった。

第四回 73年1月10日

第五回 2月30日

第四回、第五回は成育80日目の茎を3部に分け5本ずつ植木鉢の砂に挿したがやはり活着するに至らなかった。

考 察

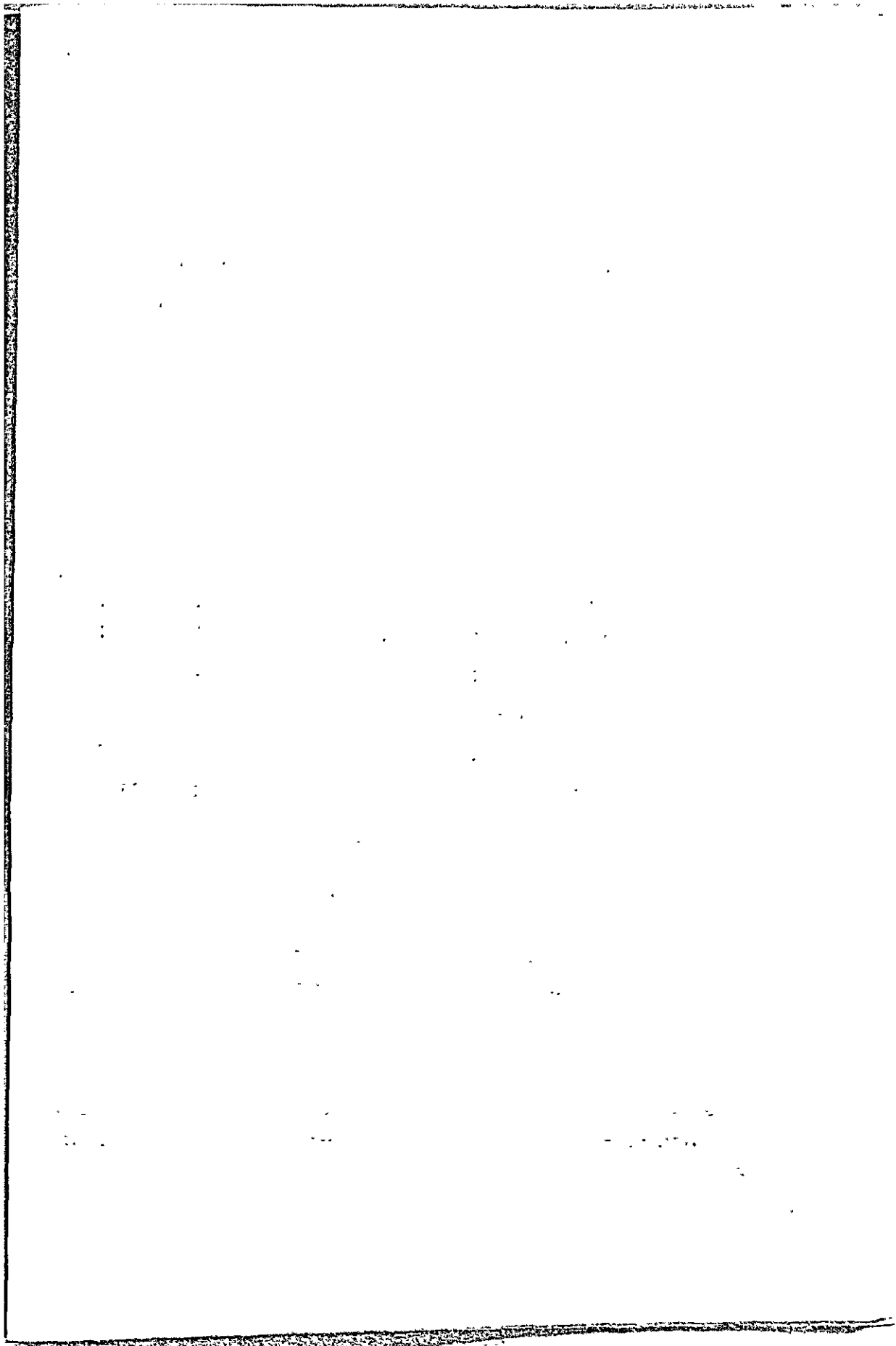
文献(バラグァイ)には挿木、取木が可能であるとされている。

内地でも挿木が成功したと報じられ、しかも極めて簡単であるとされている。

しかし、今回の委託栽培ではついに成功を見なかったことは残念である。

挿木時期、挿木苗の採取時期、切り取り部位、管理方法にチヨットしたキイポイントがあるかも知れない。

いずれにしても草花の菊を挿木する様な訳けにはいかないことは確かである。



第三表 栽培所要労働時間調査

		大石幸亀氏圃場					
		'72. 10. 17 刈取			'73. 2. 21 刈取		
		13m <sup>2</sup> の実積	1ha当り 換算	1ton当り 換算	44m <sup>2</sup> の実積	1ha当り 換算	1ton当り 換算
植 付	圃場整地	—	—	—	—	—	—
	苗掘り起し	—	—	—	—	—	—
	採分け	—	—	—	—	—	—
	植付	—	—	—	—	—	—
	灌水(植付時)	—	—	—	—	—	—
	小計	—	—	—	—	—	—
管 理	(除草)	—	—	—	—	—	—
	刈り取り	12分	時分 153:50	時分 96:00	分 50	時分 189:23	時分 273:00
	果柄運搬	15(結梨)	192:10	120:00	5(結梨せず)	18:56	27:30
	乾燥	8	102:33	64:00	15	56:49	82:30
	選果	100	1280:03	800:00	55	208:20	300:00
	調整	5	64:00	40:00	10	37:52	55:00
小計		2時30分	1792:36	1120:00	2時:15分	511:20	738:00

考 察

栽培所要時間は大石と三浦氏とでは全体の時間数はほぼ同様であるが、植付け作業内容別の作業時間は随分異にしている。

又収穫調整時間は同一人であるにも拘らず刈取り期によって大きな差異がある。

これは収穫量によって差異が出る他まだ要領を体得していないため、余分な手間を要することも確かだ熟練により労働時間短縮の可能性を多分に残している。

栽培コストの試算

今回の労力調査は極く小面積であり且つ事例も少ないのでこれにより栽培コストを試算することは適切ではないが、一応の目安を立てるために上表のデータから簡単に試算すると右表の如くなる。

			三浦良定氏圃場		1Ha当り	乾葉 1ton当	
'72.10.22~24 植付 '73.1.31 刈取			73.3.12 植付		平均	平均	備考
100㎡ 実積	1ha当り 換算	1ton当 換算	150㎡ 当実積	1ha当り 換算	所要時間	収穫所要 時間	
10分	時分 10:40	—	6分	時分 8:53	時分 12:47	—	耕運機使用
25	41:40	—	120	133:20	67:30	—	
35	58:20	—	160	177:46	118:00	—	
150	250:00	—	80	88:53	169:30	—	
60	100:00	—	90	100:00	100:00	—	
4時40分	466:40	—	7時38分	509:08	487:47	—	
60	100時00	—	30分	33:20	66:50	—	大石 4回 三浦 1回
55	91:40	216時	—	—	時分 145:00	時分 195:00	
5	8:20	20	—	—	73:32	55:50	
15	25:00	59	—	—	61:30	68:30	
60	100:00	236	—	—	529:41	445:20	
10	16:40	39	—	—	39:30	43:40	
2時25分	241:40	570時	—	—	849:13	809:20	

右表には、苗木の費用又は苗代乾燥場の償却費耕運機、排水ポンプの償却費、修理費、燃料費、或は新開地の場合の伏聞費借入金利息ボルト代も含まれていない。

第四表 Ha当りkg当りの栽培コスト試算表

植付費	61人(488)×250G/T×1/3年	=	5080G/T
除草費	4回×4人×年2回刈×250G/T	=	9000
収後調整	100人×年2回刈×250G/T	=	50000
粉砕費	2000kg×5G/T	=	10000
計			74000

○Ha当一年2回刈り年間2000kgとして算定  
○kg当単価37G/TS

Ⅳ サントドミンゴ支部

宮農普及活動実施報告書

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区名又は研究グループ名	対象件数又は実施回数
4月	宮農合理化経営改善	適地調査樹園地造成計画個別指導 土地改良、作物松植個別指導	散庄（パニー地区）	1回
5月			エストレージャ	1回
6月			ダハボン	2回
			ハラバコア コンスタンサ 南部地区	3回 2回 1回
7月	栽培技術改善 水稻展示園設定 （2期作0.5）	宮農座談会 巡回指導 実践活動 従来の栽培方法に対し日本式栽培を比較展示	ダハボン	2回
8月			ハラバコア	7回
9月	野菜栽培	宮農座談会 宮農情報	コンスタンサ 南部地区	5回 2回
10月	栽培技術改善並びに経営改善 水稲農家 野菜農家 畜産	宮農座談会（反省、計画） 巡回指導	ダハボン	1回
11月			ハラバコア	4回
12月			コンスタンサ	4回
			その他散在 ハラバコア コンスタンサ	1回 1回 2回
1月	栽培技術改善 経営改善 水稻展示園設定 （1期作 25クア）	苗代づくり稲種 育苗 田植；実地指導 宮農座談会	ダハボン	3回
2月			ハラバコア コンスタンサ	9回 5回
3月	野菜農家 畜産農家繁殖	宮農座談会 個別実地指導 直接購入指導	その他散在 ラ・ペーガ サンクリストバル	1回 1回



昭和48年3月

成		果	摘 要
当初目標	実現した成果	実現出来なかった要因	
種類、品種選定 栽培現況調査	3年計画でアグッカタ育苗をはじめに 栽培現況把握	資金力がなかった不適地 資金が少ない 議論ばかりで実行力が全くない	柑橘 水密により蔬菜が全滅、 果樹松植、その他来所出張個別営農改善指導 29件
栽培現況分析 問題点把握	試作田 増収栽培期間短縮で 大成果を得た同地区 では議論が下火になってきた 一部の農家が改善に 真剣に取り組む	反論募集要領 300タレア配分要 求等で全く成果があ がらない 実行せず反論ばかり 話を通じない	その他来所出張個別営農 改善指導 22件
栽培技術改善 年間常時栽培常時出荷 種苗あっせん 繁殖用肉牛導入	水稲栽培反指標把握 今年反省 来年の作 付計画に熱が入って きた クキイ種苗常時あっ せん3戸150頭導入	口はたつが、体が動 かない	その他来所出張個別営農 改善指導 58件
栽培技術改善 移転牛導入	展示園設定で地区全 体に改善に取り組む姿 勢が生まれた 一部の農家のみ、意 欲がみられない 熱心に取り組んでいる	展示園が遠距離、熱 意がない 負債が大きく資金不 足 体が動かない 人間関係がよくない	その他来所出張個別営農 改善指導 71件

宮殿担当者の体制

氏名	所属事業所名	年齢	普及活動経年数
三宅博敏	サントドミンゴ支部	44	1年3ヶ月

昭和48年4月現在

担当農家戸数	担当面積	普及上の機動力	備 考
ダバボン地区 16戸	約6,600クアレ (約400ha)	ライトバン 1台	ドミニカ全土に移住者が散在していることと、水稻、蔬菜、畜産、花卉、等多種多様の型態で担当者1名で全戸の普及は困難である。
ハラベコア 17戸			
コンスタンサ 11戸			
南 部 14戸			
サントドミンゴ 19戸			
東 部 4戸			
計 81戸			

昭和48年度宮農環境概況表

部 門	区 分	現 状
水 稲	ダハボン	1. 入植者戸数 1戸 12戸 2. 所有耕地面積 1232ha 1戸当平均10.2ha 3. 水稲収穫面積 1458ha 〃 〃 125ha 4. 農業租収入 92,680ペソ 〃 〃 7723ペソ 5. 農業経営費 67,966 〃 〃 5,664 〃 6. 農家所得 42,714 〃 〃 3,559 〃 7. カナールが改修されたが依然として水不足は解消されない。 8. 飲料水まで不足している
水 稲 蔬 菜 畜 産	ハラバコア	1. 入植者戸数 9戸 2. 耕地面積(含借地)120.6ha 1戸当平均13.4ha 3. 収穫面積 666ha 〃 〃 7.4 〃 4. 農業租収入 41,926ペソ 〃 〃 4,658ペソ 5. 農業経営費 39,466 〃 〃 4,385 〃 6. 農家所得 8,117 〃 〃 902 〃 7. 蔬菜は家庭菜園程度である。 8. 畜産は2家族が共同牧場を購入しているが肉牛は10頭余りである 9. 負債総額 48,434 1戸当り5,382ペソ
蔬 菜 畜 産	コンスタンナ	1. 入植者戸数 12戸 2. 耕地面積(含借地) 732ha 1戸当平均61ha 3. 収穫面積 879 〃 〃 73 〃 4. 農業租収入 113,206ペソ 〃 〃 8,708ペソ 5. 農業経営費 92,507 〃 〃 7,116 〃 6. 農家所得 23,958 〃 〃 1,843 〃 7. 負債総額 63,911 〃 〃 4,916 〃 8. 蔬菜を軽作栽培型で栽培している。 9. 畜産は2家族が肉牛を購入したばかりである。
水 稲 蔬 菜	その他散在	1. 散在者戸数 2. 借地で転々とし国内向輸出向蔬菜栽培 水稲栽培に従事している。 3. 散在の半数以上が職業を簡単に変え易い宮農は少ない。 4. 一か千金を夢みて地道な宮農に取り組まずごろごろしている。

昭和47年4月現在

問 題 点	対 策
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入植条件の300クレア土地配分を主張して、現在の経営に力が入らない。</li> <li>2. ガナールが改修されたが依然水不足</li> <li>3. 耕地が小区画のため作業能率が悪い</li> <li>4. 土地利用率が極めて低い</li> <li>5. 人夫と天候まかせの現地農法で経営も技術もない。加えて自家労力が十分使われている。</li> <li>6. 租収入に対する純益が少ない。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 300クレアの無償配分は不可能なため土地購入資金融資予算の大巾な増額</li> <li>2. 地下水の利用 深井戸新設予算確保</li> <li>3. 耕地整理推進並びに助成</li> <li>4. 栽培技術 経営改善 指導強化</li> <li>5. 水稲以外の永年作物、畜産への転換</li> <li>6. 勤労意欲の喚起</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 耕地が小区画加えて農道が極悪で作業能率が悪い。</li> <li>2. 人夫と天候まかせの現地農法で経営も技術もない。加えて自家労力は使われない。</li> <li>3. 租収入に対する純益が極めて少ない。</li> <li>4. 負債が大きく精米所、肥料店、金融業者に利用されている（営農資金不足）</li> <li>5. 一期作収穫が雨期のため不利な販売をしている。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 耕地整理、農道改修に対する助成</li> <li>2. 物共同乾燥場新設予算確保</li> <li>3. 営農資金融資枠拡大</li> <li>4. 栽培技術 経営改善指導強化</li> <li>5. 勤労意欲の喚起</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人夫と天候まかせの現況農法で経営も技術もなく加えて働かない。</li> <li>2. 耕地が老朽化している。</li> <li>3. 負債が大きい。</li> <li>4. 年間1作（アホー）にかける。</li> <li>5. 田売りで中間商人の買手市場である。</li> <li>6. 個人貸借に起因した人間関係が悪い。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 融資枠を拡大し旧債の借替</li> <li>2. 土地改良助成</li> <li>3. 共同集荷場冷蔵庫庫建設助成</li> <li>4. 勤労意欲の喚起</li> <li>5. 輪作による年間常時栽培、常時出荷、指導強化</li> <li>6. 栽培技術 経営改善指導強化</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 所有地がない。</li> <li>2. 借地法が成立して以来地主が借地させない。</li> <li>3. 人夫と天候まかせの現地農法で経営も技術もなく加えて働かない。</li> <li>4. 負債が大きい。</li> <li>5. 住宅と耕地が遠く離れている。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 土地購入資金 融資枠の大巾な増額</li> <li>2. 旧債の借替</li> <li>3. 勤労意欲の喚起</li> <li>4. 栽培技術 経営改善指導強化</li> </ol>

## Ⅴ プエノスアイレス支部

### アンデス事業所 営農普及活動実施報告書

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区名又は研究グループ名	対象件数又は実施回数
8	桃 ぶどうの剪定	INTA技師による巡回指導	各 戸	1 回
9	ポプラ苗のあっせん	事業所職員による配布	希望者に配布	1 回
12	霜害を受けたぶどう、桃の管理	内海腐託による指導	全戸に説明	1 回
2	畜産加工	米常男講師により実際を指導	全戸22戸	1 回

#### 普及活動上の反省と所感

普及、指導活動の反省と今後の方向（管内農業の方向との関連において）についての所感

比較的研究心に乏しく、自ら剪定を行ない肥培管理に当る気力が少ない。これは過去における作柄の不安定さに由来するものが見受けられる。

作柄の不安定の要因は気象災害、このうち、凍霜害による被害発生頻度が極めて高く、具体的な策を行えないまま今日に至った。

今後の方向としては、栽培技術の習得に加えて、凍霜害対策に積極的に取り組む趨勢と意欲を生みだすべく指導すると共に用水の効率的な使用を研究すべきと思われる。

#### 営農担当者の体制

氏名	所属事業所名	年齢	普及活動経験年数
笹崎 俊英	アンデス	39	6
羽村 弘	"	29	4
寺沢 マルト	"	30	9

昭和48年3月

成 績			摘 要
当 初 目 標	実現した成果	実現出来な かった要因	
判定技術の修得	判定の実際を知った こと		
防風林の育成	10戸が購入		
被害の早期回復	対策を知ったこと	資金的に肥料購入が 困難	
食品の保存	自給度の向上	1/2の家族が豚を飼 育していないこと	

昭和47年4月1日現在

担当農家戸数	担 当 面 積	普及上の機動力	摘 要
22	410	小型トラック	全職員が普及普及を担 当
22	410	"	
22	410	"	

ガルアベ - 事業所

宮殿普及活動実施報告書

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区名又は研究グループ名	対象件数又は実施回数
4	大豆の機械栽培	ql obnado 地区にて実地視察	農協理事	1回
3	パインの着果促進	ナフタリン銜袋による着果促進	沼田園	2回
6	柑橋ビールズ病講習	講習会(所長宅)	柑橋栽培者	1回
7	畜産普及指導	イグアス移住地の牧畜事情視察	畜産研究者11名	1回
8	畜産懇談会	懇談会	畜産研究者12名	1回
9	ブドウ栽培	委託栽培	栽培者(飯田)	1件
11	小豆栽培	北海道産小豆の委託栽培	, 沼田	2件
12	小豆栽培	台湾産小豆の委託栽培	小野, 築, 植松	3件
12	肉牛飼育	イグアス移住地視察	畜産研究者5名	1回
1	種牛の導入	パラグエイ総合試験場より種牛を1頭導入交配	畜産研究者	1回
2	植林振興	林野庁天田技令による講習会	植林農家18戸	1回
3	畜産振興	パ国総合試験場長大畑氏の実地指導	畜産農家	3日
	新規作物の試作	サンパウロ州より導入試作(柑橋類)	柑橋栽培者	1回



昭和48年3月

結		果	摘 要
当初目標	実現した成果	実現出来な かった要因	
大豆の栽培導入 12月出荷実施	機械導入栽培の可能性を知る	多雨による薬剤流出	( 訓 練 研 習 )
病因解明 牧野造成 肉牛の飼育法	苗木選定の知識 亜熱地域における牧 野造成法 肉牛 種選定		
牧畜計画の策定	肉牛 種の決定、牧 草導入の意欲		
収量調査、生育調査 生育収量調査 生育収量調査		試験の続行を必要 多雨による着果不良 天候不順による生育 結果不良	
牧畜計画の策定 種牛の導入	導入牧草の選定	芭蕉園における輸出 禁止	( 委 託 栽 培 費 ) ( 試 験 打 切 り ) ( 試 験 打 切 り )
亜国植林事情の概況 把握 病牛の	世界の植林事情につ いての知識 牧畜についての高度 な知識		
種苗導入	各種苗木の入手		( 営 農 費 及 費 )

### 普及活動上の反省と所感

高温多湿を一般的な気候とし、時には低温、旱魃も併せ存在するミシオネス州における農業は、極めて粗放的な営農であっても、或る程度迄の水準には到達するが、逆に一步前進するためには可成り高度な技術を必要とする。

柑橘における根腐れ病の発生等においても、此の種病気の発生は近辺類似地においては過去に例をみしており、早期に対策を樹立しておくべきであった事を感じる。

今后共、亜熱帯先進農業国ブラジルよりの技術を全面的に採り入れると共に、パラグアイにおける畜産技術、台湾樹栽培技術等を積極的に導入の上、ガルアペー移住地営農形態の確立を計り度い。

柑橘対策については引き続き無病苗を導入し、除々に病株との更新を計り、新種作物については、充分な委託栽培試験を実施の上、普及の選択を実施する。

### 営農担当者の体制

氏 名	所属事業所名	年 令	普及活動経験年数
土 生 幹 夫	ガルアペー	40才	15年
嶋 田 透 芳	・	32才	5年
松 田 猛	・	25才	1年

昭和47年4月1日現在

担当農家戸数	担当面積	普及上の機動力	備 考
30戸	3,000 ha	小型トラック	全職員が営農普及を担当
30戸	3,000 ha	〃	
30戸	3,000 ha		47年6月退職

